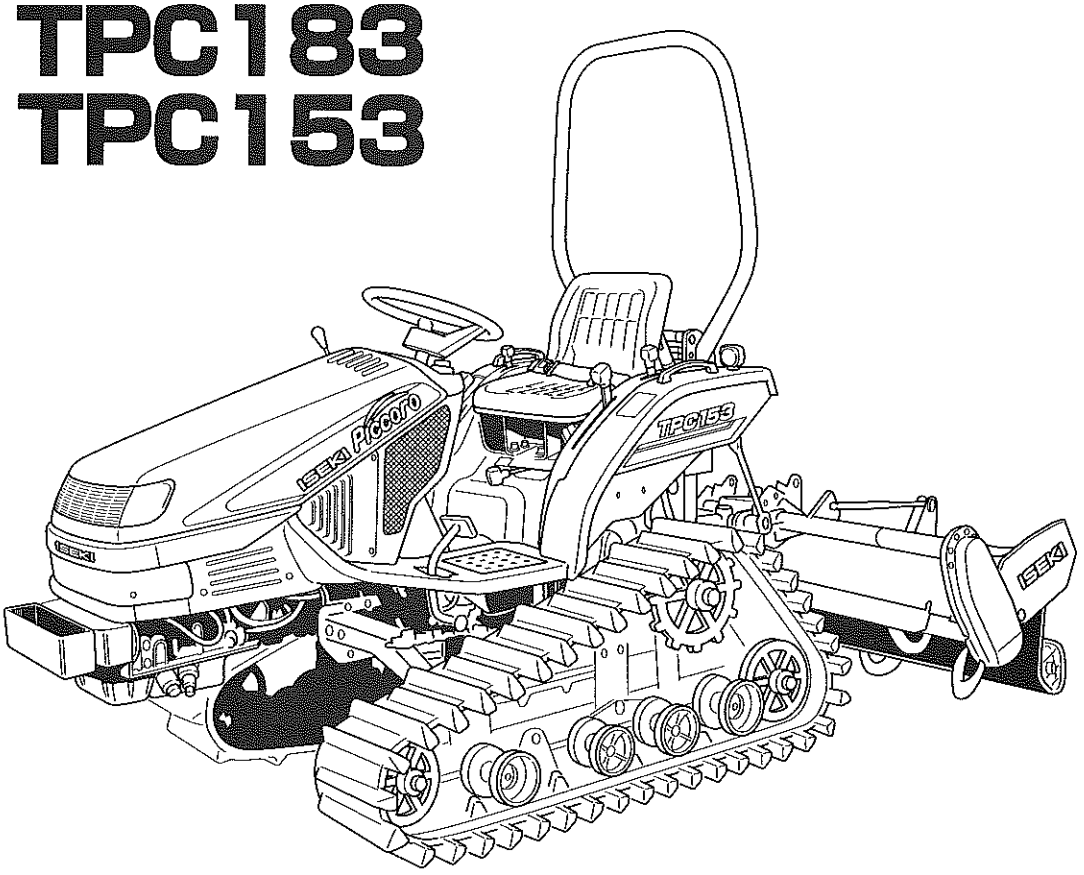
# セキ フルクローラ

## 取扱説明書

# ピコロ フルクローラ

## TPC213
## TPC183
## TPC153




ご使用前に必ずお読みください。

井関農機株式会社

# フルクローラ重要安全ポイント

1. 農道を走行するときは、
スピードを落し路肩に注意します。

2. ほ場へ出入りするときは、
スピードを落しあぜに直角に走行します。

3. フルクローラや作業機を点検調整するときは、必ずエンジンを停止し、
パーキングブレーキをかけ、油圧ロックをします。

4. 補助者と共同作業を行うときは、
合図をし安全を確認します。

5. 耕うん爪の点検や交換をするときは、
必ずエンジンを停止し、油圧ロックをします。

6. ロータリを着脱するときは、平坦な場所で低速で行います。
クローラとロータリの間に立たない。

7. 運転・作業をするときは、
回転部分には、手や体を近づけない。
必ず周囲の安全を確かめます。

この機械をお使いになるときは復唱してください。

安全に作業していただくため、ぜひ守っていただきたい重要安全ポイントは上記のとおりですが、これ以外にも本文の中で安全上ぜひ守っていただきたい事項を⚠を付して説明のつどとり上げております。
よくお読みいただくと共に必ず守っていただくようお願いいたします。

# はじめに

●この度は、ヰセキフルクローラをお買い上げいただき、まことにありがとうございました。

●この説明書は、フルクローラを安全にご使用していただくため、ぜひ守っていただきたい安全作業に関する基礎的事項とフルクローラを最適な状態で使っていただくための正しい運転・調整・整備に関する技術的事項を中心に構成しております。

●フルクローラを初めて運転される時はもちろん、日頃の運転・取扱の前にも取扱説明書を熟読され十分理解の上安全・確実な作業を心がけてください。

●この取扱説明書は、いつでも取り出して読めるよう大切に保管してください。

●フルクローラを貸与または譲渡される場合は、相手の方に取扱説明書の内容を十分理解していただき、この取扱説明書をフルクローラに添付してお渡しください。

●この取扱説明書を紛失または損傷された場合は、速やかにお買いあげ先にご注文ください。

●なお、品質・性能あるいは安全性の向上のため、使用部品の変更を行うことがあります。
その際には、本書の内容およびイラストなどの一部が、お買いあげいただいたフルクローラと一致しない場合もありますので、ご了承ください。

●もし、おわかりにならない点がございましたら、ご遠慮なくお買いあげ先にご相談ください。

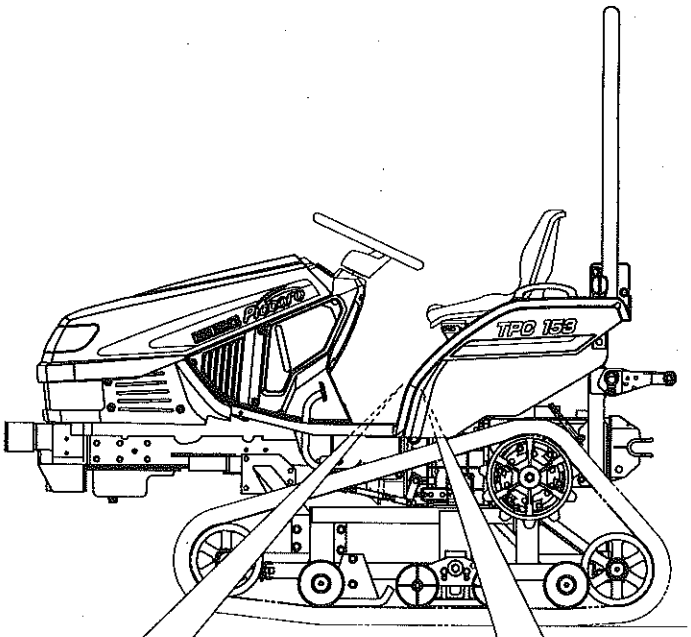
●取扱説明書の中の ⚠ 重要 表示は、下記の様に安全上、取扱上の重要なことを示しております。
よくお読みいただき、必ず守ってください。

| 表　示 | 重　要　度 |
|---|---|
| ⚠危険 | その警告に従わなかった場合、死亡又は重傷を負うことになるものを示しております。 |
| ⚠警告 | その警告に従わなかった場合、死亡又は重傷を負う危険性があるものを示しております。 |
| ⚠注意 | その警告に従わなかった場合、ケガを負うおそれのあるものを示しております。 |
| 重要 | 商品の性能を最大限発揮させるための注意事項を説明しております。 |

## ■型式内容と装備内容

この取扱説明書では、同じシリーズの型式・区分のフルクローラについて併記してあります。お買いあげいただいた、フルクローラの型式・区分名を、機体に貼付してある銘板で確認され、該当する部分をお読みください。

### 銘板の位置




〔販売型式名〕

(例)

ご確認頂きたい項目（型式名）

〔エンジン型式名〕

(例)

上記〔例〕の販売型式名　TPC153-CSXZP1

馬力 ——┘

└——本機装備……下表の記号に準ずる装備

| 区分記号 | 装　備　内　容 |
|---|---|
| C | クローラ |
| Q | ノークラッチ変速・リニアシフト |
| S | リニアシフト |
| X | 自動水平装置付 |
| Z | 逆転PTO・メカ式オートロータリ付、デラックス仕様 |
| P1 | 3点リンク（P1記号のない型式は2点リンク） |

# 目次


はじめに……i
　型式と装備内容……ii
目次……iii

## 安全のポイント

小型特殊自動車について……1
　小型特殊自動車とは……1
　市町村役場への届出と標識
　（ナンバープレート）の取付……1
安全な作業をするために……2
　運転者の条件……2
　作業をする前に……3
　トラックへの積み・降ろし……9
　作業中は……10
　点検・整備……12
　保管時は……14
　耕うん爪の点検や交換時……15
　ロータリの着脱・調整時……15
　運転・作業時……15
電装関係を取扱うときは……16
　電気配線点検時の注意事項……16
　バッテリ取扱い時の注意事項……17
　ブースタケーブル使用時の注意事項…18
安全表示ラベルについて……18
安全表示ラベル貼付位置……19
　ARP14・15（装着方式：2Pリンク式）…22
　ARP15・16（装着方式：特殊4Pリンク式）…22

## 保証とサービス

　商品の保証……23
　サービスネット……23
　補修用部品供給年限について……24

## 各部の名称

　全体……25
　後方……25
　レバー・ペダル関係……26
　スイッチ関係……27
　メータ・警告灯関係……27

## 作業前点検

……28

## 強度フレームの取扱い

安全作業について……31
強度フレームのたおしかた・おこしかた…32
　たおしかた……32
　おこしかた……32

## 運転のしかた

運転前の準備……33
　シート……33
　シートベルト……33
　バックミラー……33
　コンビネーションスイッチ……33
エンジン始動のしかた……34
　パーキングブレーキレバー……34
　ブレーキペダル……34
　ＰＴＯ変速レバー……35
　副変速レバー（TPC213）……35
　主変速レバー（TPC183・153）……35
　副変速レバー（TPC183・153）……35
　リニアレバー（TPC213）……36
　リニアレバー（TPC183・153）……36
　アクセルレバー……36
　クラッチペダル……36
　メインスイッチ……37
　エンジンオイル圧力警告灯……37
　バッテリチャージ警告灯……37
　水温警告灯……37
　システム異常警告灯……37
　暖機運転……38
エンジン停止のしかた……39
発進・走行のしかた……40
旋回のしかた……42
　フルクローラの進行方向操作……42
　旋回モードスイッチ……42

# 目次


坂道での運転……43
急な上り坂での発進……43
下り坂での運転……43
制動および駐車……44
運転中の作動確認……45
燃料計……45
アワーメータ……45
変速のしかた（TPC213）……47
副変速レバー……47
主変速ボタン……47
変速位置表示……48


## 作業のしかた


作業運転のしかた……49
走行速度……49
ほ場の出入り……49
ほ場での旋回……50
ＰＴＯの使いかた……50
ＰＴＯ軸回転速度……50
ＰＴＯ変速レバー……50
3点リンクの取扱いと作業機の取付け・取外し（P1仕様）……52
チェックチェーンの調整……52
トップリンクの調整……52
リフトシリンダの調整……52
リフトロッド取付け穴位置……53
作業機の取付け・取外し……54
バンパウエイト取付について……54
けん引作業について……54
油圧装置の使いかた……55
コントロールレバー……55
フィンガップレバー（TPC213）……56
油圧降下速度調節つまみ……57
バックアップスイッチ（P1仕様）……58
水平油圧装置の取扱い……59
スイッチの名称と操作……59
水平制御切換スイッチ……59
手動調節レバー……59
傾き調節ダイヤル……59
水平制御切換スイッチの操作方法……60
水平感度の切換方法……61
オートロータリの取扱い……63
耕深調整レバー……63
ケーブル（オート）の取付……63
感度の切換え（TPC183・153）……65
ケーブル（オート）の取外し……65
耕深の切換え……65
リヤカバーはね上げのとき……66


## 点検整備


定期点検整備箇所一覧表……67
点検・清掃・調整のしかた……70
ボンネットの開閉……70
エンジンオイル……70
エアクリーナの清掃……71
冷却水……72
ラジエータの清掃……73
燃料……74
ファンベルトの張り具合……75
バッテリの点検と取扱い……75
ミッションケースのオイル……77
クラッチペダル……77
ブレーキペダル……78
ゴムクローラの張り調整……79
遊輪・転輪他のオイルシールの点検……79
グリースアップ……79
ミッションオイルフィルタの交換……80
アクセルレバー……82
電気配線の点検と清掃……82
ヒューズおよびスローブローヒューズの取扱い……83

# 目次


格納時の取扱い……84
日常の格納……84
長期格納……84
クラッチカットオフアーム……85
長期格納後の使用……85

## ロータリについて

ロータリの取り付け・取り外し
（ARP14・15：2Pリンク式）……86
フルクローラへの取付けかた……86
ロータリの取り外しかた……89
ロータリの取り付け・取り外し
（ARP15・16：特殊4Pリンク式）……90
取り付け前の準備……90
フルクローラへの取付けかた……93
ロータリの取外しかた……96
作業に適した調整と使いかた……97
プレッシャスプリングの調整のしかた……97
サイドカバーの調整のしかた
（ARP14・15）……97
耕深調整のしかた……98
スタンドの使いかた……98
アトケシカバーの使いかた……99
手入れについて……99
耕うん爪について……99
耕うん爪の取り付けかた……100
爪配列……100
作業前の点検（日常点検）……102
点検箇所……102
ロータリの手入れと点検・整備
（2Pリンク式・特殊4Pリンク式共通）103
定期点検箇所一覧表……103
オイル量の点検と交換（ARP14・15）104
オイル量の点検と交換（ARP16）……105
グリースの補給……106
シールの組替え……106
耕うん爪の交換時期……106

## 不調時の処置

……107

## サービス資料

推奨潤滑油一覧表……113
主要諸元表（フルクローラ）……114
主要諸元表（ロータリ）……115
走行速度表（km/h）……115
付属品工具一覧表……116
主な消耗部品一覧表……116

## 注文部品一覧

……117

# 安全のポイント

本章では、機械を効率よく安全にお使いいただくために、必ず守っていただきたい事項を説明しております。十分に熟読されて、安全な作業を行ってください

## 小型特殊自動車について

> ⚠ このフルクローラは、小型特殊自動車として、道路運送車両の保安基準を満たしています。 ご使用の際は以下の点を遵守してください。

### ■小型特殊自動車とは

(1) このフルクローラは小型特殊自動車として道路運送車両の保安基準を満たしています。次のようなことは絶対にしないでください。

①フルクローラ各部構造の改造

②型式の異なるエンジンの搭載

③各封印部の開封

これらの改造変更は、「不法改造」に該当し、違反行為となり、一切の保証はいたしませんのでご注意ください。

### ■市町村役場への届出と標識（ナンバープレート）の取付

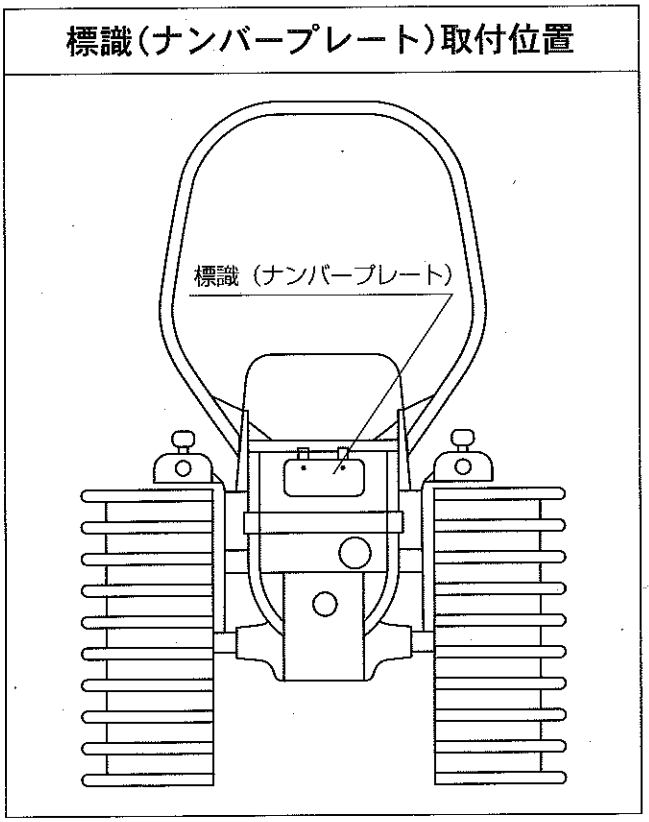
(1) このフルクローラの所有者となられた方は、市町村条令の定めにより市町村役場に届け出て、標識（ナンバープレート）の交付を受けなければなりません。

(2) 届出には、軽自動車税申告書（市町村役場にあります）に必要事項を記入の上、印鑑を添えて市町村役場へ提出してください。

尚、届出の手続きは、市町村により異なることがあるので詳細は市町村役場または「お買いあげ先」にご相談ください。

(3) 交付された標識（ナンバープレート）は、フルクローラ後部の標識（ナンバープレート）取付場所に取り付けてください。

標識（ナンバープレート）取付位置



# 安全な作業をするために

本章では、機械を効率よく安全にお使いいただくために、必ず守っていただきたい事項を説明しております。十分に熟読されて、安全な作業を行ってください。

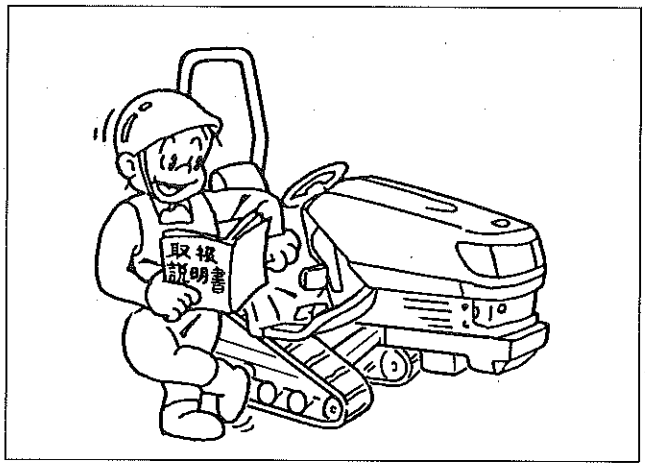
ここに記載されている注意項目を守らないと、死亡を含む傷害や事故、機械の破損が生じるおそれがあります。

※ご購入された商品（型式）によっては該当しない内容も一部記載していますのでご了承ください。

## ■運転者の条件

### 取扱説明書の熟読

この「取扱説明書」をよく読むことからはじめてください。これが安全作業の第一歩です。

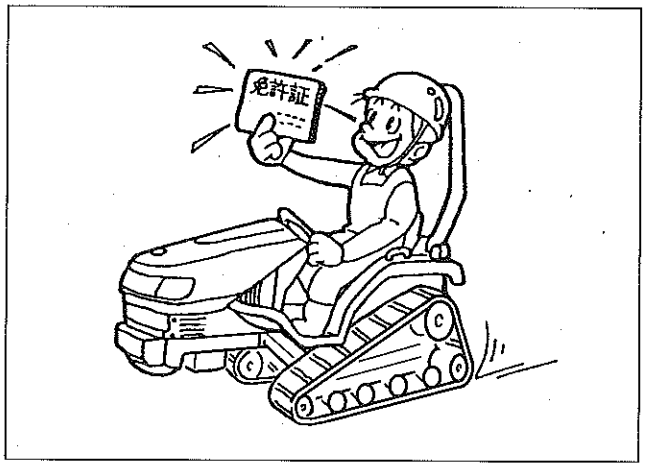



### 運転免許証の携帯

このフルクローラの運転には、小型特殊自動車の運転免許が必要です。

運転中は、必ず運転免許証を携帯してください。

１８歳未満の人は運転しないでください。




### ⚠ 警告

### 体調について

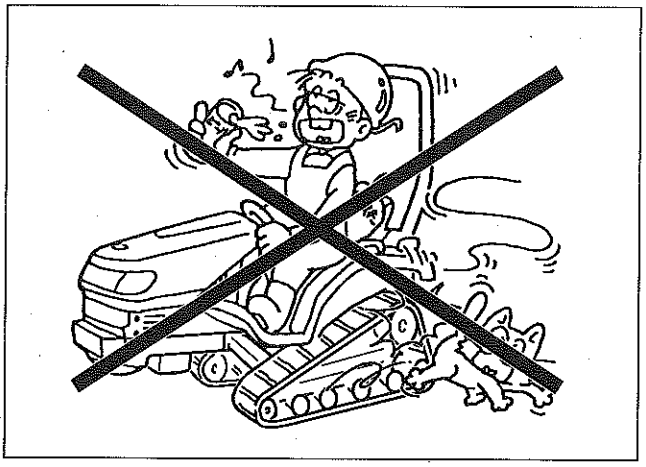
飲酒時や過労、病気、薬物の影響、その他の理由により、作業に集中できない時は作業をしてはいけません。

作業するときは、必ず心身とも健康な状態で行ってください。

妊娠している人は運転しないでください。

**【守らないと】**

誤操作などで思わぬ事故を引き起こします。



⚠ 警告

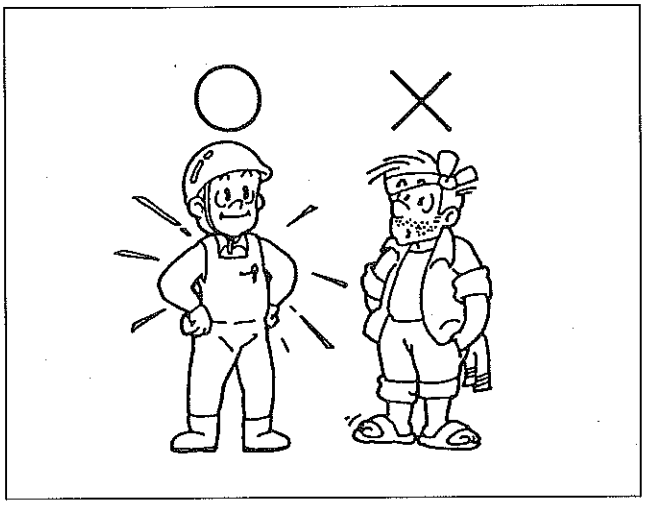
**服装について**

服装は作業に適したものを着てください。

ヘルメットや適正な保護具も着用してください。

**【守らないと】**

機械に巻き込まれたり、滑って転倒し、傷害事故を引き起こすおそれがあります。



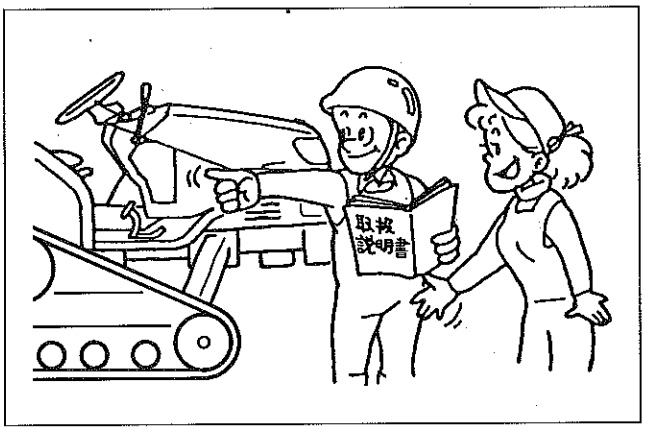
⚠ 警告

**機械を貸すときは正しい使い方の指導**

機械を貸すときは、取り扱いの方法をよく説明し、使用前に取扱説明書を熟読するように指導してください。

**【守らないと】**

借りた人が、機械の運転に不慣れなため、思わぬ事故を引き起こすことがあります。




## ■作業をする前に

⚠ 警告

**無理のない作業計画で**

無理のないゆとりある作業計画をたてましょう。

**【守らないと】**

あせりなどから思わぬ事故を引き起こすことがあります。

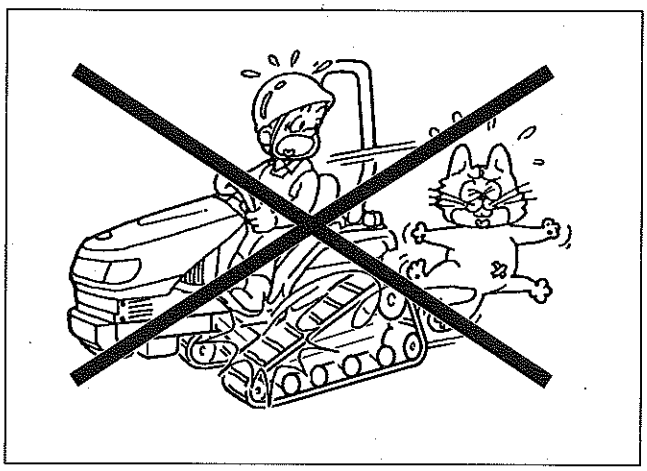
⚠ 注意

**エンジンの始動は周囲を確認してから**

エンジンを始動するときは、必ず座席に座って、変速レバーやその他レバー類の位置と、周囲の安全を確認してから行ってください。

**【確認しないと】**

傷害事故を引き起こす原因になります。



⚠ 注意

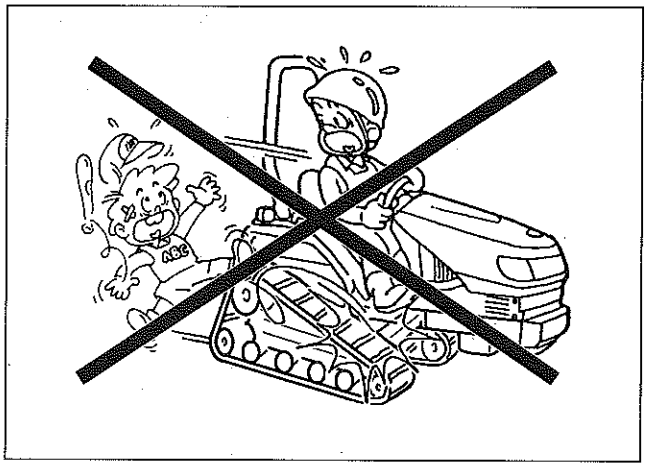
**急発進は危険**

発進するときは、周囲の安全を確認して、ゆっくり発進してください。

(特に子供に注意してください。)

**【怠ると】**

傷害事故を引き起こすおそれがあります。



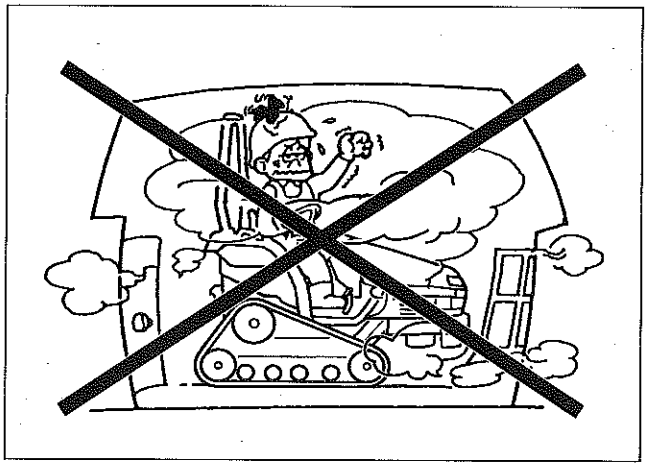
⚠ 注意

**室内では十分に換気を**

室内でエンジンを運転するときは、窓や戸を開けて、換気を十分に行ってください。

**【守らないと】**

排気ガスによる中毒を起こし、死亡事故にいたるおそれがあります。



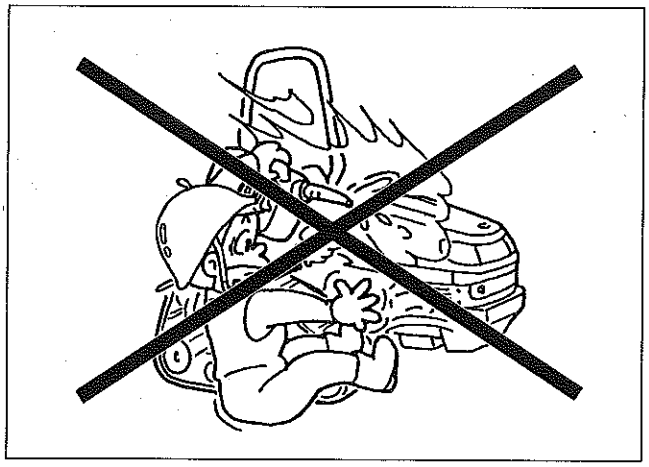
⚠ 危険

**燃料補給時火気厳禁**

燃料を補給するときは、くわえタバコなどの火気厳禁です。

**【怠ると】**

燃料に引火し、ヤケドや火災の原因になることがあります。



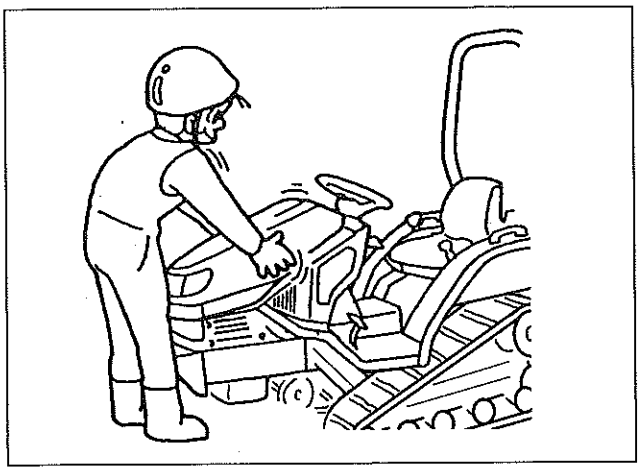
## ⚠ 注意

**安全カバー類の装着確認**

フルクローラを運転する前に安全カバー類が外されたままになっていないか確認しましょう。

**【取り付けないと】**

機械に巻き込まれたりして、傷害事故を起こします。



## ⚠ 警告

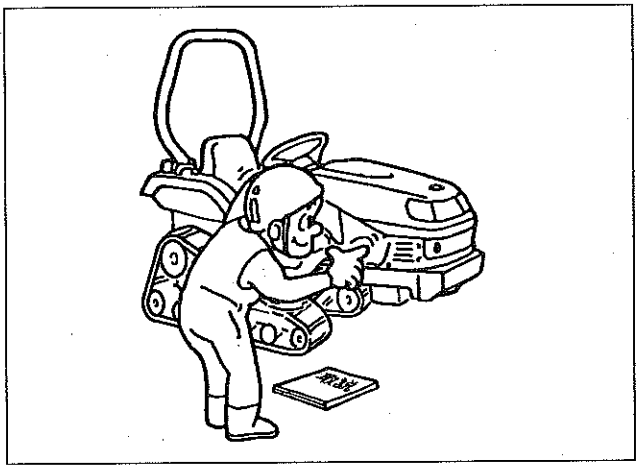
**日常点検について**

作業する前に、この取扱説明書を参考に必要な点検は必ず行ってください。

特に、ブレーキおよび主クラッチ関係は、忘れないでください。点検を怠ると、ブレーキの効きが悪かったり、クラッチが切れなかったりして、走行中や作業中の思わぬ事故につながります。

**【点検しないと】**

死亡事故や傷害、機械の破損の原因になります。



## ⚠ 警告

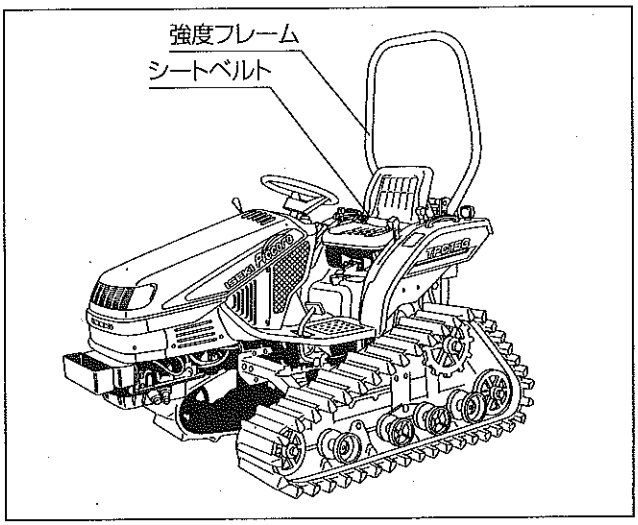
**強度フレームの取扱い**

強度フレームは、正しく装着された状態で運転してください。

フルクローラを使用するときは、確実に強度フレームを立てた状態にし、必ずシートベルトを着用してください。

**【怠ると】**

転倒したときに重大事故を引き起こすことがあります。




強度フレームは安全作業上大切な装備ですので、31ページの「強度フレームの取扱い」をお読みください。

## ⚠ 警告

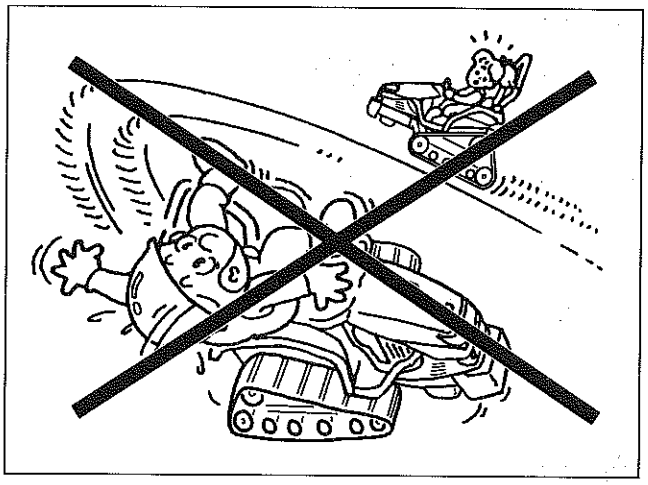
**急旋回禁止と坂道走行**

高速での急旋回や、坂道での急旋回はしないでください。

また坂道を上るときは、低速でゆっくりと、下るときは、エンジンブレーキをかけ、決して変速レバーを中立状態にしないようにしてください。足ブレーキの多用は、ブレーキを傷めます。

**【怠ると】**

スリップや転倒事故を引き起こします。



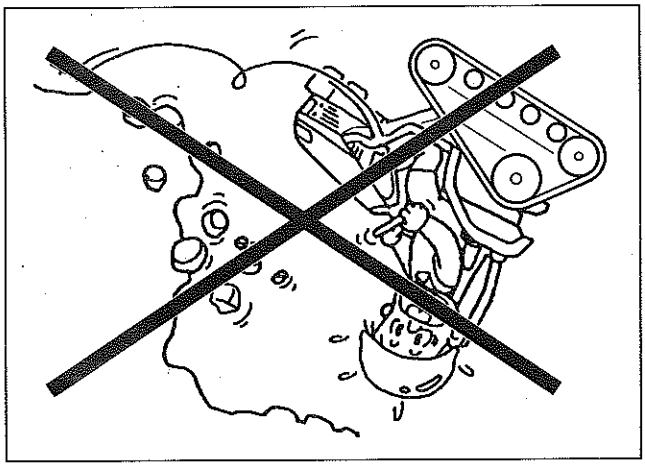
⚠ 警告

**高速走行**

凹凸の激しい道路での高速走行は、しないでください。路面状態に応じた安全な速度で走行してください。

**【怠ると】**

衝突・転倒・転落事故を引き起こすおそれがあります。



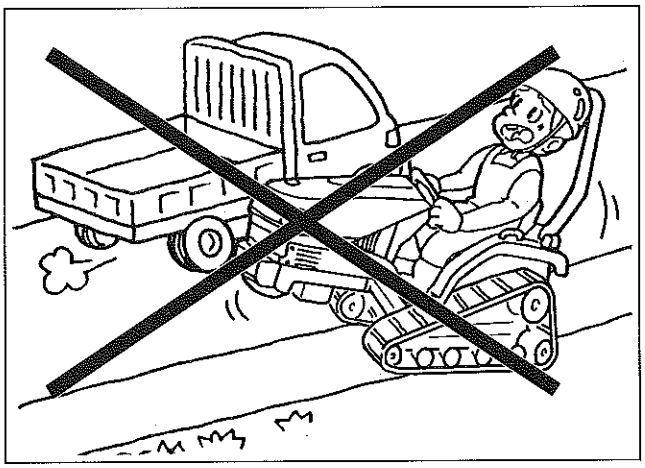
⚠ 警告

**農道では路肩に注意**

側溝のある農道や、両側が傾斜している農道を走行するときは、速度を落として十分注意して走行してください。

**【守らないと】**

路肩が崩れて、転倒したりして大変危険です。



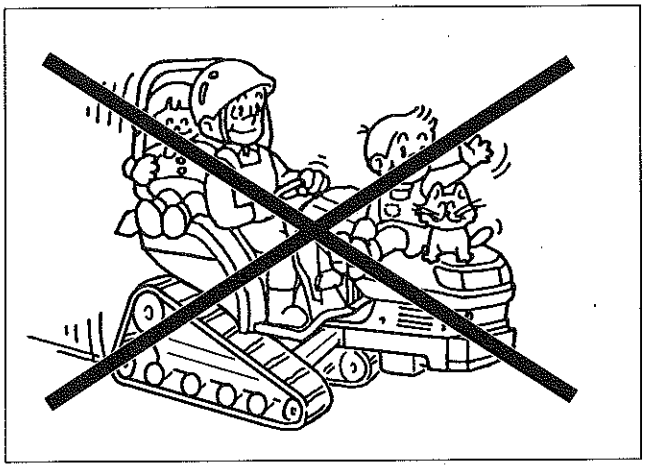
⚠ 警告

**同乗禁止**

フルクローラの上や連結部には、いかなる場合も、絶対に人は乗せないでください。

**【守らないと】**

人が転落したりして大変危険です

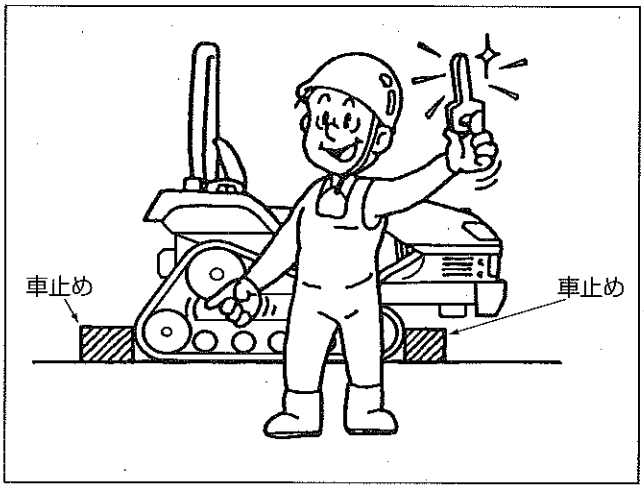


## ⚠ 注意

### フルクローラから離れるとき

フルクローラから離れるときは、エンジンを停止し、キーを抜き取り、パーキングブレーキをかけ、車止めをしてください。

また、止めるところは、平坦な広い地面の硬い場所を選んでください。




**【守らないと】**

フルクローラが、自然に動き出したりして大変危険です。

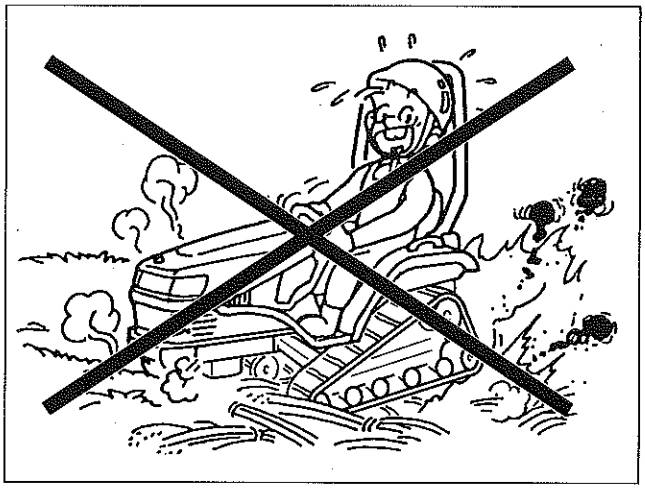
## ⚠ 警告

### 草やワラの上での停車禁止

フルクローラを草やワラの上に止めて空吹かしをしたり、高回転にしたりしないでください。

**【守らないと】**

排気管の熱や排気ガスにより、ワラなどに着火し火災の原因となることがあります。



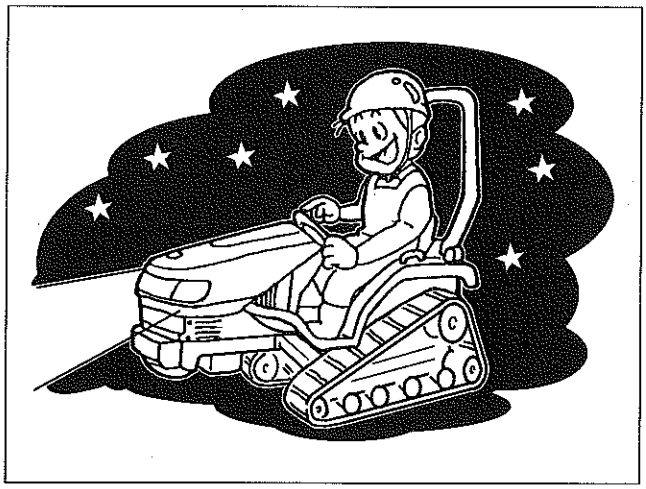
## ⚠ 警告

### 夜間走行

夜間にフルクローラの運転をするときは、変速レバーやその他レバー・ペダル類の位置の確認を、特に注意して行ってください。

**【確認しないと】**

予想外の作動をしたりして大変危険です。



## ■トラックへの積み・降ろし

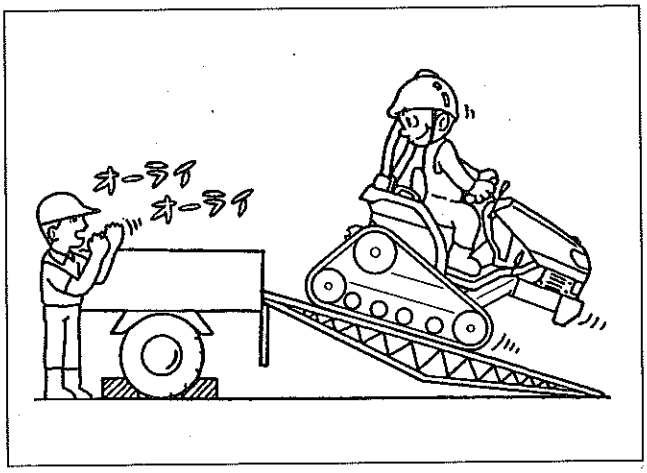
### ⚠ 警告

**トラックの状態**

積み込むトラックは、エンジンを止めて、変速を「P」「1速」または「R」位置にして、パーキングブレーキをかけ、車止めをして行ってください。

**【怠ると】**

積み・降ろし時、トラックが動いて転落事故を引き起こすおそれがあります。




### ⚠ 注意

**誘導者**

誘導者を付けて、周囲の安全を十分確認して行ってください。また、機械の直前や直後、真横には、絶対に立たないでください。

**【守らないと】**

傷害事故の原因になり大変危険です。

### ⚠ 警告

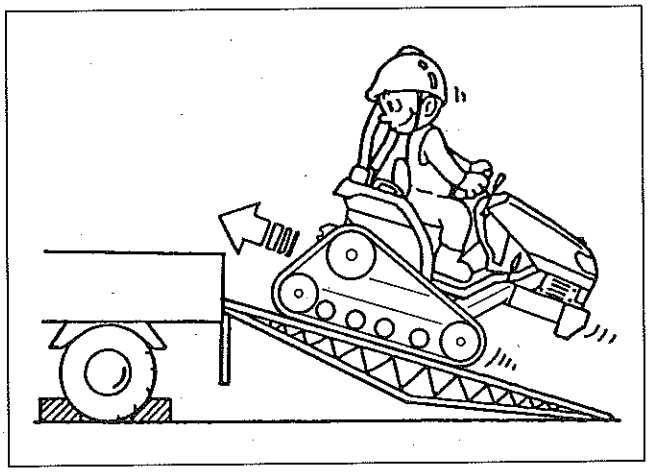
**アユミの使い方**

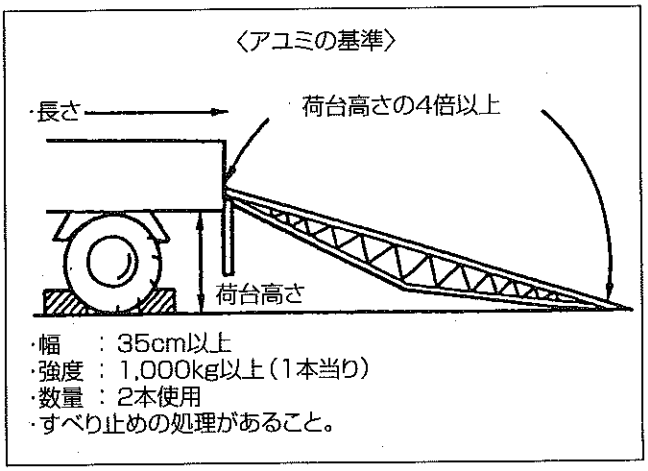
積み・降ろしは、強度・幅・長さの十分あるスリップしないアユミを使用し、直進性を見定めて、積む時は「後進」、降ろす時は「前進」で、ゆっくり行ってください。

アユミは、基準以上のものを使用しフルクローラの重量でアユミが傾かない場所を選んでください。

アユミのフックは、荷台に段差のないように、また、ずれないように確実に掛けてください。

また、万一に備えて、フルクローラの周りには人を近づけないでください。






**【怠ると】**

転落事故の原因になり大変危険です。

アユミの上を移動中はなるべくステアリングを回さないでください。大きなステアリング操作は危険です。

**【守らないと】**

急に機体が振られて転落するおそれがあります。

### ⚠ 警告

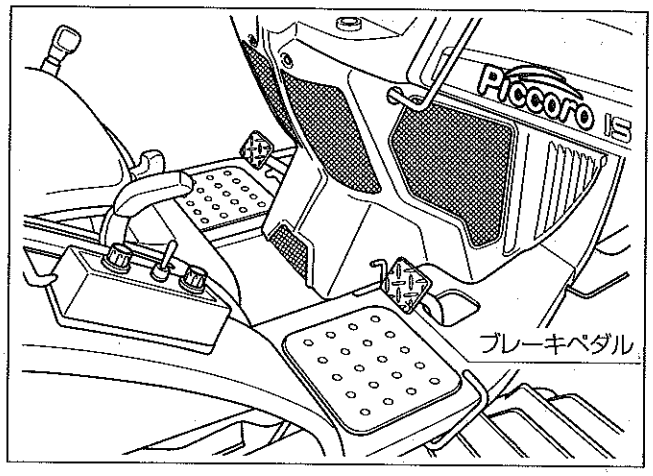
**トラックへの積み・降ろし**

クラッチペダルを踏込んだり、ブレーキペダルを踏込んだりしてはいけません。

万一、途中でエンストした場合は、すぐブレーキペダルを踏込み、その後徐々にブレーキをゆるめ、いったん道路まで降ろし、あらためてエンジンを始動してから行ってください。

**【守らないと】**

転落事故の原因になり大変危険です。



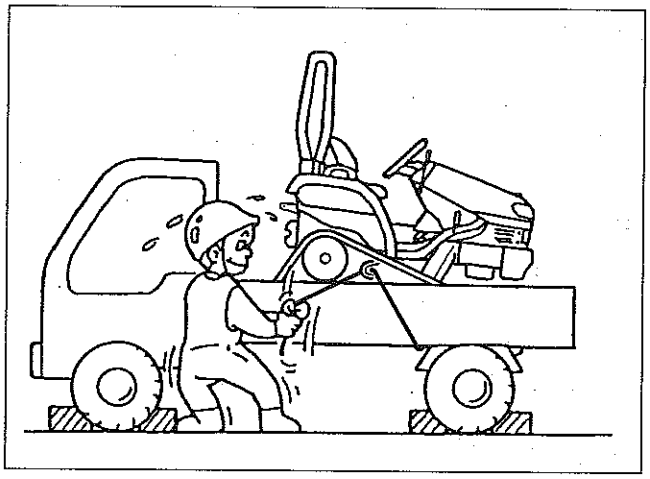

### ⚠ 注意

**ロープ固定**

トラック等で運搬するときは、フルクローラにパーキングブレーキをかけた後、必ずロープ等で荷台に固定してください。また、運搬中は、不必要な急発進・急旋回・急ハンドルをしてはいけません。

**【守らないと】**

フルクローラが移動して大変危険です。



## ■作業中は

気象条件などに注意して、作業実施の判断、作業方法や装備の選択に十分配慮してください。

### ⚠ 警告

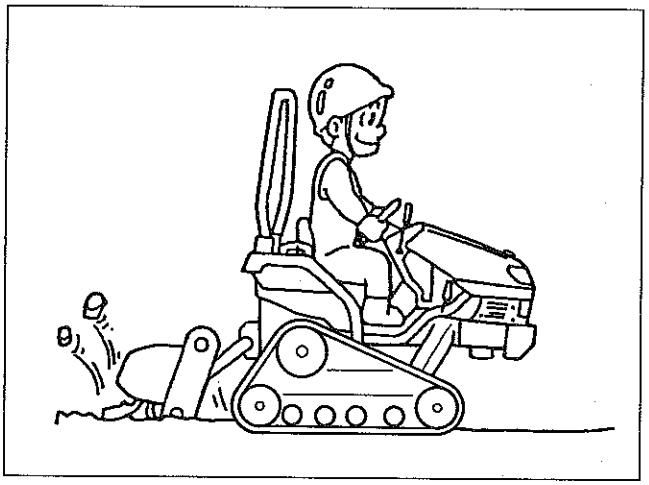
**作業中は回りの人に注意（特に子供）**

作業中は、作業者以外の人を機械に近づけてはいけません。

作業を開始するときは、周囲の安全を確認し、特に補助者とともに作業するときは、ホーン等で合図してから行ってください。

**【怠ると】**

傷害事故を引き起こすおそれがあります。



**⚠ 警告**

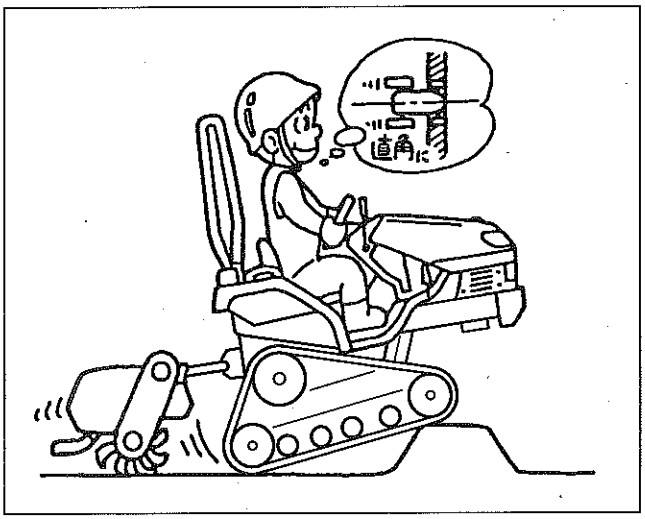
**畦越え時の注意**

(1)畦を横断するときは、作業機の回転を止め作業機を低くして低速で、畦と直角にゆっくり走行してください。

(2)畦の高さが高いところでのほ場の出入りでは、必ずアユミを使用してください。

**【怠ると】**

衝撃で機械を破損させたり、スリップや転倒し傷害事故を起こすことがあります。



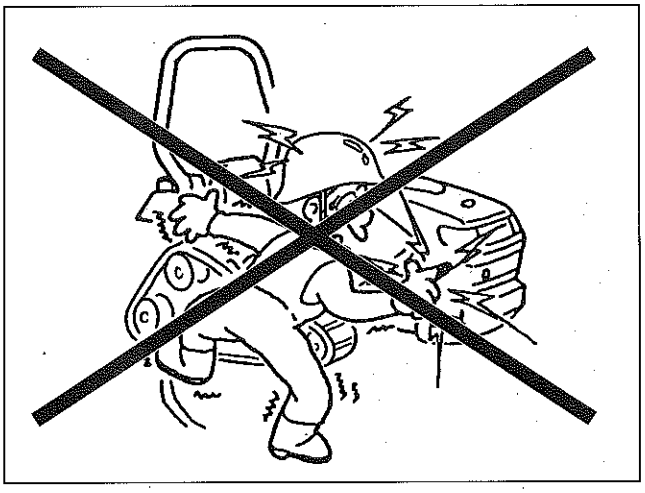

**⚠ 警告**

**危険な箇所への注意**

回転部や作業部・マフラ・ラジエータ・エンジン等の過熱部、バッテリ端子等の通電部など危険な箇所には、手を触れないようにしてください。

**【守らないと】**

傷害事故の原因になることがあります。



**⚠ 警告**

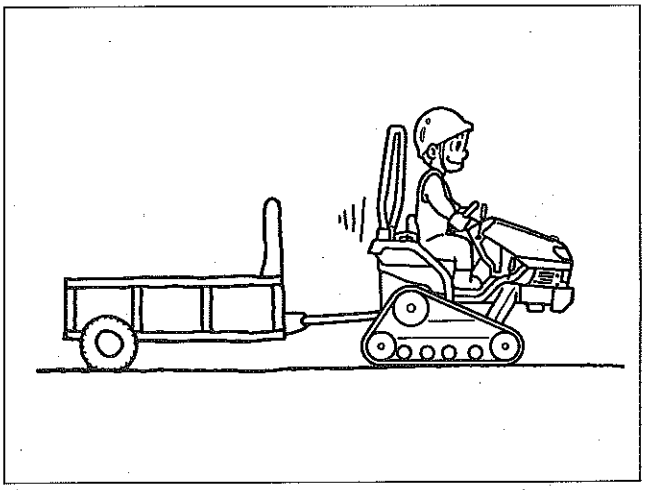
**けん引作業**

けん引作業は、フルクローラ用純正ドローバを使用してください。けん引はこのフルクローラに合った作業機を使用してください。

不明な点がありましたら、「お買いあげ先」に相談し、無理なけん引は避けてください。

**【守らないと】**

傷害事故の原因になることがあります。



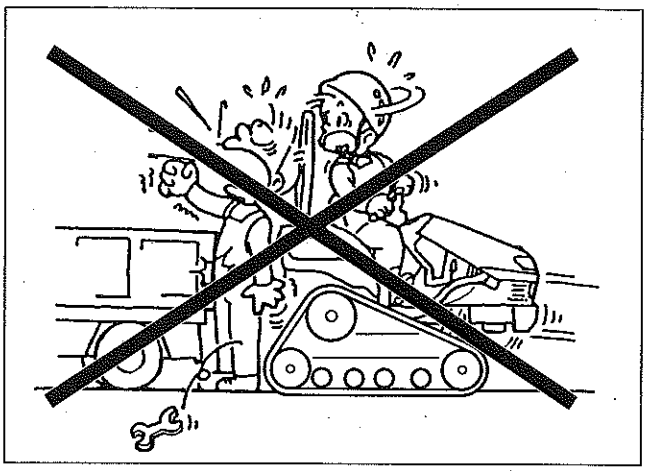
### ⚠ 警告

**作業機の取付け取外し**

作業機の取付け取外しは、フルクローラと作業機の間に立ってしないで、脇から扱うようにしてください。

**【怠ると】**

フルクローラと作業機の間にはさまれたりして、傷害事故を起こす原因になります。



### ⚠ 注意

**夜間作業**

夜間作業をされる方には作業灯（注文部品）の装着をお勧めいたします。

道路走行中には絶対に作業灯を点灯しないでください。

## ■点検・整備

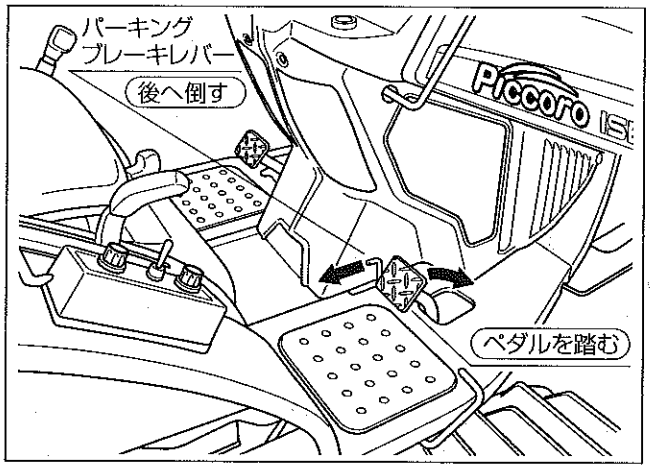
### ⚠ 注意

**平たんな硬い場所**

点検・整備するときは、明るく平たんな広い場所で行ってください。

**【怠ると】**

思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。



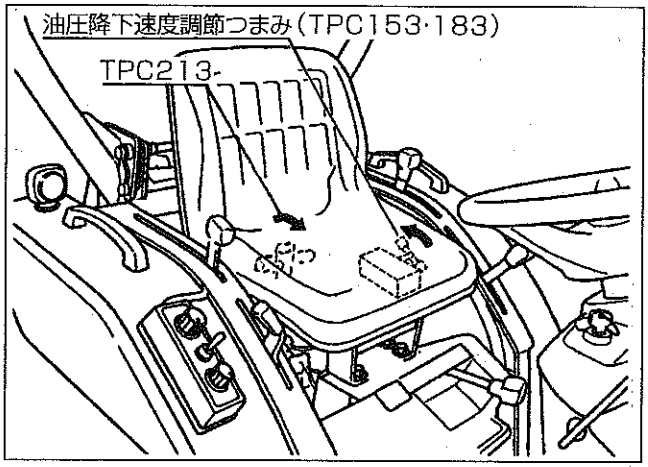

### ⚠ 警告

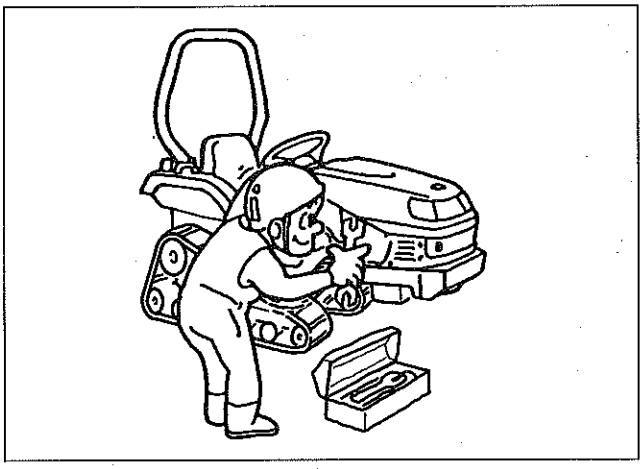
**点検・整備はエンジンを止めた状態で**

必ずエンジンを停止し、パーキングブレーキをかけ、油圧降下速度調節つまみを回して油圧をロックしてから行ってください。

**【怠ると】**

手や衣服が巻き込まれたり、はさまれたりして大変危険です。





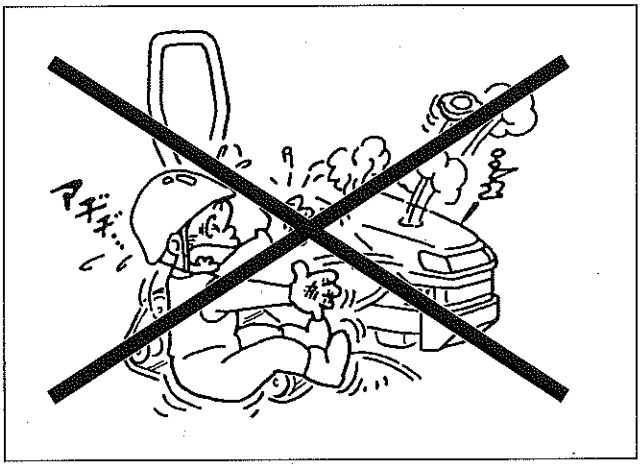
### ⚠ 注意

**点検・整備は適正な工具で**

適正な工具を正しく使用して行ってください。

**【不適正な工具で行うと】**

整備中の傷害事故や整備不良による思わぬ事故を引き起こし大変危険です。




### ⚠ 警告

**過熱部分は冷えてから**

(1) エンジンが停止後すぐに、点検・整備をしてはいけません。エンジンなどの過熱部分が、完全に冷えてから行ってください。

(2) ラジエータキャップは、エンジン運転中及び停止直後に開けないでください。運転停止後10分以上たってよく冷えてから注意して開けてください。

**【怠ると】**

熱湯が噴出してやけどをする危険があります。

### ⚠ 警告

**機械の改造は厳禁**

指定以外のアタッチメントの取付や、改造は絶対にしてはいけません。

**【守らないと】**

故障や、事故の原因になり大変危険です。

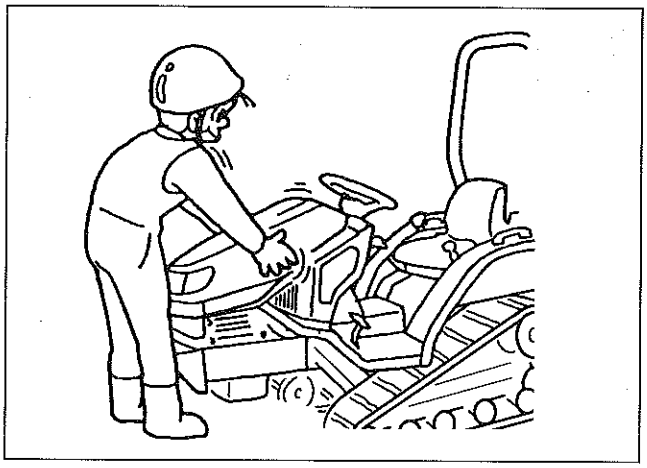
### ⚠ 注意

**カバー類は元通りに**

点検・整備で取り外した安全カバー類は、必ず元の通りに取り付けてください。

**【取り付けないと】**

機械に巻き込まれたりして、傷害事故を起こします。



## ■保管時は

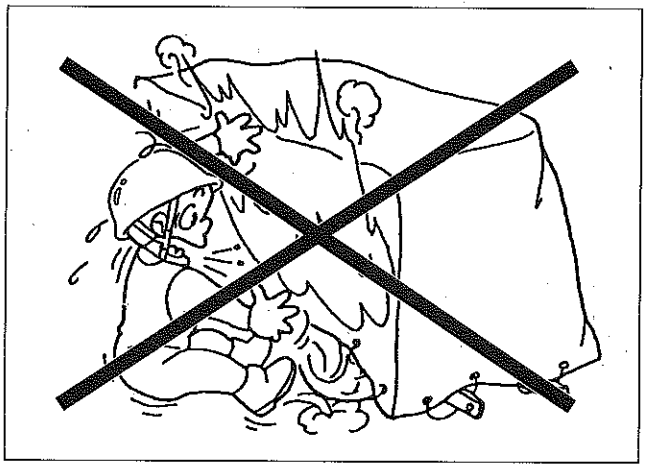
### ⚠ 警告

**シートカバーはフルクローラが冷えてから**

作業が終了して、シートカバーなどを機械にかけるときは、過熱部分が完全に冷えてから行ってください。

**【守らないと】**

火災の原因になることがあります。



**⚠ 警告**

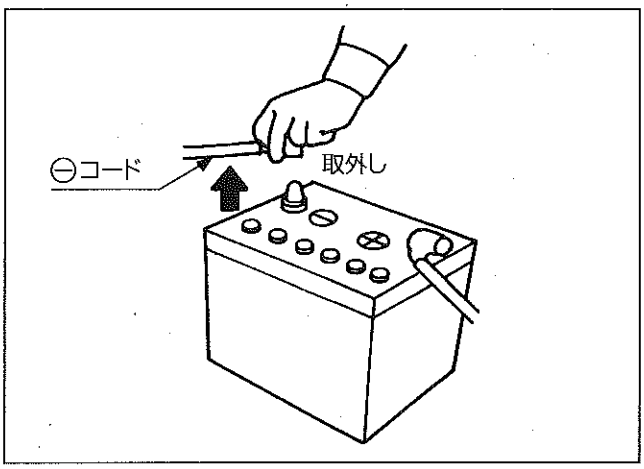
**バッテリケーブルを外す**

長期格納する場合は、バッテリケーブルを外しておいてください。

外すときは⊖コードから外してください。

**【守らないと】**

ネズミ等がかじったとき、ケーブルがショートし、発火して火災の原因になることがあります。

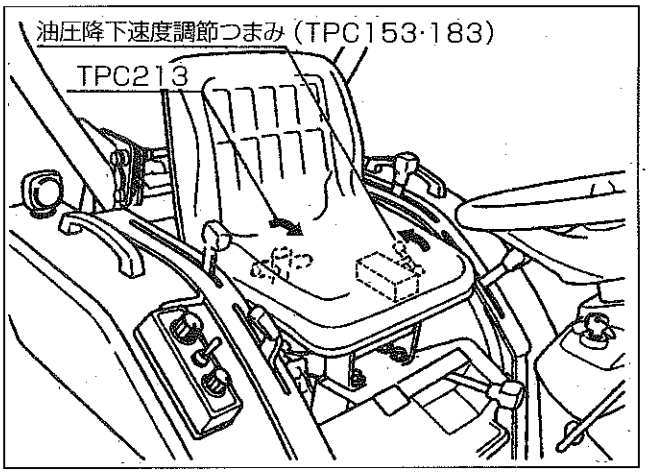



## ■耕うん爪の点検や交換時

(1)エンジンを止める。

(2)油圧降下速度調節つまみを「ロック」の位置にする。

(3)パーキングブレーキをセットする。

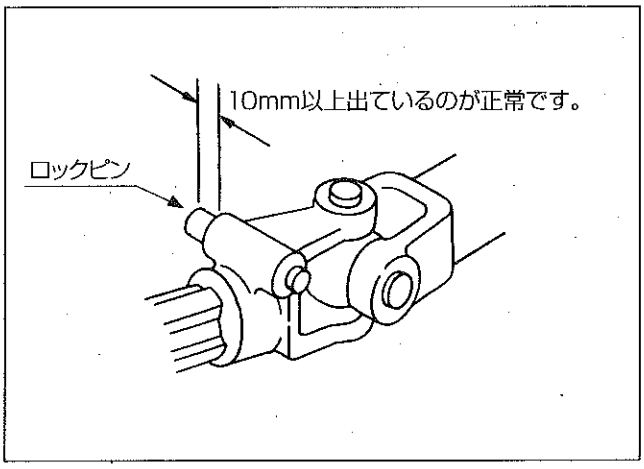



## ■ロータリの着脱・調整時

(1)フルクローラを移動してロータリを装着する場合、平坦な所で、低速で行いフルクローラとロータリの間に立たない。

(2)必要以外はエンジンを止める。

(3)リフトロッドの止めピンやユニバーサルジョイントのロックピンが外れていないか確認する。




## ■運転・作業時

(1)ユニバーサルジョイントや爪軸等の回転部分には、手や体を近づけない。

(2)ロータリの上に乗らない。

(3)ロータリを持ち上げ、バック及び急旋回する時は、必ず周囲の安全を確認する。

# 電装関係を取扱うときは

## ■電気配線点検時の注意事項

### ⚠ 警告

(1) 電気配線の点検は、必ずエンジンを停止して行ってください。

**【守らないと】**

手や衣服を回転部に巻き込まれたりして大変危険です。

(2) 接続部の点検は、メインスイッチを「停止」にし、バッテリの⊖コードを外して行ってください。

**【怠ると】**

火花がとんだり・感電したり思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。

(3) 配線の端子や接続部のゆるみ及び配線の損傷は、早めに交換・修理してください。

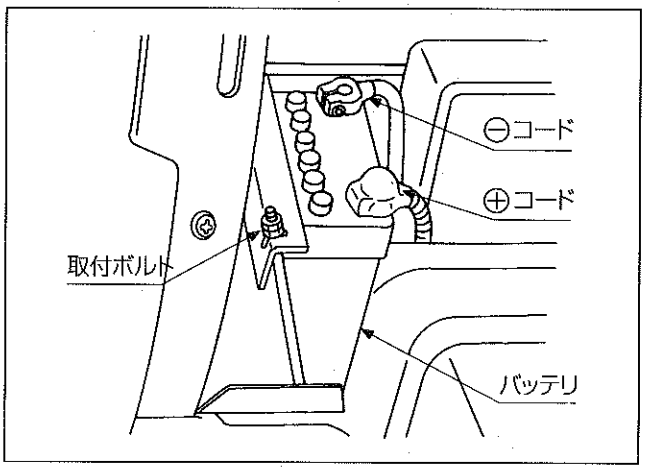
**【怠ると】**

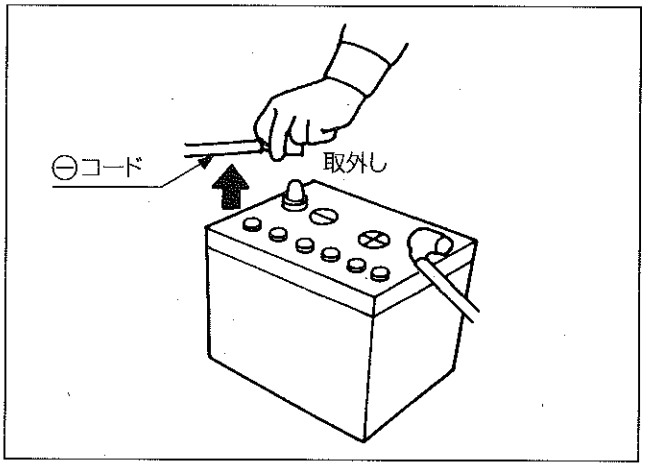
電気部品の性能を損なうだけでなく、ショート（短絡）・漏電の原因となり火災事故を引き起こすことがあります。

(4) バッテリ、電気配線及びマフラやエンジン周辺部のワラくず・ゴミなどは、取り除いてください。

**【怠ると】**

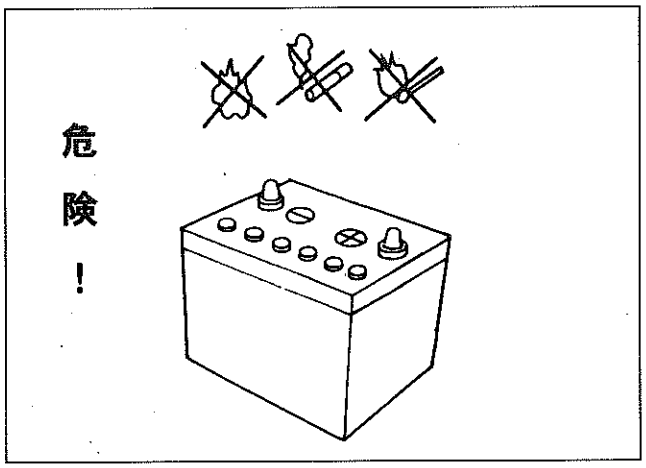
火災の原因となります。



## ■バッテリ取扱い時の注意事項

### ⚠ 危険




(1) ショートやスパークさせたり、たばこ等の火気を近づけないでください。また充電は、通風のよいところで行ってください。

**【怠ると】**

引火爆発することがあり大変危険です。

(2) バッテリ液（電解液）は、希硫酸で劇毒物です。バッテリ液を体や服につけないようにしてください。

**【付着すると】**

失明ややけどをすることがあり大変危険です。もし目・皮膚・服についたときは、直ちに多量の水で洗ってください。なお目に入ったときは、水洗い後、医師の治療を受けてください。

(3) バッテリの脱着および点検をするときは、エンジンを停止し、メインスイッチを「停止」にしてください。

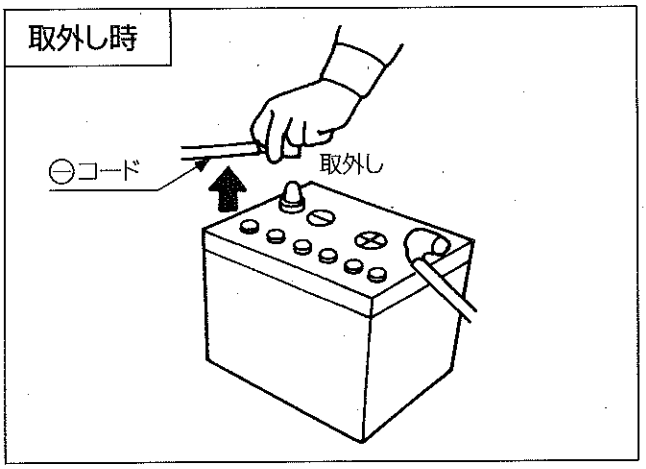
**【怠ると】**

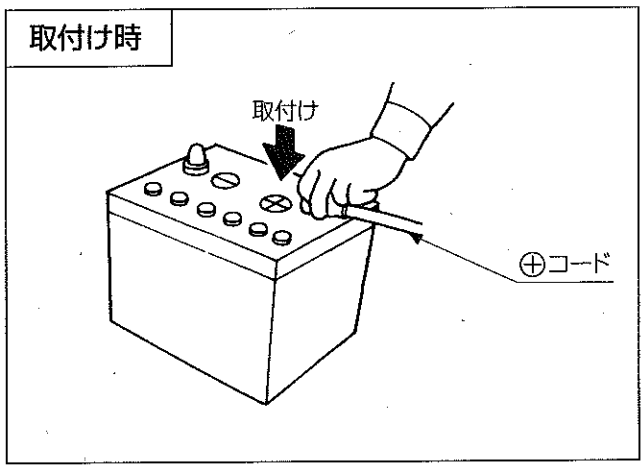
電気部品を損傷したり、思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。

(4) バッテリコード（端子）を取外すときは、⊖コードを先に外します。バッテリコードを取付けるときは、⊕コードを先に取付けます。

**【怠ると】**

ショートして火花がとんだりして危険です



## ■ブースタケーブル使用時の注意事項

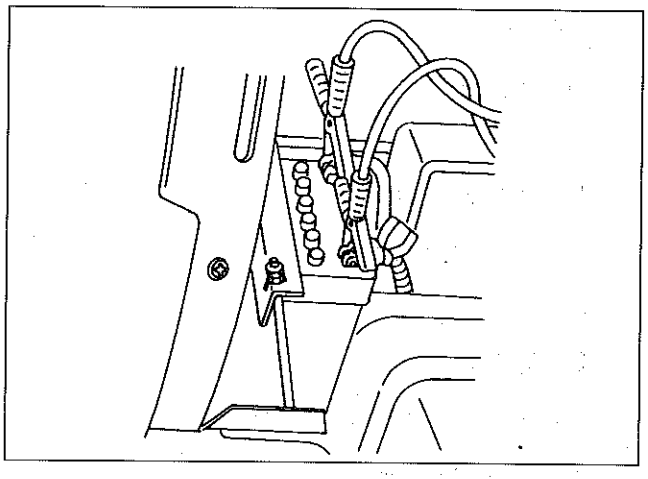
ブースタケーブル使用時には、危険のないように取扱ってください。

### ⚠ 警告

(1)バッテリの補水キャップを取外してから接続してください。

**【守らないと】**

引火爆発することがあり大変危険です。



(2)ブースタケーブル接続前には、エンジンを停止してください。

**【怠ると】**

思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。

(3)ブースタケーブルは、できるだけ通電容量の大きいものを選んで使用してください。

**【通電容量が小さすぎると】**

ブースタケーブルが熱をもったり、焼損したりして危険です。

## 安全表示ラベルについて

●このフルクローラには、安全に作業していただくため、安全表示ラベルが貼付してあります。必ずよく読んで、これらの注意に従ってください。

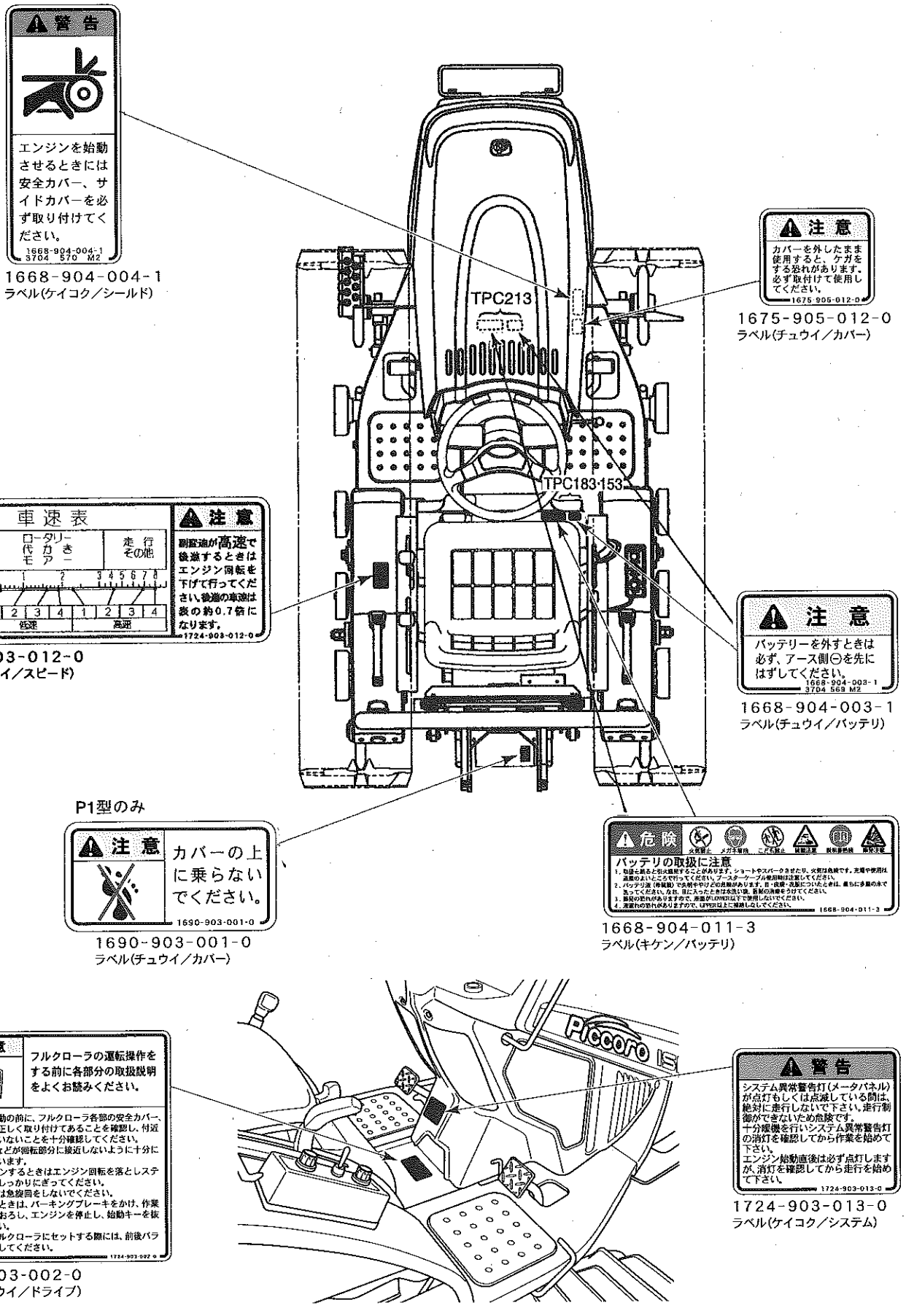
●安全表示ラベルが破損したり、なくなったり読めなくなった場合は、新しいラベルに貼り替えてください。

●汚れた場合は、きれいに拭きとり、いつでも読めるようにしてください。

●安全表示ラベルが貼付してある部品を交換する場合、同時に安全表示ラベルもお買いあげ先に注文してください。

●高圧洗浄機で洗車すると、圧力水によりラベルがはがれるおそれがあります。
圧力水を直接ラベルにかけないでください。

# 安全表示ラベル貼付位置




**⚠警告**

エンジンを始動させるときには安全カバー、サイドカバーを必ず取り付けてください。

1668-904-004-1
3704 570 M2

1668-904-004-1
ラベル(ケイコク／シールド)

**⚠注意**

カバーを外したまま使用すると、ケガをする恐れがあります。必ず取付けて使用してください。

1675-905-012-0

1675-905-012-0
ラベル(チュウイ／カバー)

車速表

| 適応作業 | ロータリー 代かき モア | 走行その他 |
|---|---|---|
| 車速 (km/h) | 0 1 2 3 4 5 6 7 8 | |
| 主変速 | 1 2 3 4 | 1 2 3 4 |
| 副変速 | 低速 | 高速 |

**⚠注意**

副変速が高速で後進するときはエンジン回転を下げて行ってください。後進の車速は表の約0.7倍になります。

1724-903-012-0

1724-903-012-0
ラベル(チュウイ／スピード)

**⚠注意**

バッテリーを外すときは必ず、アース側⊖を先にはずしてください。

1668-904-003-1
3704 569 M2

1668-904-003-1
ラベル(チュウイ／バッテリ)

**⚠注意**

カバーの上に乗らないでください。

1690-903-001-0

1690-903-001-0
ラベル(チュウイ／カバー)

**⚠危険**

バッテリの取扱に注意

1. 取扱を誤ると型は破裂することがあります。ショートやスパークさせたり、火気は危険です。充電や使用は通風のよいところで行ってください。ブースターケーブル使用時は注意してください。
2. バッテリ液（希硫酸）で失明やヤケドの危険があります。目・皮膚・衣服についたときは、直ちに多量の水で洗ってください。なお、目に入ったときは洗い後、百科の消療をうけてください。
3. 暴発の恐れがありますので、液面がLOWER以下で使用しないでください。
4. 液漏れの恐れがありますので、UPPER以上に補給しないでください。

1668-904-011-3

1668-904-011-3
ラベル(キケン／バッテリ)

**⚠注意**

フルクローラの運転操作をする前に各部分の取扱説明をよくお読みください。

①エンジン始動の前に、フルクローラ各部の安全カバー、保護装置が正しく取り付けてあることを確認し、付近に他の人がいないことを十分確認してください。
②手足、衣類などが回転部分に接近しないように十分にご注意ねがいます。
③スピンターンするときはエンジン回転を落としステアリングをしっかりにぎってください。
④高速走行中は急旋回をしないでください。
⑤駐停車するときは、パーキングブレーキをかけ、作業機を完全におろし、エンジンを停止し、始動キーを抜いてください。
⑥作業機をフルクローラにセットする際には、前後バランスに注意してください。

1724-903-002-0

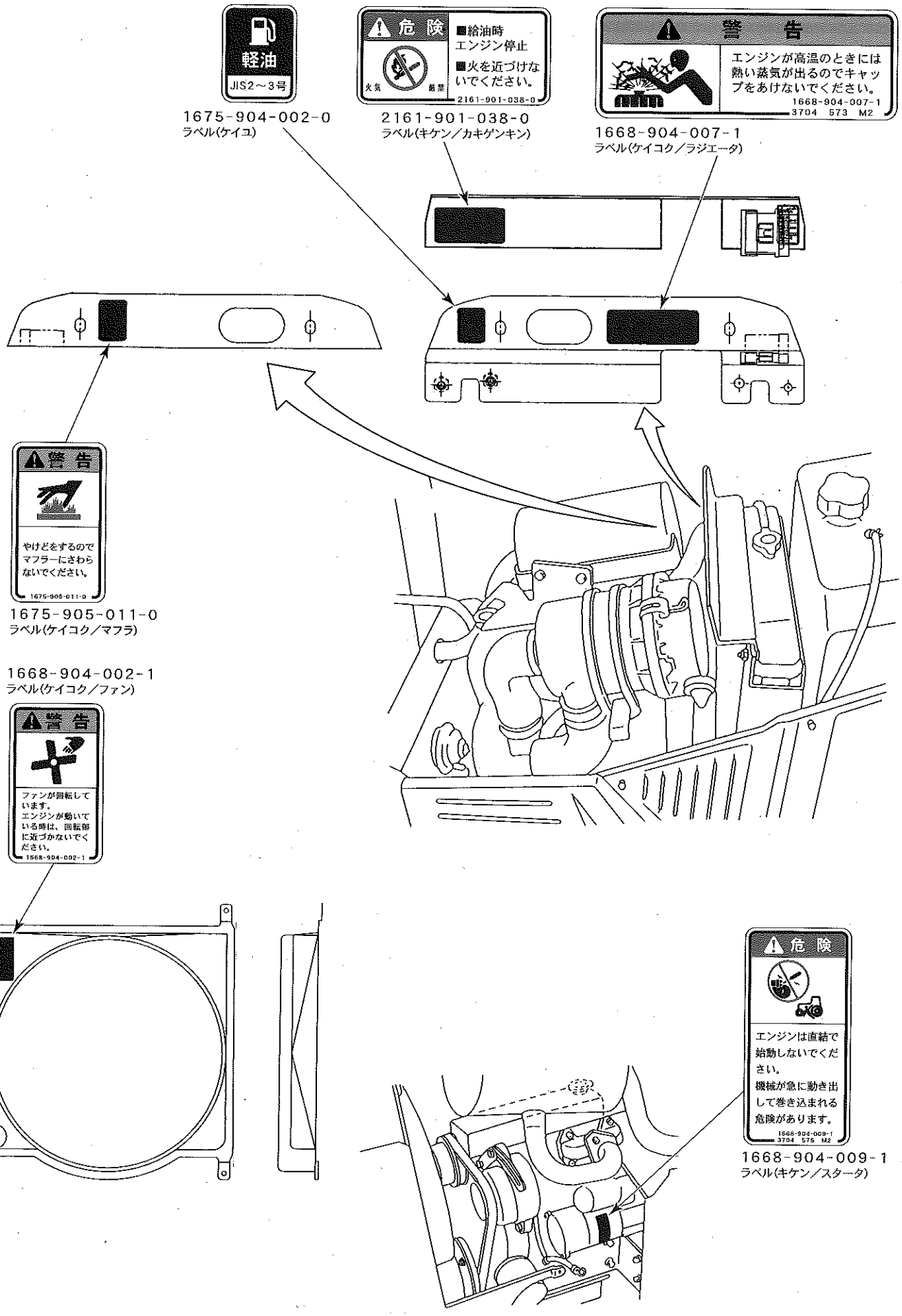
1724-903-002-0
ラベル(チュウイ／ドライブ)

**⚠警告**

システム異常警告灯(メータパネル)が点灯もしくは点滅している間は、絶対に走行しないで下さい。走行制御ができないため危険です。
十分機械を行いシステム異常警告灯の消灯を確認してから作業を始めて下さい。
エンジン始動直後は必ず点灯しますが、消灯を確認してから走行を始めて下さい。

1724-903-013-0

1724-903-013-0
ラベル(ケイコク／システム)




1675-904-002-0
ラベル(ケイユ)

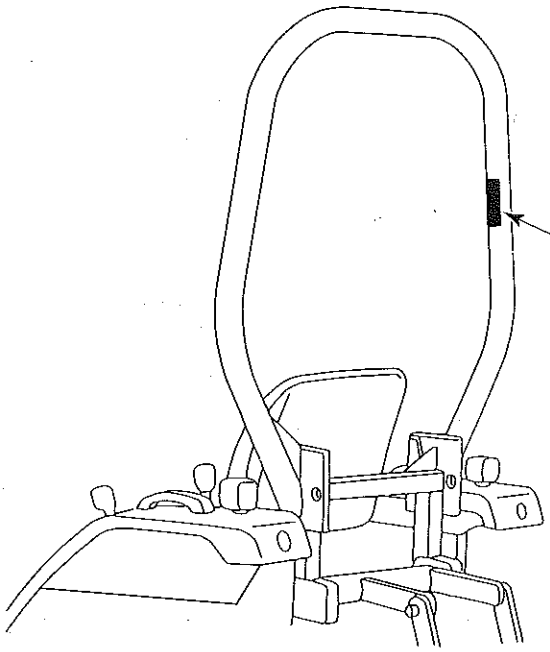
2161-901-038-0
ラベル(キケン／カキゲンキン)

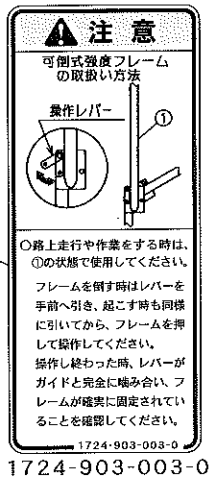
1668-904-007-1
ラベル(ケイコク／ラジエータ)

1675-905-011-0
ラベル(ケイコク／マフラ)

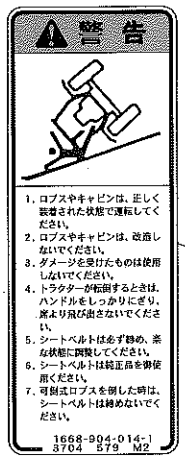
1668-904-002-1
ラベル(ケイコク／ファン)

1668-904-009-1
ラベル(キケン／スタータ)

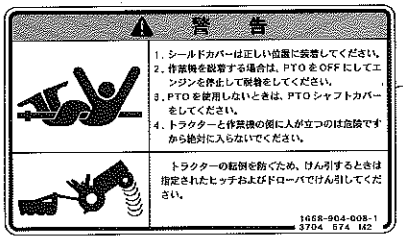




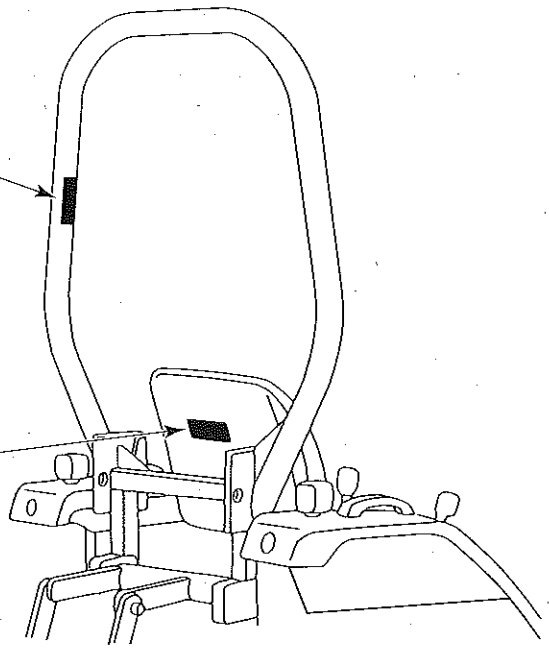

1724-903-003-0
ラベル(チュウイ／SF)



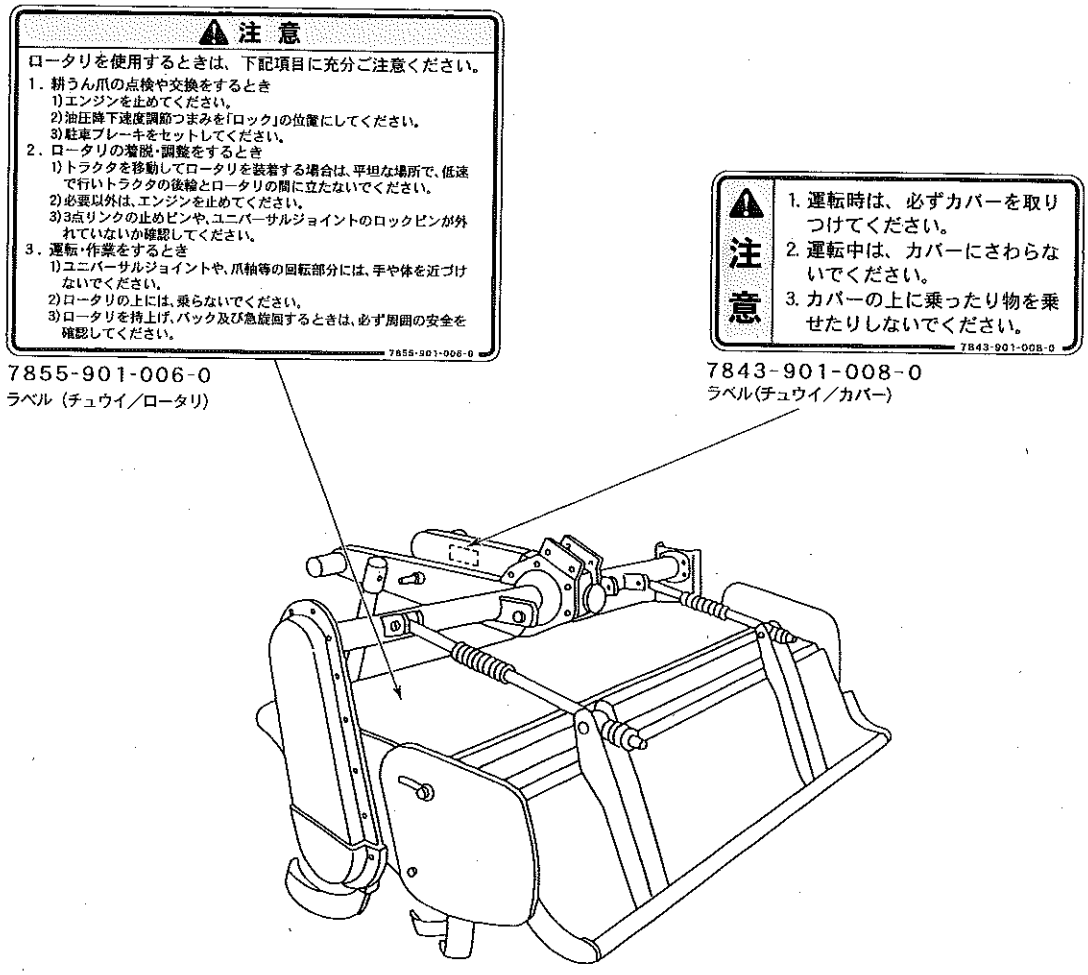

1668-904-014-1
ラベル(ケイコク／ロプス)



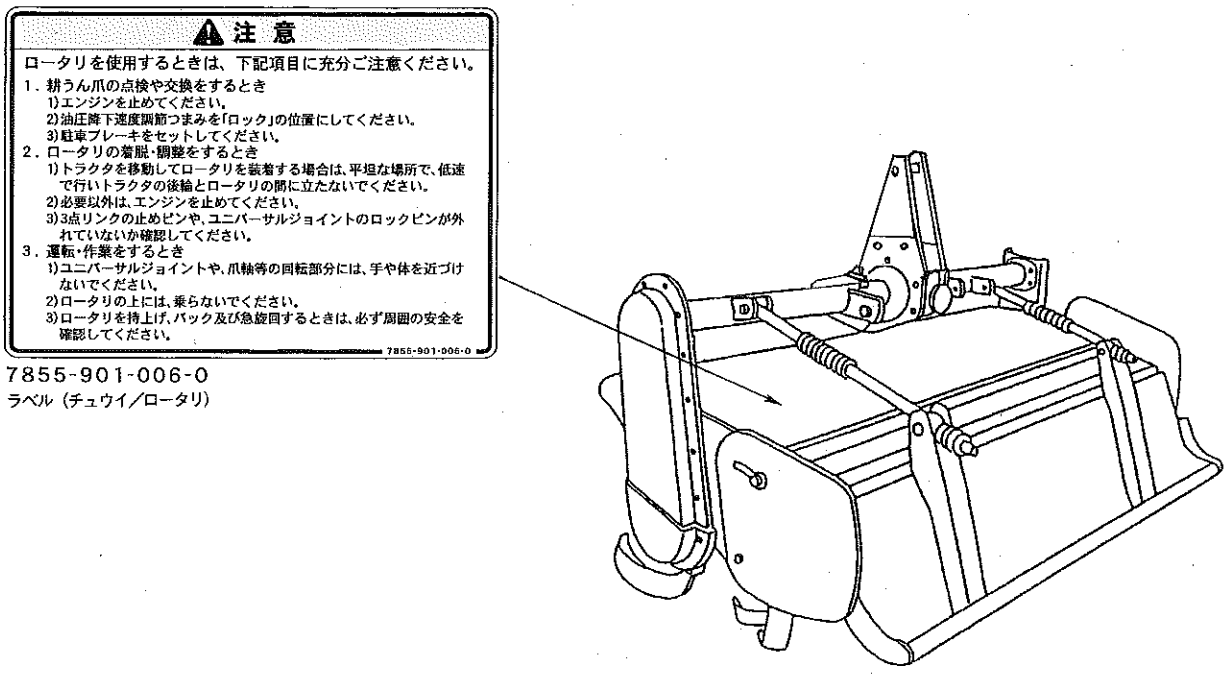

1668-904-008-1
ラベル(ケイコク／シールド／PTO)



## ■ARP14・15（装着方式：2Pリンク式）




## ■ARP15・16（装着方式：特殊4Pリンク式）



# 保証とサービス

## ■商品の保証

この商品には、ヰセキ保証書が添付されています。詳しくは保証書をご覧ください。

## ■サービスネット

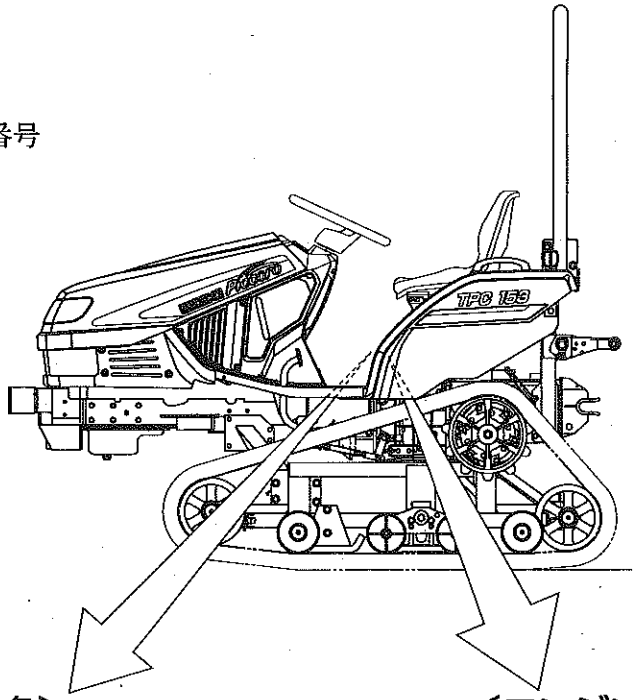
ご使用中の故障やご不審な点およびサービスに関するご用命は、お買いあげ先へお気軽にご相談ください。

その際

(1)販売型式名と製造番号

(2)エンジン型式とエンジン製造番号

を併せてご連絡ください。



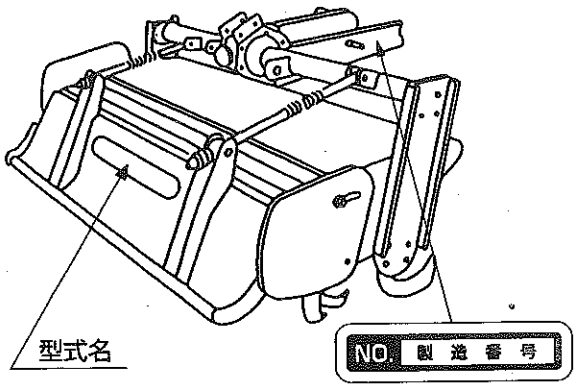

〔販売型式名〕

(例)

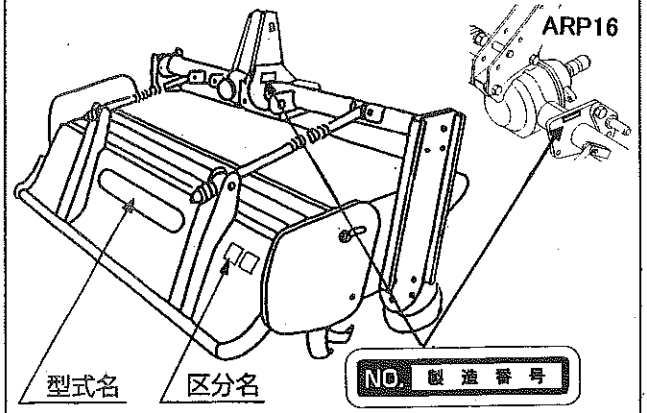
〔エンジン型式名〕

(例)

ARP14・15（装着方式：2Pリンク式）




ARP15・16（装着方式：特殊4Pリンク式）



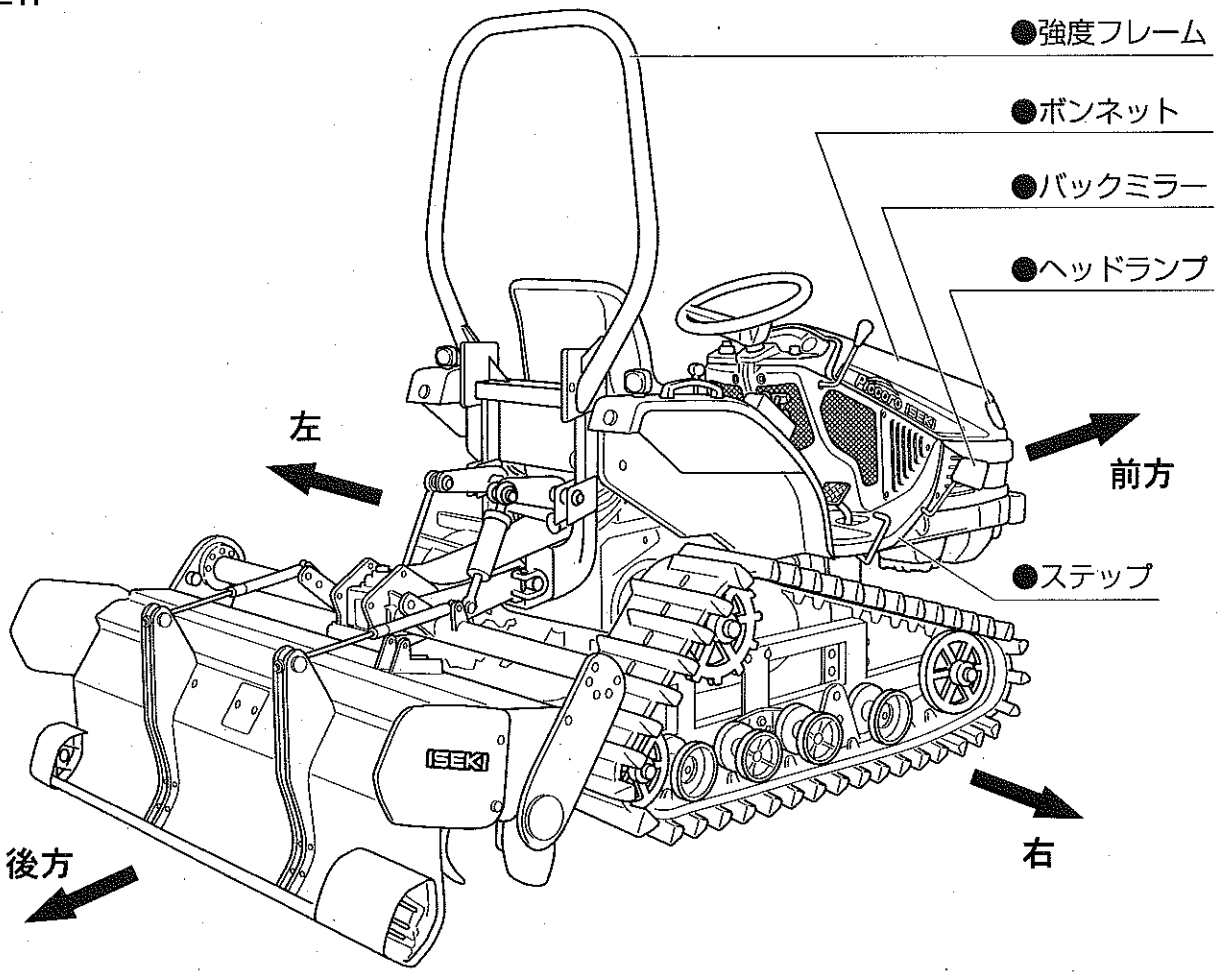
## ■補修用部品供給年限について

この製品の補修用部品の供給年限（期間）は、製造打ち切り後12年といたします。
ただし、供給年限内であっても、特殊部品につきましては、納期などについてご相談させていただく場合もあります。

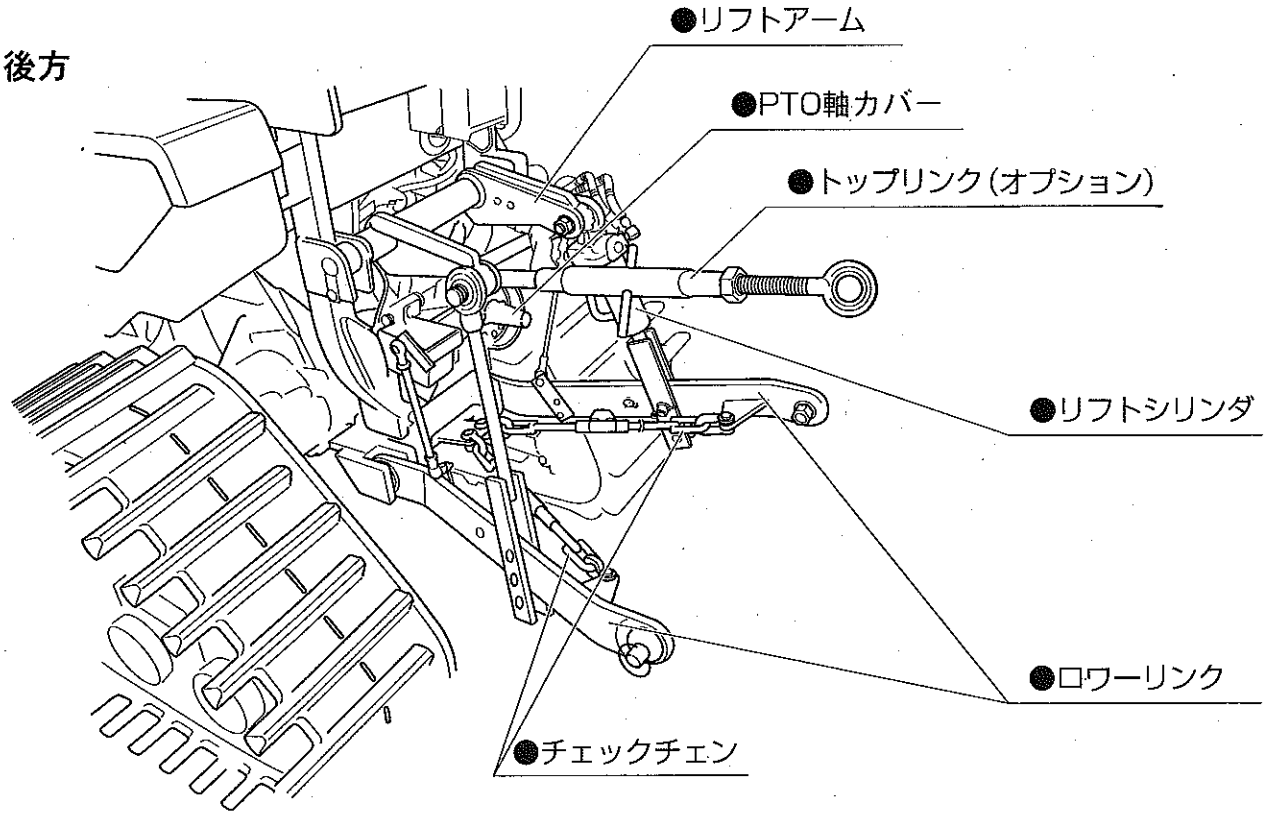
補修用部品の供給は、原則的には、上記の供給年限で終了いたしますが、供給年限経過後であっても、部品供給のご要請があった場合には、納期及び価格についてご相談させていただきます。

# 各部の名称

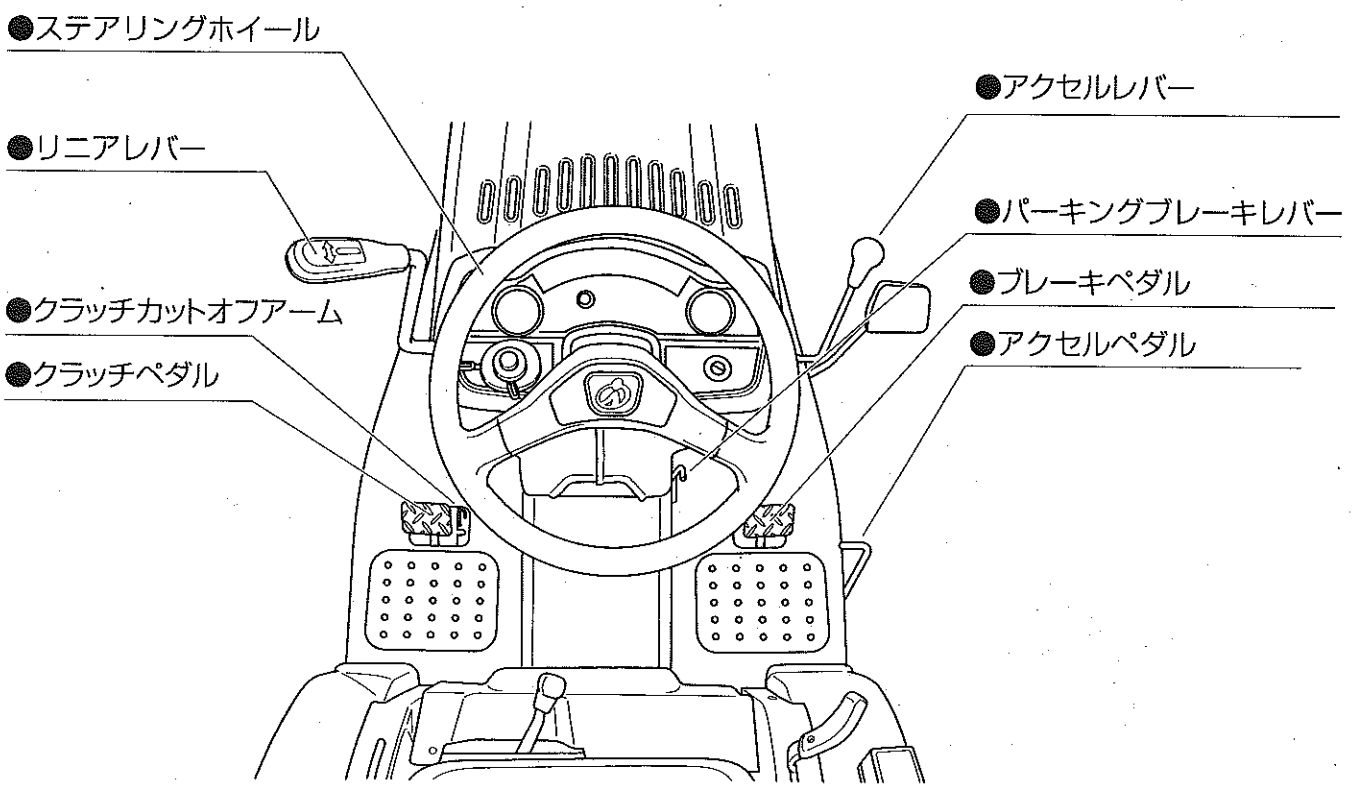
■全体

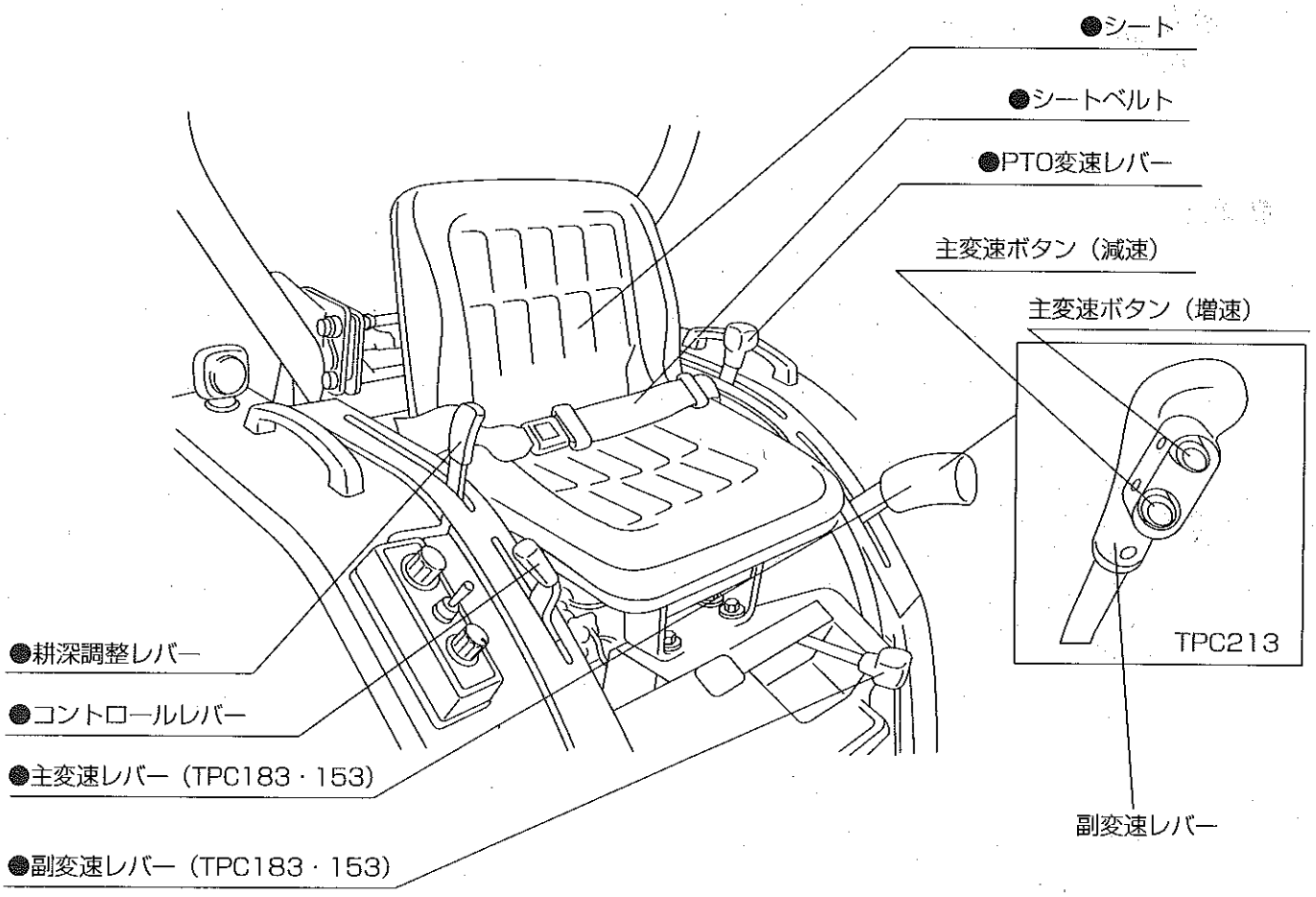

●強度フレーム
●ボンネット
●バックミラー
●ヘッドランプ
左
前方
●ステップ
ISEKI
後方
右

■後方

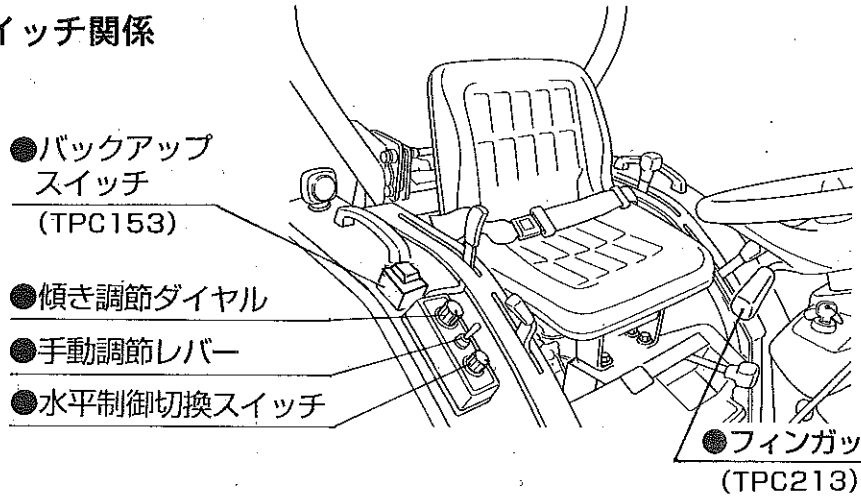

●リフトアーム
●PTO軸カバー
●トップリンク(オプション)
●リフトシリンダ
●ロワーリンク
●チェックチェン

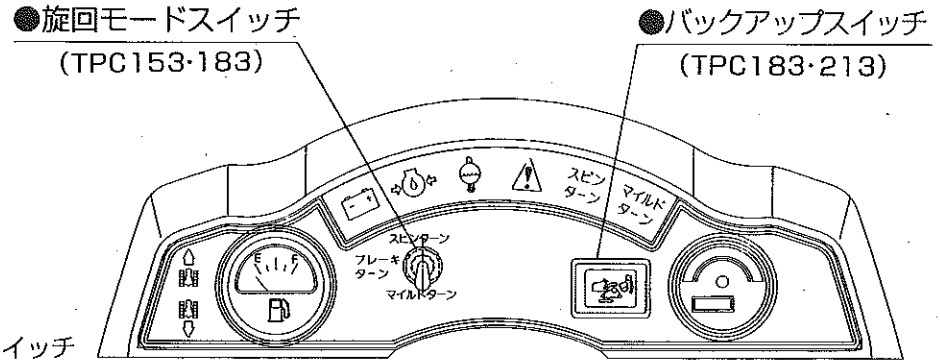
## ■レバー、ペダル関係

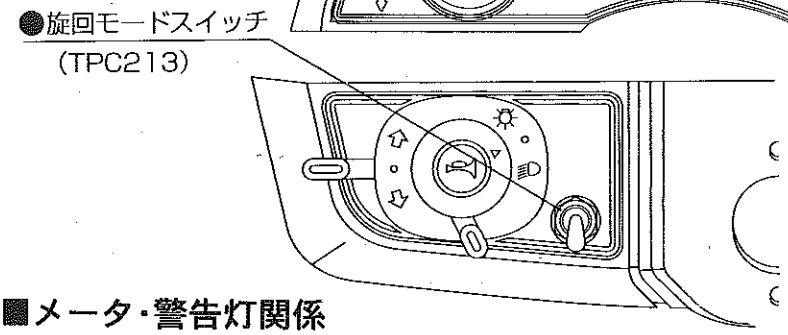

●ステアリングホイール
●リニアレバー
●クラッチカットオフアーム
●クラッチペダル
●アクセルレバー
●パーキングブレーキレバー
●ブレーキペダル
●アクセルペダル


●シート
●シートベルト
●PTO変速レバー
主変速ボタン（減速）
主変速ボタン（増速）
TPC213
●耕深調整レバー
●コントロールレバー
●主変速レバー（TPC183・153）
●副変速レバー（TPC183・153）
副変速レバー

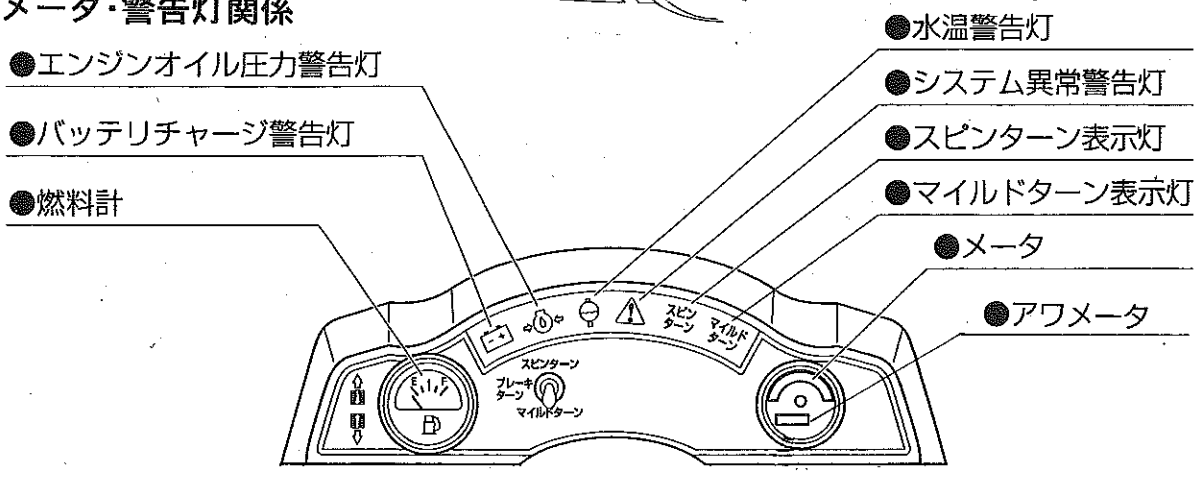
## ■スイッチ関係

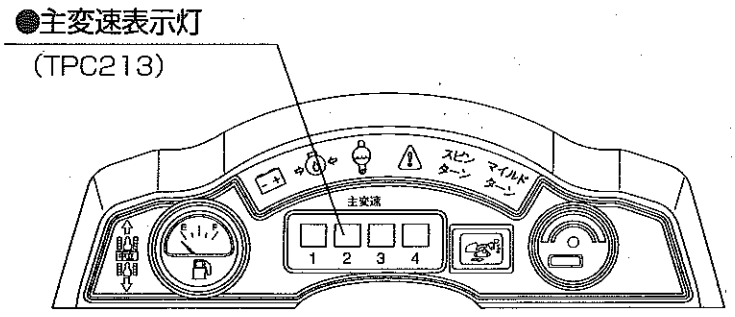



## ■メータ･警告灯関係



# 作　業　前　点　検

故障を未然に防ぐには、機械の状態をいつもよく知っておくことが大切です。

作業前点検は毎日欠かさず行ってください。

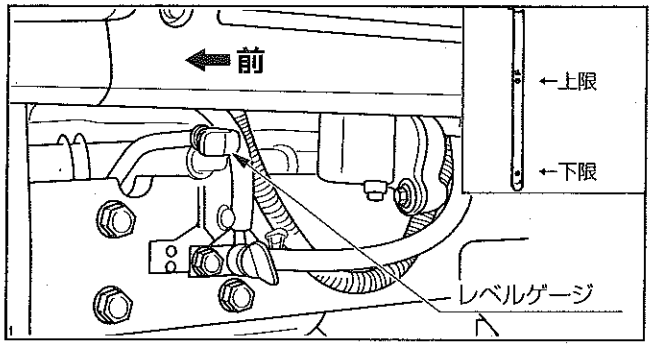
**⚠ 危険**

- 燃料を補給するときは、くわえタバコなど火気厳禁です。
  守らなかった場合、火災の原因になります。
- 必ずエンジンを停止し、パーキングブレーキをかけ、油圧降下速度調節つまみを回して油圧をロックしてから行ってください。怠ると手や衣服が巻きこまれたり、はさまれたりして大変危険です。
- 燃料、オイルがこぼれた時は、きれいにふき取ってください。

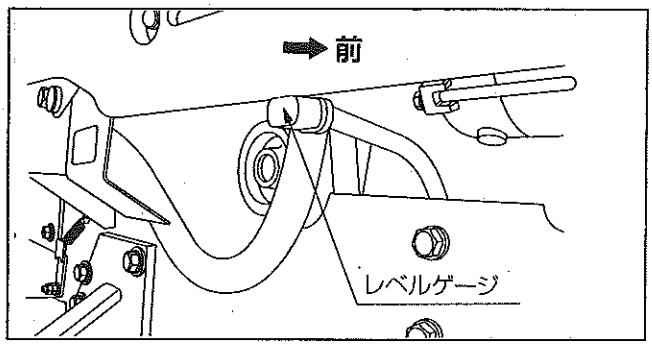
| | ここを | ━━ こんな点検をして ➡ | こ う す る | 参照ページ |
|---|---|---|---|---|
| 運転席に座る前に | 前日、異常のあった箇所 | ・再度異常がないか点検します。 | ・ある場合は「お買いあげ先」にご相談ください。 | — |
| | 油もれ | ・各部に漏れがありませんか。 | ・ある場合は「お買いあげ先」にご相談ください。 | — |
| | 水もれ | ・各部に漏れがありませんか。 | ・ある場合は「お買いあげ先」にご相談ください。 | — |
| | エンジンオイル | ・オイルゲージの上下限の間に油量がありますか。 | ・補給します。<br>ヰセキディーゼルエンジンオイル（CC級以上） | 70 |
| | ミッションケースのオイル | ・オイルゲージの上下限の間に油量がありますか。 | ・補給します。<br>ヰセキU・T・Hオイル | 77 |
| | 冷却水 | ・ラジエータキャップを外し「口元」まで冷却水がありますか。 | ・補給します。 | 72 |
| | ファンベルト | ・指で押したときのたわみ量は適正ですか。 | ・張り量を調節します。 | 75 |
| | エアクリーナ | ・バキュエータバルブにゴミはたまっていませんか。 | ・バキュエータバルブをつまんでゴミを落とします。 | 71 |
| | 燃料フィルタ | ・水や沈殿物がたまっていませんか。 | ・プラグを外し、排出します。 | 74 |
| | 車体各部 | ・損傷がありませんか。 | ・ある場合は「お買いあげ先」にご相談ください。 | — |
| | ボルト・ナット | ・ゆるみはありませんか。 | ・締め付けます。 | — |
| | 作業機取付けピン | ・脱落していませんか。 | ・装着します。 | — |
| | 各ランプ類 | ・損傷していませんか。 | ・ある場合は「お買いあげ先」にご相談ください。 | — |
| | ラジエータ | ・防虫網が目づまりしていませんか。 | ・網面を清掃します。 | 73 |
| | | ・ラジエータフィンは目づまりしていませんか。 | ・ラジエータフィンを水道水で清掃します。 | |

| | ここを | ←こんな点検をして→ | こ う す る | 参照ページ |
|---|---|---|---|---|
| 運転席に座る前に | バッテリ液 | ・レベルの上下限の間に液がありますか。 | ・精製水を補給します。 | 75 |
| | 標識（ナンバープレート）<br>反射器 | ・汚れはありませんか。 | ・清掃します。 | — |
| | | ・損傷はありませんか。 | ・交換の必要な場合は「お買いあげ先」にご相談ください。 | — |
| 運転席に座って | ブレーキペダル | ・遊びは適正ですか。 | ・遊びの調節をします。 | 78 |
| | | ・作動は正常ですか。 | ・正常でない場合は「お買いあげ先」にご相談ください。 | — |
| | クラッチペダル | ・遊びは適正ですか。 | ・遊びの調節をします。 | 77 |
| | | ・作動は正常ですか。 | ・正常でない場合は「お買いあげ先」にご相談ください。 | — |
| | パーキングブレーキ | ・作動は正常ですか. | ・正常でない場合は「お買いあげ先」にご相談ください。 | — |
| | バックミラー | ・汚れはありませんか。 | ・清掃します。 | — |
| | | ・損傷はありませんか。 | ・交換の必要な場合は「お買いあげ先」にご相談ください。 | — |
| メインスイッチを「運転」に入れて | 燃料計 | ・作動は正常ですか。 | ・正常でない場合は「お買いあげ先」にご相談ください。 | — |
| | | ・燃料は十分入っていますか。 | ・給油します. | 74 |
| | 燃料キャップ | ・ゆるんでいませんか。 | ・確実に締め付けます。 | — |
| | 各ランプ類<br>モニタランプ | ・汚れはありませんか。 | ・清掃します。 | — |
| | | ・点灯しますか。 | ・点灯しない場合は「お買いあげ先」にご相談ください。 | — |
| | メータ類 | ・作動は正常ですか。 | ・正常でない場合は「お買いあげ先」にご相談ください。 | — |
| | ホーン | ・鳴りますか。 | ・鳴らない場合は「お買いあげ先」にご相談ください。 | — |
| エンジンを始動して、徐行しながら | バッテリチャージ警告灯<br>エンジンオイル圧力警告打<br>水温警告灯<br>システム異常警告灯 | ・エンジン始動後消灯しますか。 | ・消灯しない場合は「お買いあげ先」にご相談ください。 | — |
| | 排気ガス | ・色は薄青色ですか。<br>・白煙や黒煙を吐きませんか。<br>・異常な音はしませんか。 | ・白煙や黒煙を吐く場合や異常な音がする場合は「お買いあげ先」にご相談ください。 | — |
| | ブレーキ | ・効きは悪くありませんか。 | ・遊びの調整をします。 | 78 |
| | ステアリングホイール | ・スムーズに旋回できますか。<br>・手を放した時直進しますか。 | ・「お買いあげ先」にご相談ください. | — |

〈エンジンオイル〉

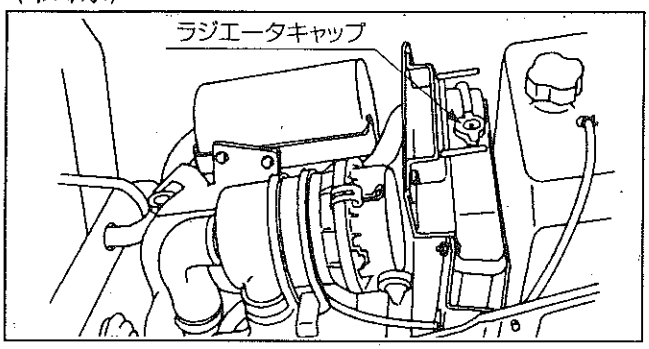



(TPC153)

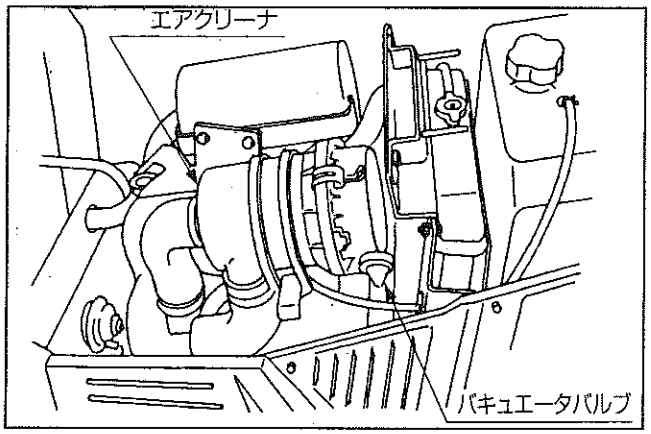



(TPC213・183)

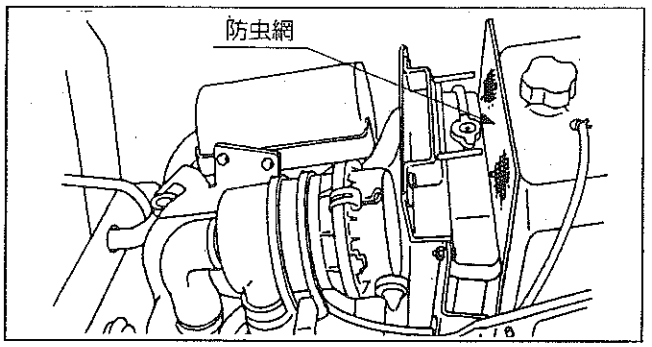
〈冷却水〉



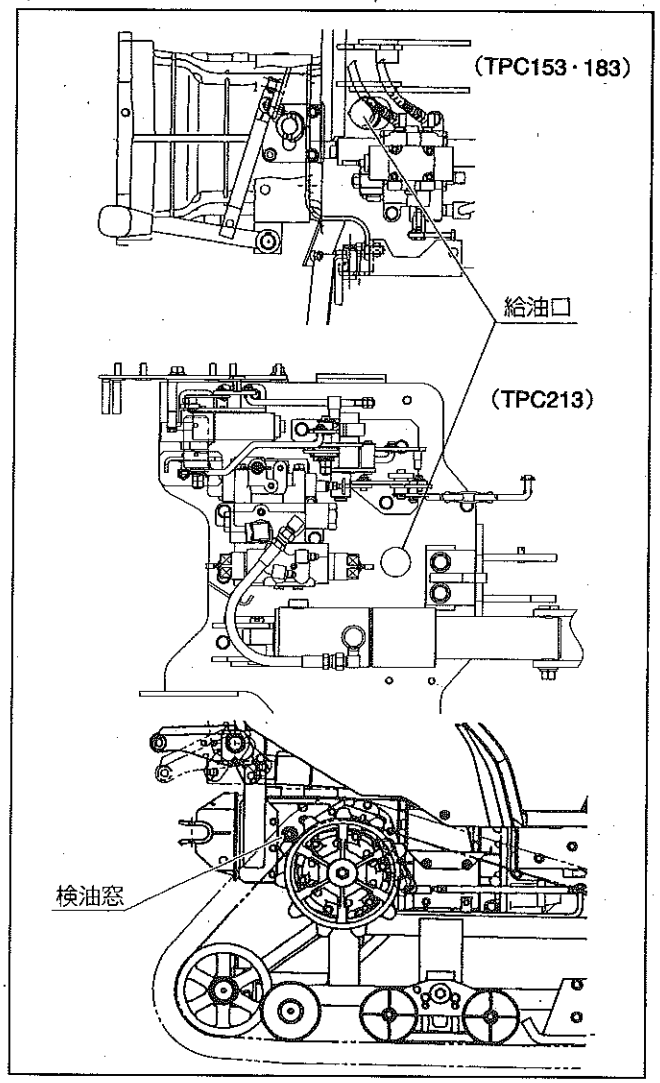

〈エアクリーナ〉



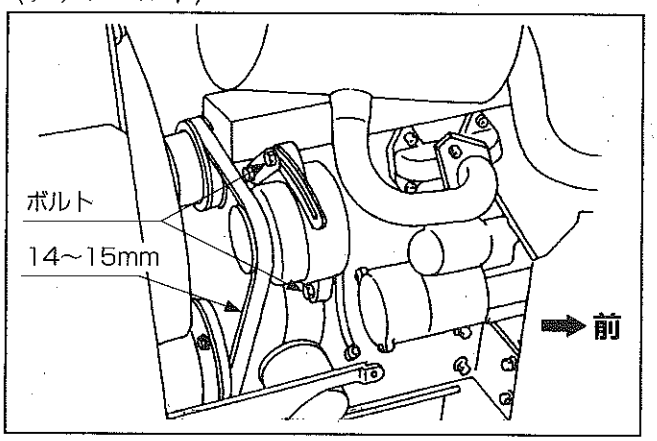

〈ラジエータ〉



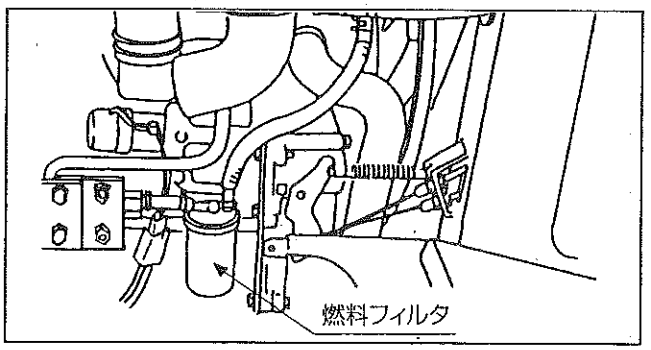

〈ミッションケースのオイル〉




〈ファンベルト〉



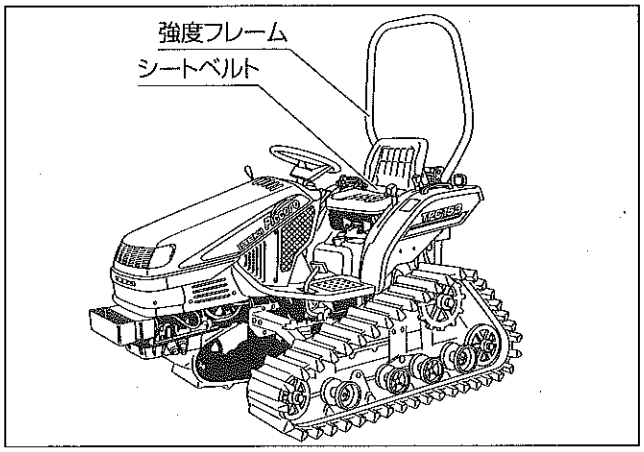

〈燃料フィルタ〉



# 強度フレームの取扱い

## 安全作業について

安全な作業をしていただくために、強度フレームの取扱いには特に注意して、「安全な作業をするために」の章とあわせてよくお読みいただき、正しい取扱いをしてください。




**⚠ 警告**

(1) 強度フレームは、正しく装着された状態で運転してください。フルクローラを使用するときは、確実に強度フレームを立てた状態にし、必ずシートベルトを装着してください。これを怠ると、転倒したときに重大事故を引き起こすことがあります。

(2) 強度フレームの改造はしないでください。改造すると強度フレームとしての機能がなくなり、転倒したときに重大事故を引き起こすことがあります。

(3) 万一事故により強度フレーム変形したり損傷した場合は、「曲げたり、溶接したり」の修理をしないで新しい純正部品と交換してください。これを怠ると強度フレームとしての機能がなくなり、転倒したときに重大事故を引き起こすことがあります。

(4) 万一フルクローラが転倒するときは、ハンドルをしっかりにぎり、座席より飛び出さないでください。
これを怠るとフルクローラの下敷きになったりして、重大事故を引き起こします。

(5) 高さに限度のある屋内、果樹園、ハウス等の作業は強度フレームを後方にたおすことができますが、この状態では体を保護することはできませんのでシートベルトを着用しないでください。

**重要**

**強度フレームをたおすときは、強度フレームと作業機のスキマを確保してください。作業機をゆっくりと最大高さまで上げてスキマを確認してください。**

## 強度フレームのたおしかた・おこしかた

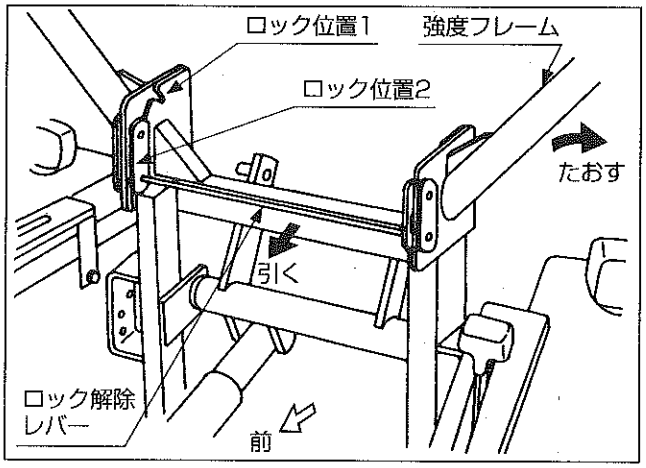
強度フレームを「たおす」または「おこす」ときは、次の要領で行ってください。

> ⚠ 注意
> 強度フレームを「たおす」または「おこす」ときは平たんな場所でパーキングブレーキをかけ、必ずエンジンを停止して行ってください。

### ■たおしかた

(1)フレームを片手で支え、ロック解除レバーを前方へ引き、強度フレームを後方へたおします。

(2)ロック解除レバーがプレートのロック位置1に入り込むまで、強度フレームを後方にたおしてください。




> ⚠ 警告
> 高さに限度のある屋内、果樹園、ハウス等以外は、必ず強度フレームを立てて使用してください。強度フレームを「たおした」状態では、強度フレームとしての機能はありませんので、転倒時には重大事故を引き起こすおそれがあります。

### ■おこしかた

(1)強度フレームを片手で支え、ロック解除レバーを前方へ引き、強度フレームを前方へおこします。

(2)ロック解除レバーがロック位置2に確実に入り込むまで強度フレームを前方におこしてください。

> ⚠ 注意
> 強度フレームは、ロック位置1、2の位置以外で作業・点検をしないでください。
> 途中の状態で作業・点検を行なうと不意に落下し危険です。

**重要**

**強度フレームを前後に動かし、確実に固定されているか確認してください。**

**【怠ると】**

転倒したとき、重大事故を引き起こすことがあります。

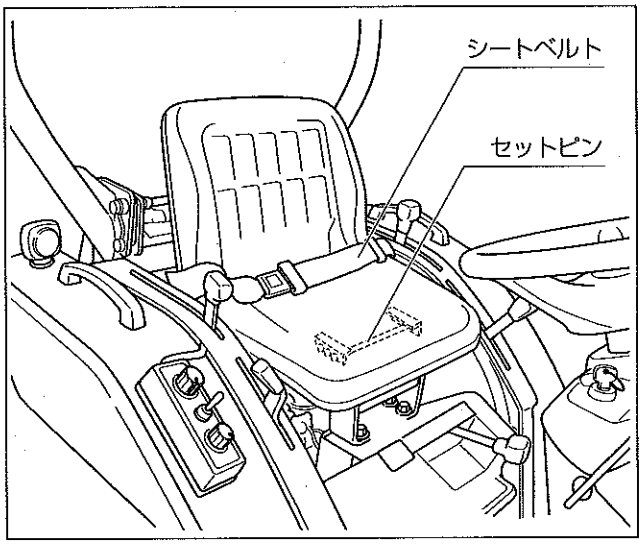
# 運転のしかた

## 運転前の準備

### ■シート

(1)シートを支持しているセットピンの取付位置により、シートを前後に調節できます。

(2)調節後は、セットピンをヘアーピンにて確実に抜け止めされていることを確認してください。

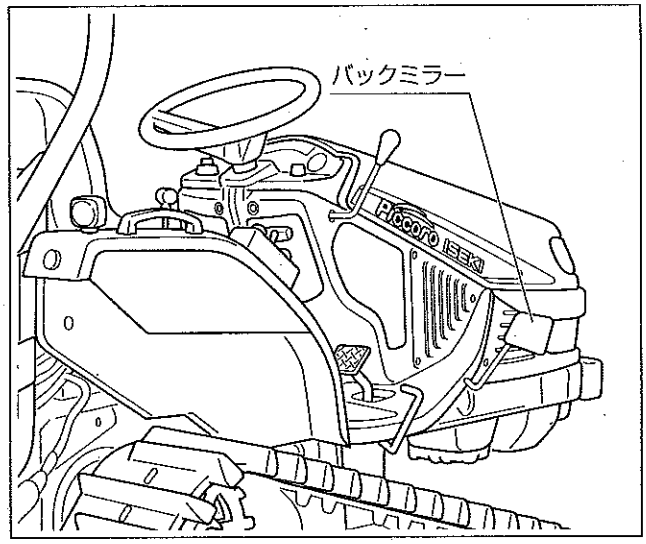



### ■シートベルト

体形に合わせてベルトの長さを調節し、金具を押し込み装着します。外すときは金具の中央の部分を押すと外れます。

### ■バックミラー

(1)バックミラーは、上下・左右に角度調整できますので、運転席に座って見やすい位置に調節してください。




### ■コンビネーションスイッチ

▶ライティングスイッチ

○ ……ヘッドランプ消灯位置

≡○ ……ヘッドランプ照射位置

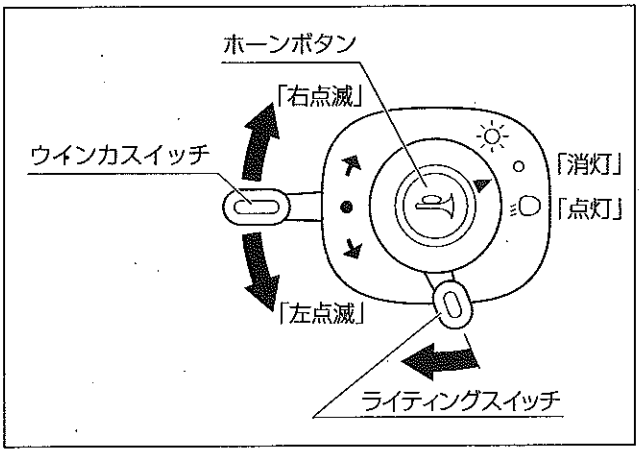
▶ウインカスイッチ

(1)スイッチを操作すると、ウインカランプが点滅します。

(2)右折又は左折が終ったら、スイッチを中央に戻してください。

▶ホーンボタン

メインスイッチを「運転」にして、ホーンボタンを押すとホーンが鳴ります。



## エンジン始動のしかた

**⚠ 警告**

(1) 室内でエンジンを運転するときは、窓や戸を開けて、換気を十分に行ってください。換気が悪いと、排気ガス中毒を起こし危険です。

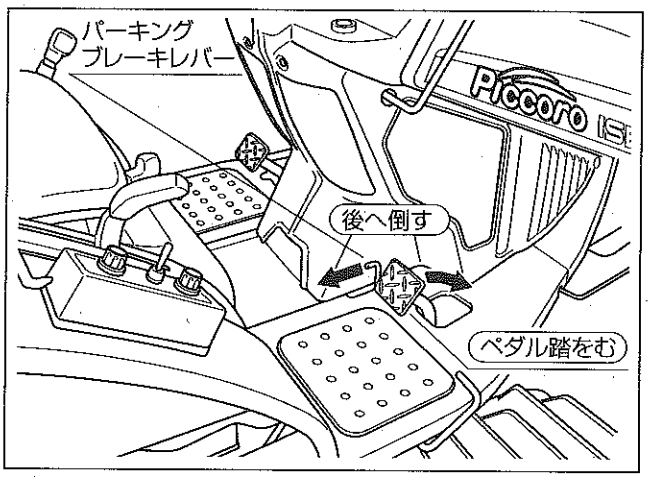
(2) エンジンを始動するときは、必ず座席に座って、変速レバーやその他レバー類の位置と、周囲の安全を確認してから行ってください。これを怠ると急発進したりして危険です。

### 1. パーキングブレーキをかけます。

**■パーキングブレーキレバー**

ペダルをいっぱい踏みレバーを矢印方向に「作動し」固定してください。

ブレーキペダルを強く踏めば、パーキングブレーキは自動的に解除されます。




**⚠ 注意**

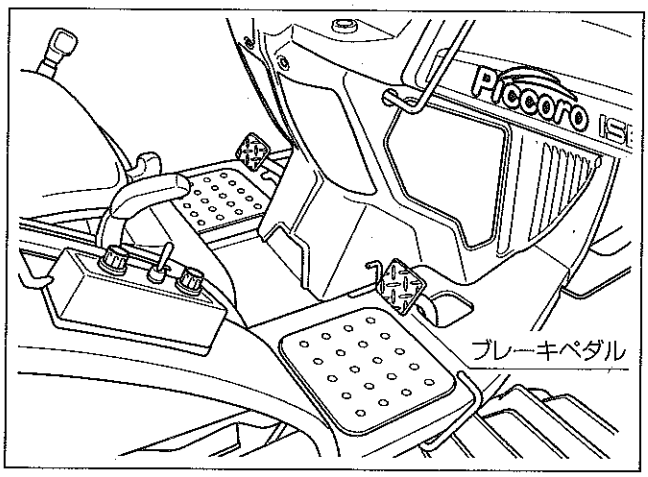
駐車時、停車時には必ずパーキングブレーキを確実にかけてください。これを怠るとフルクローラが自然に動き出したりしてケガをを負うおそれがあります。

**重要**

**パーキングブレーキをかけたまま走行すると、ブレーキを傷めます。**

**■ブレーキペダル**

ブレーキペダルを踏込むとクローラにブレーキがかかります。

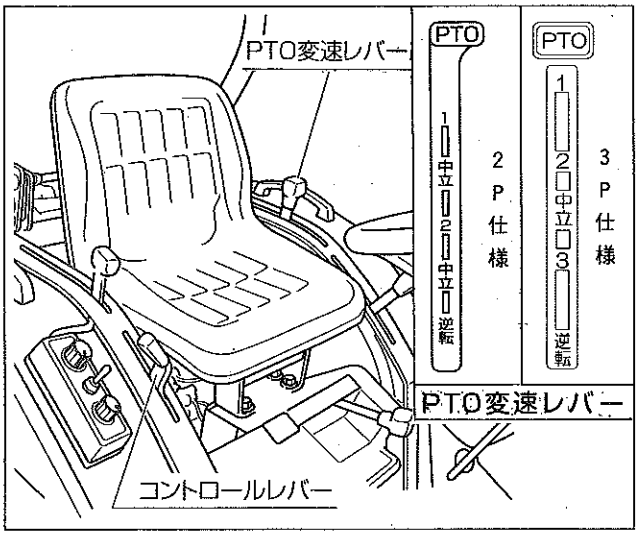


**2. コントロールレバーを下げ、作業機を地面までおろします。**

**3. PTO変速レバーを「中立」にします。**

**■PTO変速レバー**

PTO軸（動力取出軸）の回転速度は、レバー操作により、2P仕様は正転が2段、逆転が1段変速できます。3P仕様は、正転が3段、逆転が1段変速できます。




**重要**

**PTO変速レバーは、必ずクラッチペダルを踏込んで、PTO軸回転が完全に停止してから行ってください。入りにくい場合は、もう一度クラッチペダルを踏み直してから操作してください。**

## TPC213

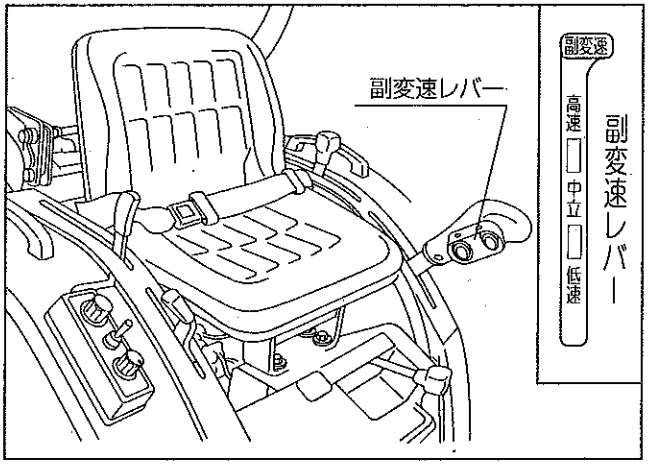
**4. 副変速レバーを「中立」にします。**

**■副変速レバー**

「低速」「高速」の2段変速ができます。

**重要**

**副変速のレバー操作は、クラッチペダルを踏みフルクローラが完全に停止してから操作してください。走行中に変速するとミッションの損傷につながります。**




## TPC183・153

**4. 主変速レバー・副変速レバーを「中立」にします。**

**■主変速レバー**

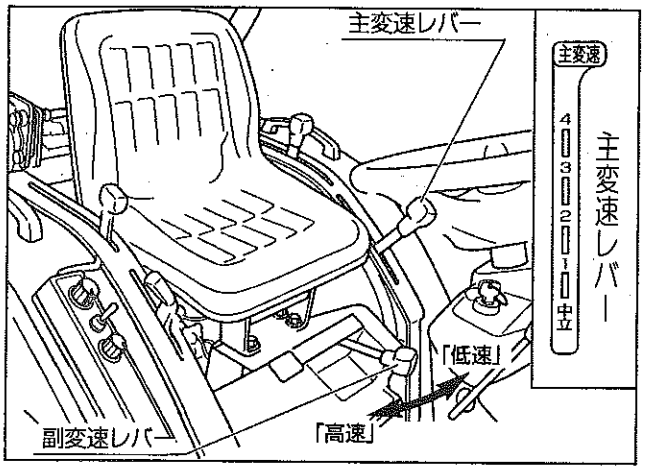
「1速」「2速」「3速」「4速」の4段変速ができます。副変速レバーとリニアレバーの組合せにより、前進8段、後進8段の変速ができます。

**■副変速レバー**

「低速」「高速」の2段変速ができます。

**重要**

**主変速・副変速のレバー操作は、クラッチペダルを踏みフルクローラが完全に停止してから操作してください。走行中に変速するとミッションの損傷につながります。**



## TPC213

### 5. リニアレバーを「中立」にします。

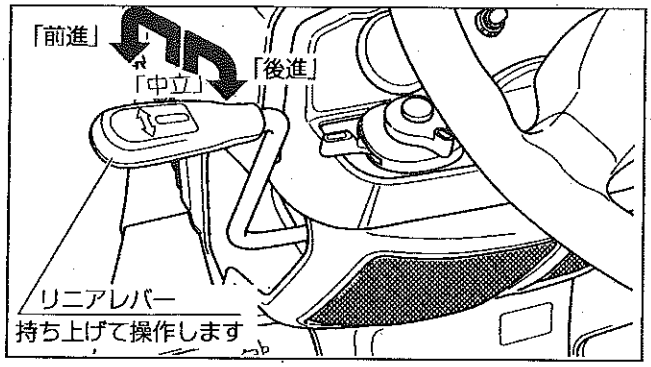
**■リニアレバー**

前進・後進シフトをこのレバーで行います。走行しない場合は、「中立」位置に入れておくようにしてください。

リニアレバーは、「中立」から「前進」「後進」位置に操作するとき、レバーを一度上方に持ち上げてから、「前進」「後進」の位置に入れます。

「後進」に入れると間欠ブザーが鳴ります。副変速が低速の場合はクラッチを踏まなくても「前進」「後進」の切り替えができます。

> ⚠ **注意**
> **副変速が高速の場合はノークラッチでの前・後進操作は行わないでください。**
> **変速ショックが大きくなります。**




### 6. アクセルレバーを「中程」まで引きます。

**■アクセルレバー**

エンジンの回転数を制御するレバーです。

・手前に引くと高速回転になります。

・前方に押すと低速回転になります。

### 7. クラッチペダルを踏込んでクラッチを「切」にします。

**■クラッチペダル**

ペダルを踏込む……クラッチが切れます。

ペダルから足を離す…クラッチがつながります。

**重要**

**●クラッチペダルをいっぱい踏込みクラッチを「切」にしないと、エンジンは始動しません。**

## TPC183・153

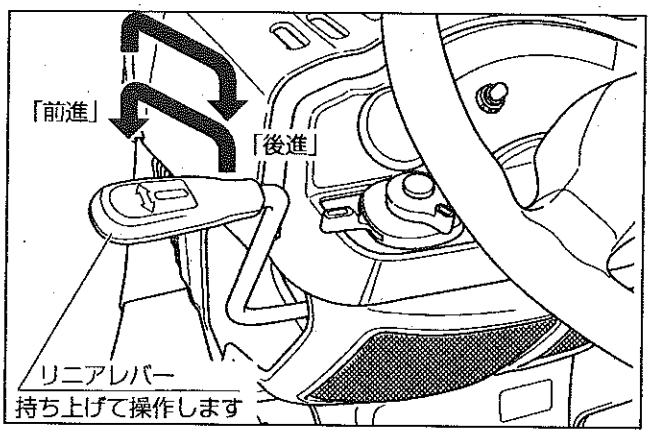
### 5. リニアレバーを操作します。

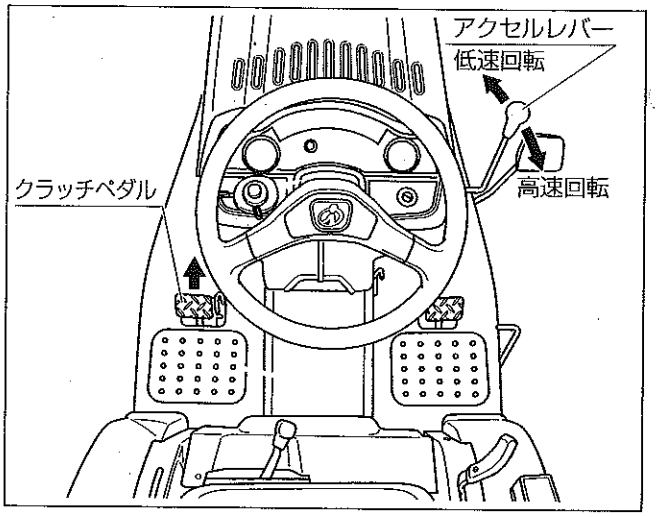
**■リニアレバー**

持ち上げて前に倒すと「前進」後に倒すと「後進」します。

「後進」に入れると間欠ブザーが鳴ります。副変速が低速の場合はクラッチを踏まなくても「前進」「後進」の切り替えができます。

> ⚠ **注意**
> **副変速が高速の場合はノークラッチでの前・後進操作は行わないでください。**
> **変速ショックが大きくなります。**



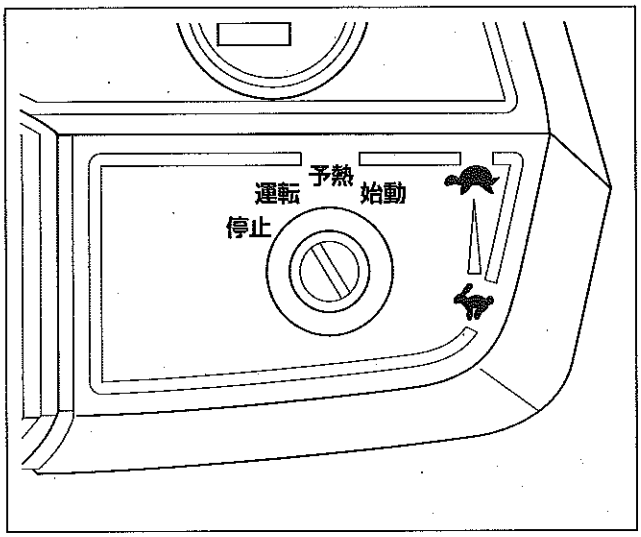




**●クラッチペダルは、切るときは早く、つなぐときはゆっくりと操作してください。**

**●作業中は、ペダルに足を乗せたままにしないでください。クラッチの寿命が短くなります。**

## 8. メインスイッチにキーを差し込み、「運転」の位置に回します。

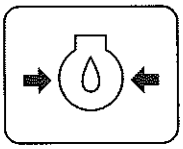
この時モニタランプの
・エンジンオイル圧力警告灯
・バッテリチャージ警告灯
・システム異常警告灯
が点灯していることを確認してください。




### ■メインスイッチ

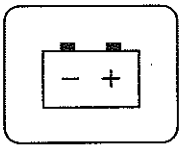
停止……エンジンが停止し、キーが抜き差しできる位置。
運転……エンジン回転中の位置。
予熱……予熱位置です。５秒間保持した後、「始動」してください。
始動……クラッチペダルをいっぱいに踏込んで、エンジンを始動する位置。
エンジン始動後、「運転」の位置に戻してください。

### ■エンジンオイル圧力警告灯



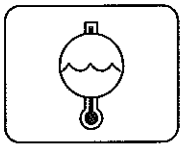
エンジン回転中、潤滑系統が異常のとき点灯して警告します。
点灯したままのときは、エンジンオイル量および潤滑油系統を点検してください。

### ■バッテリチャージ警告灯




エンジン運転中充電しているとランプが消えます。

### ■水温警告灯



エンジン運転中、冷却水の温度がオーバーヒートすると点灯します。点灯したときはオーバーヒートの状態ですから「不調時の処置」の項を参照してください。

### ■システム異常警告灯

制御系に異常が発生した場合、または油圧装置が準備状態（エンジン始動後）の時に、点灯します。
エンジン始動直後はかならず点灯しますが異常ではありません。
消灯を確認してから走行を始めてください。

**9. エンジンが始動したらただちにメインスイッチを「運転」の位置に戻してください。**

エンジン始動後

エンジンオイル圧力警告灯

バッテリチャージ警告打

水温警告灯

システム異常警告灯

が消灯していることを確認してください。

**10. クラッチペダルからゆっくり足を離し、エンジン中速回転（約1500rpm）で十分に暖機運転を行ってください。**

**■暖機運転**

気温により右表程度の暖機運転を行ってください。

**重要**

- ●暖機運転をしないで、走行・作業しますと、エンジンの寿命を短くしたり、油圧ポンプの焼付、油圧系の故障および走行制御ができない原因となります。
- ●本製品の油圧オイルは、ミッションオイルを兼用しています。寒冷時、気温が低下しオイルが冷えると、粘度が高くなり、油圧ポンプがオイルを吸い込みにくくなったり、油圧系より音が発生したりします。
  また走行制御にも支障をきたしますので暖機運転は必ず行ってください。

**重要**

- ●エンジン回転中は、メインスイッチを「始動」の位置にしないでください。
- ●スタータの作動は1回10秒程度とし、始動しないときは10秒程度停止してから再び操作をくり返してください。
- ●システム異常警告灯が点灯もしくは点滅している間は消灯するまで暖機してください。
  システム異常警告灯の消灯を確認してから作業を始めてください。

**⚠ 警告**

システム異常警告灯が点灯している間は絶対に走行しないでください。フルクローラの走行制御ができないため、傷害事故を起こすおそれがあります。

| 気温 | 暖機運転時間 |
|---|---|
| 0℃以上 | 5～10分 |
| 0℃～－10℃ | 10～20分 |
| -10℃～-20℃ | 20～30分 |
| -20℃以下 | 30分以上 |

**⚠ 注意**

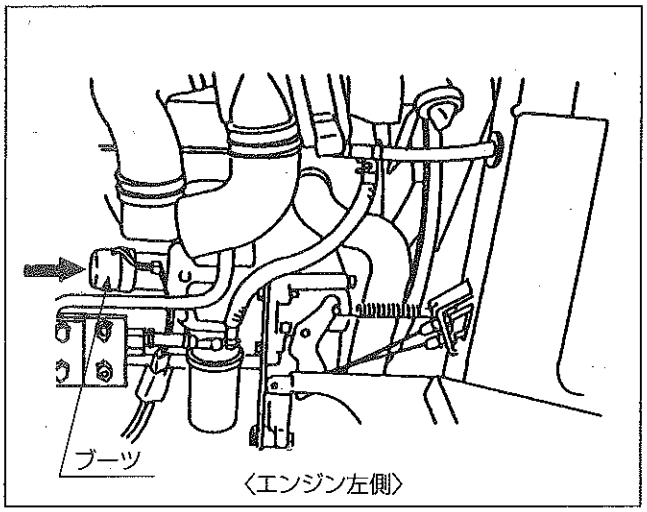
暖機運転中は、必ず、パーキングブレーキをかけ、リニアレバー、主変速レバー、副変速レバーを「中立」の位置にしてください。これを怠るとフルクローラが自然に動き出してケガを負うおそれがあります。

## エンジン停止のしかた

**1. アクセルレバーを前方に一杯押し、エンジンを低速回転にします。**

**2. メインスイッチを「停止」にします。**

万一、故障しエンジンが停止しない時は、ボンネットを開け、図の要領でブーツ中心を停止するまで押してください。また故障の際には、「お買いあげ先」にご相談ください。



〈エンジン左側〉

**3. メインスイッチのキーは必ず抜きましょう。**

**重要**

- エンジンを高速回転のまま停止しないでください。
- 長時間運転後は、アイドリング回転で5～10分間ほど無負荷運転を行ってからエンジンを停止してください。
- TPC183・153は緊急時の自動停止装置を備えています。自動停止装置がはたらき、エンジンが停止した場合はメインスイッチを「停止」にしてお買い上げ先にご相談ください。

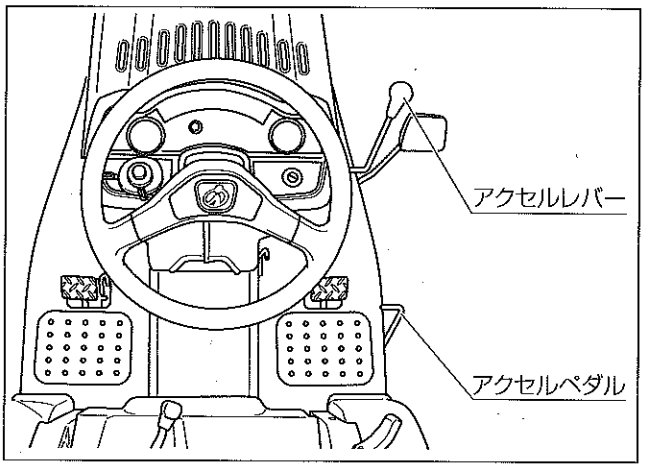
**⚠ 警告**

エンジン停止時はパーキングブレーキを確実にかけてください。
これを守らないと坂道などでフルクローラが動き出し事故の原因となります。
またエンジン停止のため、エンジン周辺部にふれる場合は、高温ですのでやけどに注意してください。

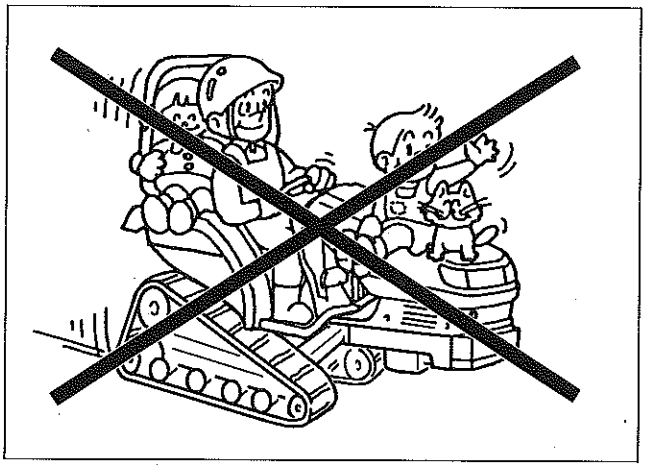
# 発進・走行のしかた

⚠ 警告

(1)フルクローラを発進させるときは、前後左右の安全を確認し、フルクローラの近辺に人を近づけないようにしてください。これを怠ると、傷害事故を引き起こすおそれがあります。




(2)路上走行するときは、必ずアクセルペダルを使用してください。これを怠ると、正常な走行スピードのコントロールができなくなるおそれがあります。

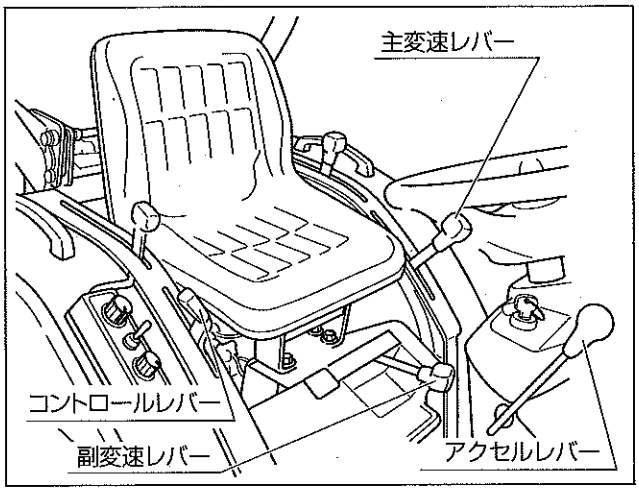


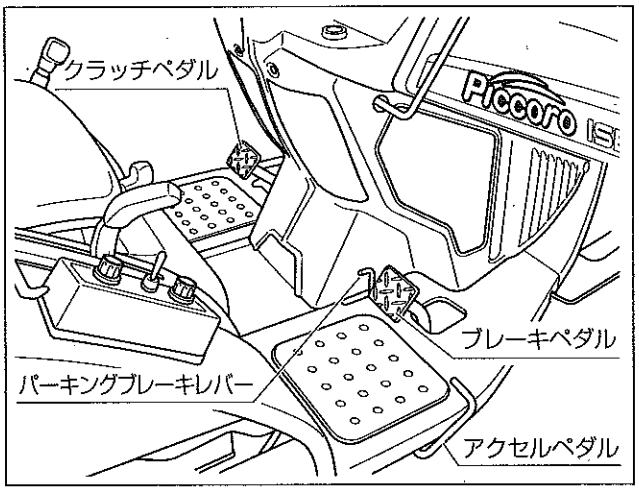
(3)フルクローラや作業機に他の人や物を乗せないでください。人が転落したり、物が落下したりして大変危険です。

(4)クラッチペダルは、ゆっくり離してください。急に離すと急発進して危険です。

(5)負荷の大きなけん引をする場合や、湿田での脱出時は、フルクローラが後方に転倒しないよう注意してください。

1. **コントロールレバーを上げ、作業機を上げます。**
2. **クラッチペダルを踏込んでクラッチを切ります。**
3. **主変速レバー、副変速レバー、リニアレバーを希望する変速位置に入れます。**
4. **ブレーキペダルを踏み、パーキングブレーキを外します。**
5. **アクセルレバーまたはアクセルペダルでエンジン回転を上げながらクラッチペダルをゆっくりと離します。**



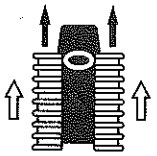
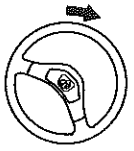
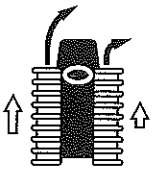
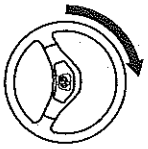
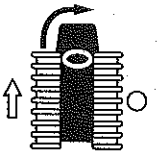
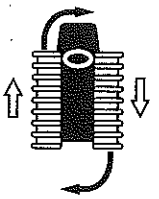

**重要**

- ●走行中はクラッチペダルおよびブレーキペダルから足を離してください。
- ●発進以外は半クラッチ操作をできるだけ避けてください。速度調節をクラッチで行わないようにしてください。クラッチの寿命が短くなります。
- ●路上走行するときは、PTO変速レバーは常に中立にしておいてください。

# 旋回のしかた

## ■フルクローラの進行方向操作

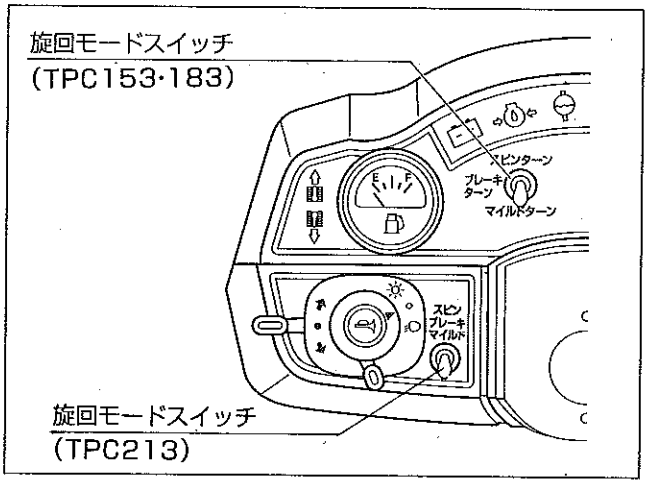
フルクローラは左右のクローラの回転差により旋回します。
ステアリングを切る角度によって旋回がマイルドターン⇒ブレーキターン⇒スピンターンの順に切り替わります。
ステアリングを元に戻せば、通常の「直進」状態に復帰します。
但し、ステアリングの**最大回転角は左右各1／2回転（約180度）**です。

| 進行方向操作 | ステアリングの状態 | 進行方向 | 副・主変速の位置 | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | 低速 | | | | 高速 | | | |
| | | | 1 | 2 | 3 | 4 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| (1)「直進」<br>ステアリングを回さない場合、左右のクローラは同じ速さで回転します。 | |  | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| (2)「マイルドターン」<br>ステアリングを回すと旋回内側のクローラが減速を始めます。 |  |  | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| (3)「ブレーキターン」<br>旋回内側のクローラが停止し支点旋回になります。 |  |  | □ | □ | □ | □ | □ | × | × | × |
| (4)「スピンターン」<br>旋回内側のクローラが逆回転を始めます。<br>但し副変速が「低」の時のみ作動します。 | |  | △ | △ | △ | △ | × | × | × | × |

○は運転操作が可能です。
□は旋回モードスイッチが「ブレーキターン」か「スピンターン」にしている時可能です。
△は旋回モードスイッチを「スピンターン」にしている時可能です。
×は運転操作できません。

## ■旋回モードスイッチ

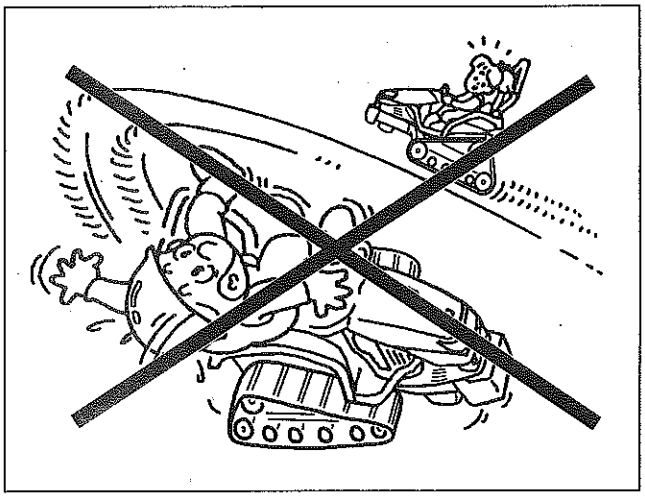
旋回モードを選択できます。作業に応じて「スピンターン」「ブレーキターン」「マイルドターン」を切り換えて下さい。変速位置により使用できないモードがあります。



**⚠ 警告**

(1)旋回するときは、できるだけエンジン回転を落し、必要な場合は変速位置を低速にしてください。高速で急旋回すると、転倒事故につながります。

(2)スピンターンするときはエンジン回転を落とし、ステアリングをしっかりにぎってください。これを怠ると転落事故につながります。



## 坂道での運転

**⚠ 警告**

(1)坂道では、急な旋回をしてはいけません。急旋回すると、転倒事故の原因になります。

(2)坂の状況に応じた安全なスピードで、走行してください。スピードを出しすぎると思わぬ傷害事故を引き起こすおそれがあります。

(3)坂の途中では、クラッチを切ったり、変速レバーを中立にしないでください。また下り坂では、エンジンブレーキを使用し、足ブレーキの多用はしないでください。これを怠るとスリップや転倒事故の原因になります。

(4)けん引はこのフルクローラに合った作業機をけん引ヒッチに取り付けて使用してください。適切でない作業機をけん引すると傷害事故の原因になります。不明な点がありましたら、「お買いあげ先」に相談し、無理なけん引は避けてください。

### ■急な上り坂での発進

(1)ブレーキペダルを踏込みます。

(2)クラッチペダルを踏込んで、クラッチを切ります。

(3)各変速レバーを低速位置に入れます。

(4)アクセルレバーでエンジン回転を中速にします。

(5)クラッチペダルをゆっくりと離し、半クラッチ状態にします。

(6)同時にブレーキペダルの踏込みを少しゆるめます。

(7)アクセルレバーをさらに引いて、エンジンの回転を上げながら、ブレーキペダルを離すと同時にクラッチペダルから足を静かに離すとフルクローラは発進します。

### ■下り坂での運転

下り坂ではエンジンブレーキを使用してください。ブレーキペダルを踏むだけで下るのは危険です。

## 制動および駐車

### TPC213

1. アクセルレバーを前方に押し、アクセルペダルから足を離して、エンジン回転を下げます。
2. クラッチペダルを踏込み、同時にブレーキペダルを踏込みます。
3. フルクローラが完全に停止してから、リニアレバーを「中立」にします。
4. 副変速レバーを「中立」にします。
5. パーキングブレーキをかけます。
6. 作業機を装着している場合は、コントロールレバーを下げて、作業機を降ろします。

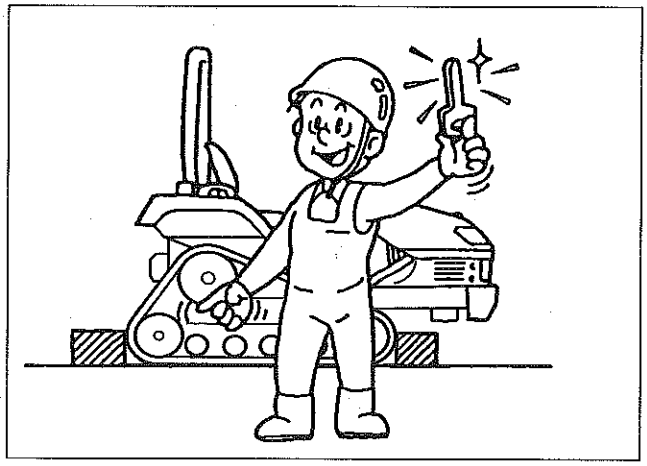
### TPC183・153

1. アクセルレバーを前方に押し、アクセルペダルから足を離して、エンジン回転を下げます。
2. クラッチペダルを踏込み、同時にブレーキペダルを踏込みます。
3. フルクローラが完全に停止してから、主変速レバーを「中立」にします。
4. パーキングブレーキをかけます。
5. 作業機を装着している場合は、コントロールレバーを下げて、作業機を降ろします。

⚠ 警告

(1) 駐車するときは、必ずパーキングブレーキを確実にかけてください。
このフルクローラは常時噛合式のトランスミッション機構を採用していますので、リニアレバー、主変速レバー（TPC153･183)、副変速レバーが中立でも、車体が動くことがあります。特に
①ミッションオイルが低温のとき
②エンジン回転が高いとき
に起こりやすくなります。この現象は異常ではありません。駐・停車のとき必ずパーキングブレーキをかけてください。

(2) フルクローラから離れるときは、エンジンを停止し、キーを抜き取り、パーキングブレーキをかけてください。
また、止めるところは、平坦な広い地面の硬い場所を選んでください。



怠るとフルクローラが、自然に動き出したりしてたいへん危険です。

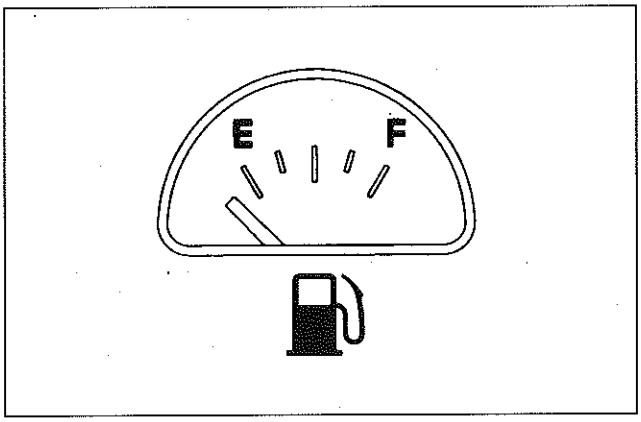
(3)フルクローラを草やワラの上に止めて空吹かしをしたり、高回転にしたりすると排気管の熱や排気ガスにより、ワラなどに着火し火災の原因になるおそれがあります。

## 運転中の作動確認

**運転中、メータ類に異常はないか、モニタランプが点灯していないかを、常に注意してください。**
**路上走行中は、メータ類で確認し速度の出しすぎに注意してください。**

### ■燃料計

メインスイッチ「運転」の位置で燃料の量を表示します。

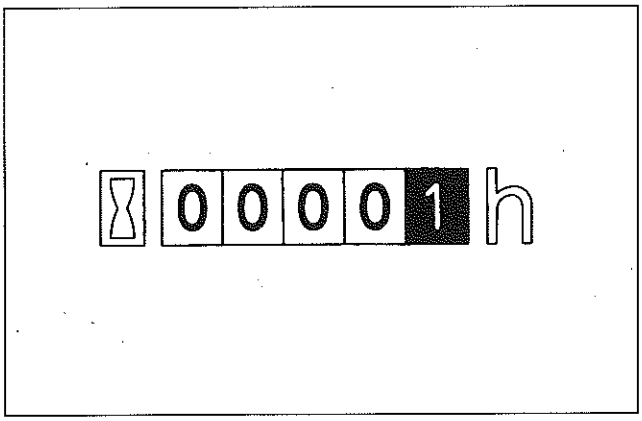



**重要**

- フルクローラが傾斜している場合、正しい燃料の量を示さないことがあります。
- フルクローラが傾斜したあと水平になっても、正しい燃料の量を示すまでに少し時間がかかります。

### ■アワーメータ

積算時間は、５桁になっています。
最後の1桁は、1/10時間を示します。

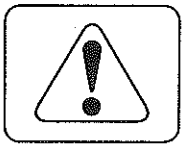



**重要**

約2500rpmのエンジン回転数で１時間作業すると、アワメータが１時間積算されます。

重要

## ●システム異常警告灯が点灯または点滅したときの処置



制御系に異常が発生した場合、または油圧装置が準備中の時点灯します。エンジンを始動した直後は必ず点灯しますがこの間は油圧装置が準備中です。十分暖機を行いシステム異常警告灯の消灯を確認してから走行を始めてください。（暖機時間は38ページ参照）

十分暖機しても消灯しない時はフィルタが目づまりしている恐れがありますのでミッションオイルフィルタ(80ページ)を洗浄または交換してください。

バックアップ作動時に、点灯した時は、バックアップの作動不良です。リニアレバーを前進に切換えて、コントロールレバーを手動で上昇させてください。

エンジンが自動停止して点滅している場合は「お買いあげ先」に連絡して点検を受けてください。

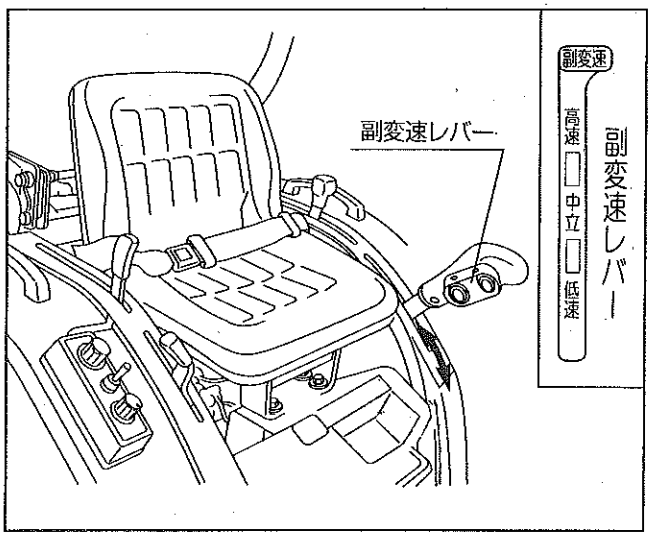
⚠ 警告

● システム異常警告灯が点灯または点滅した状態で走行や作業を続けますと走行制御ができないため傷害事故を起こすおそれがあります。すみやかにフルクローラを停止させてください。

# 変速のしかた（TPC213）

## ■副変速レバー

「低速」「高速」の2段階に変速することができます。




**重要**

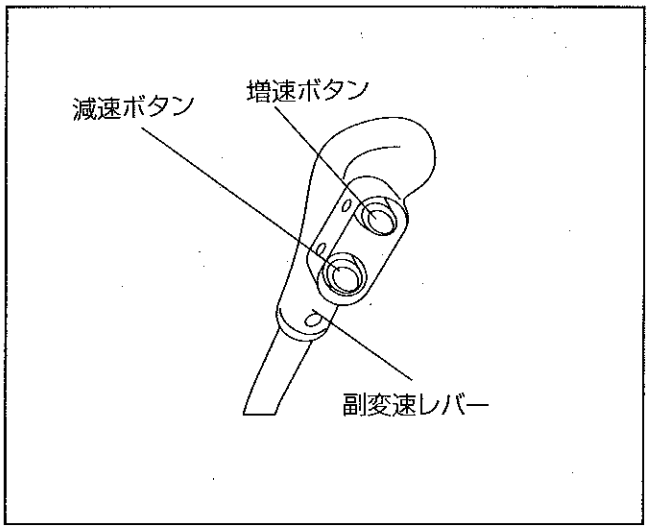
**副変速レバー操作は、クラッチペダルを踏みフルクローラが完全に停止してから操作してください。走行中に変速するとミッションの損傷につながります。**

## ■主変速ボタン

(1) 副変速レバーのグリップに付いている主変速ボタンを操作すると、主変速がクラッチペダルの操作なしで変速できます。

増速ボタン…ボタンを押すごとに車速が1段ずつ上がります。

減速ボタン…ボタンを押すごとに車速が1段ずつ下がります。




(2) クラッチペダルを踏み込んでいる時、またはリニアレバーを「中立」にしている時または、副変速レバーを「中立」にしている時は、「増速ボタン」「減速ボタン」を押し続けることにより連続変速ができます。(停止状態)

増速ボタン…押し続けている間、連続して車速が1段ずつ上がる。

減速ボタン…押し続けている間、連続して車速が1段ずつ下がる。

**重要**

**●主変速には「中立」位置はありません。**

**●路上走行中の「増速」「減速」は、エンジン回転を落としてから行ってください。**

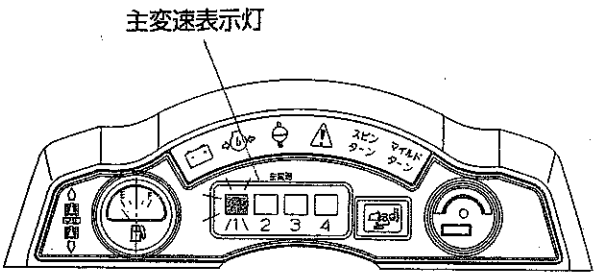
**●ミッション油温が低い時に、発進および変速の時間が遅れる場合があります。**
**これは異常ではありません。**
**油温が上がれば正常に発進することができます。必ず暖機運転をしてください。**

## ■変速位置表示

(1) 主変速表示灯に現在の主変速位置が表示されます。

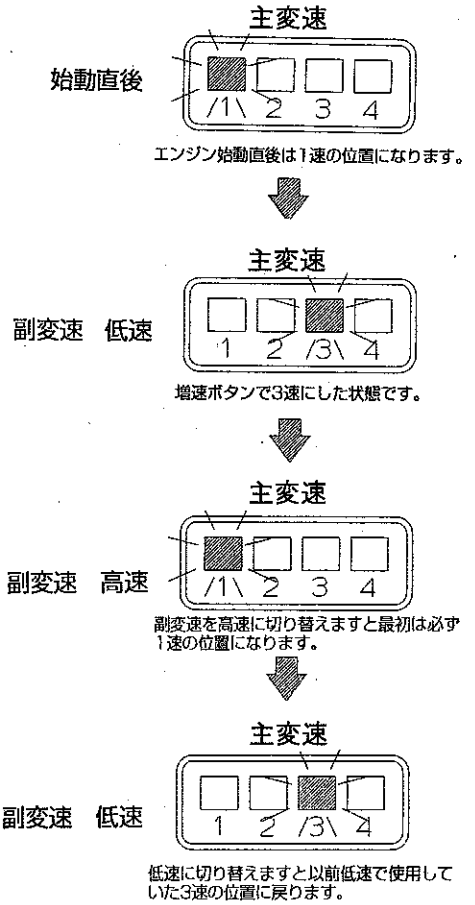
(2) 副変速が低速の場合は、主変速の位置を記憶しております。高速に切替えた場合でも低速に戻しますと再び同じ主変速位置になります。

(3) 副変速を高速にした場合は、1速の位置になります。
増速・減速ボタンを操作して切り換えてください。
高速の場合は、主変速位置は記憶されません。




現在主変速は1速になっています。

**操作例**




**⚠ 警告**

旋回中には、変速操作をしないで下さい。また、上り坂や下り坂での変速操作もしないでください。変速ショックが大きくなります。
あらかじめ低速で安全な変速位置に入れて使用してください。

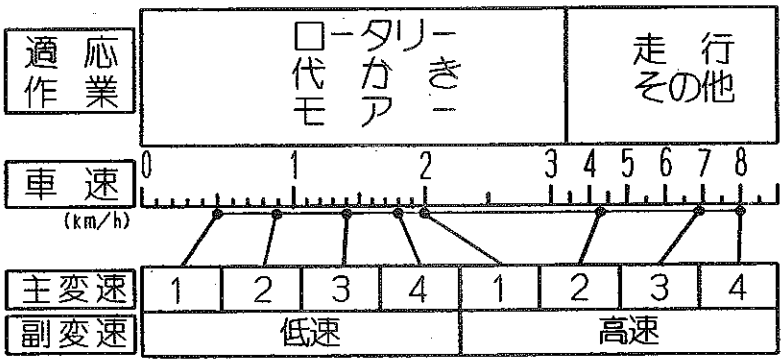
# 作業のしかた

## 作業運転のしかた

### ■走行速度

フルクローラの走行速度は、作業内容・ほ場の条件により異なります。安全で最適な速度で、作業をしてください。

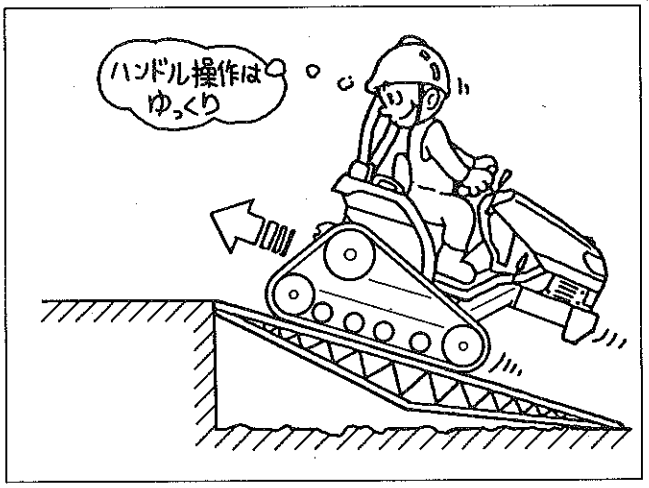
車速表

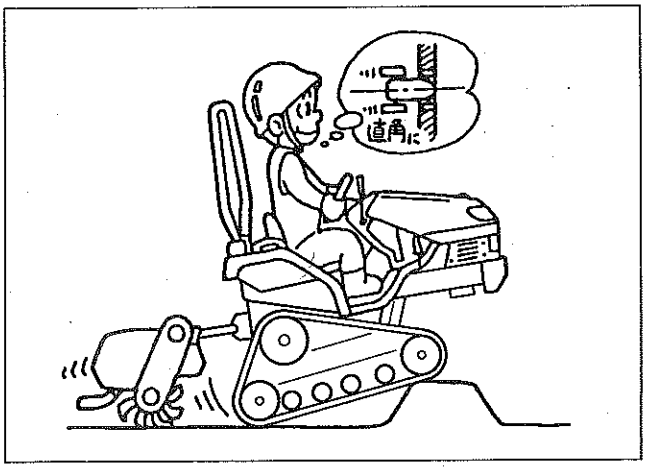



### ■ほ場の出入り

**⚠ 警告**

- 道路とほ場の高低差が大きい場合や畦の高さが高い場合は、必ずアユミを使用してください。
  使用しなかった場合、衝撃で機械を破損させたり、転倒するおそれがあり危険です。
- アユミの上を移動中は、なるべくステアリングを回さないでください。
  ステアリングを大きく回すと、急に機体が振られて転落する危険があります。
- 畦を横断するときは、作業機の回転を止め作業機を低くして低速で、畦と直角にゆっくり走行してください。
  斜めになると、スリップや転倒の原因になります。
- 常に前・後輪のバランスを考えながら操作してください。バンパウエイトがわりに人が乗ったりすると傷害事故を引き起こすおそれがあります。



### ■ほ場での旋回

(1)ほ場での旋回は、ステアリングの回しすぎに注意してください。軟弱なほ場ほど大きく旋回した方がほ場を傷めません。また軟弱なほ場ではスピンターンを使用しないでください。ほ場を傷めるばかりでなく、クローラが沈下する恐れがあります。

(2)クローラが深みに入った場合は、直進で脱出してください。

(3)作業速度やほ場の傾斜の程度に配慮し、安全な作業をしてください。

> **⚠ 警告**
>
> 作業機を装着すると、かなりの長さになり旋回半径が大きくなりますので、周囲の人や構築物に注意してください。これを怠ると傷害事故や機械の破損を引き起こすおそれがあります。

## PTOの使いかた

### ■PTO軸回転速度

トラクタのPTO軸回転速度は、作業内容・ほ場の条件により異なります。安全で最適な速度で、作業をしてください。

| 機種 | | TPC153 | | TPC183 | TPC213 | 作業内容 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 回転方向 | | 2P仕様 | 3P仕様 | 3P仕様 | 3P仕様 | |
| | PTO | 回転数/分 | 回転数/分 | 回転数/分 | 回転数/分 | |
| 正転 | 1速 | 466 | 466 | 456 | 468 | ロータリ耕うん・畦立て |
| | 2速 | 666 | 567 | 555 | 555 | |
| | 3速 | — | 666 | 652 | 651 | ロータリ耕うん・畦立て・代掻き・砕土 |
| 逆転 | 逆転 | 563 | 558 | 550 | 545 | 土寄せ作業<br>(未耕地耕うん作業には使用しないでください) |

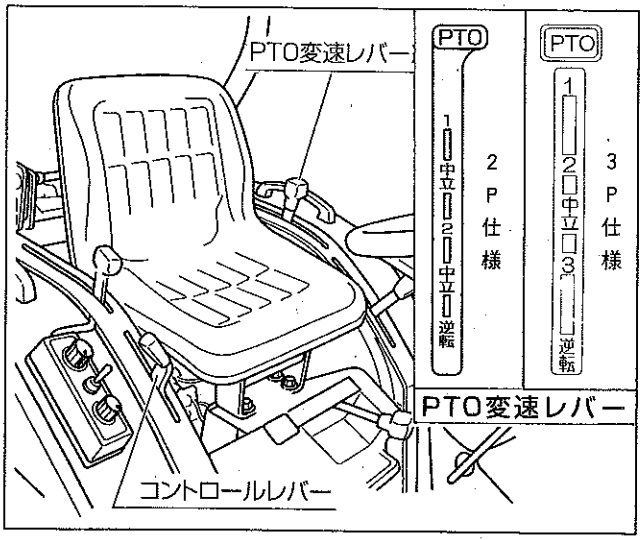
### ■PTO変速レバー

PTO軸（動力取り出し軸）の回転速度は作業内容によって切り換えてください。

2P仕様「1速」
3P仕様「1速、2速」 } 荒起こし作業をします。

2P仕様「2速」
3P仕様「3速」 } 通常耕起をします。

逆転……PTO回転方向が逆転します。
ほ場の四隅に土が溜まった場合の土寄せ作業に威力を発揮します。



⚠ 注意

逆転でロータリ作業機を使用するときは、エンジン回転は低くしてお使いください。これを怠ると土・小石等が飛散して周囲の人や作業者がケガを負うおそれがあります。

**重要**

●逆転での未耕地耕うん作業は行わないでください。

●逆転での作業を終えた後、爪の増し締めを行ってください。

●使用法を誤るとフルクローラ・作業機の故障の原因となります。

⚠ 注意

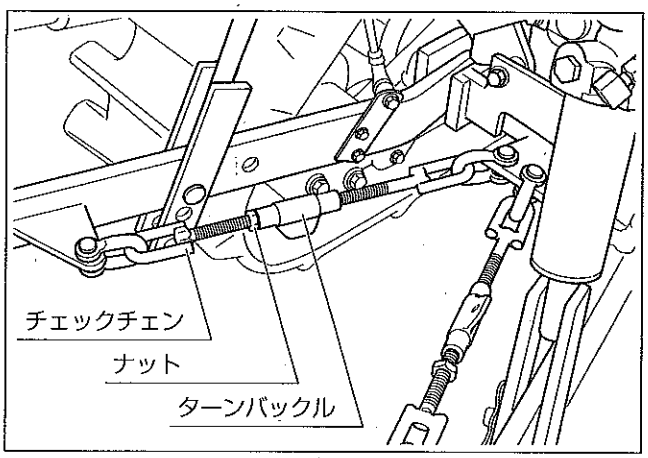
● 低速回転で使用すべき作業機を高速回転で使用しないでください。作業機に指定されたPTO回転速度を厳守してください。これを怠ると作業機を破損したり、思わぬ事故の原因になります。

**重要**

PTO変速レバーの操作は、必ずクラッチペダルを踏込んで、PTO軸回転が完全に停止してから行ってください。入りにくい場合は、もう一度クラッチペダルを踏み直してから操作してください。

## 3点リンクの取扱いと作業機の取付け・取外し（P1仕様）

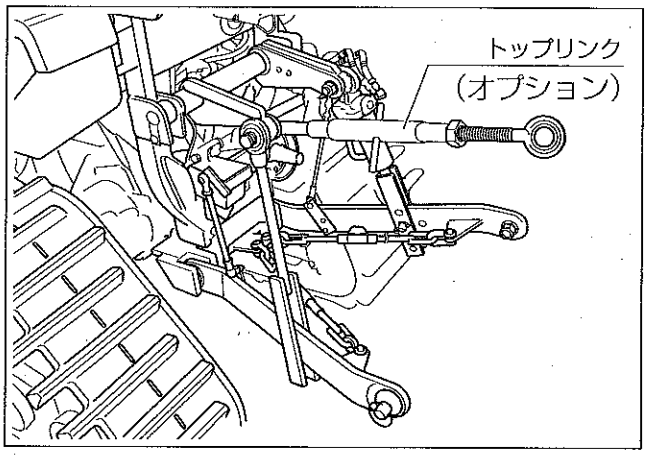
本トラクタの3点リンクはJIS0型です。




### ■チェックチェーンの調整

ロワーリンクの左右振れ幅をチェックチェーンで調整してください。

| 作業機 | チェーンの張り具合 |
|---|---|
| プラウ | 5～6cm左右に動く程度に張り、ヘアピンにて回り止めをする |
| ロータリハロー | ゆるみのない程度に張り、ナットにて回り止めをする |




### ■トップリンクの調整

(1)長さを伸縮させ、作業機の傾きを調整してください。

(2)トップリンク取付け位置は、作業機の種類により違います。作業機の取扱説明書をお読みいただき、正しい取付け位置に装着してください。

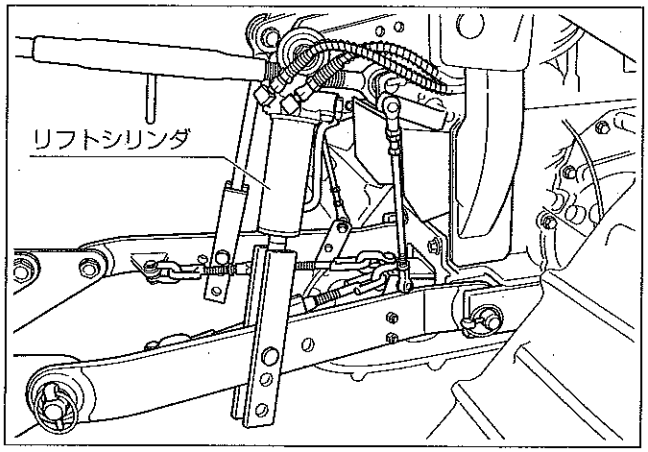
### ■リフトシリンダの調整

作業機の脱着時は、リフトシリンダを操作してください。

(1)水平制御切換スイッチを「手動」位置にしてください。

(2)手動調節レバーを操作し、左右のロワーリンクの高さを調整してください。

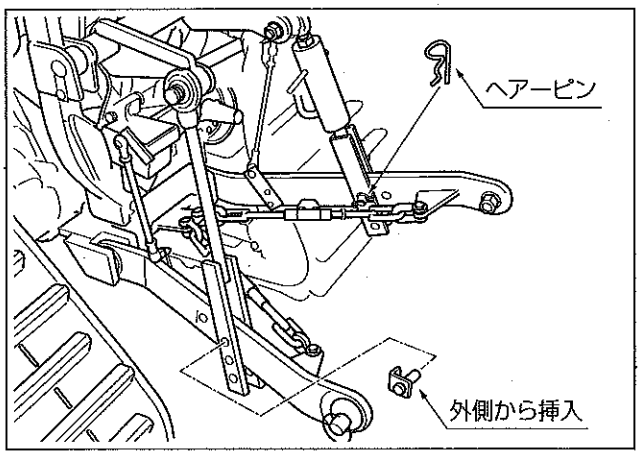
(3)スイッチから手を離すと、その位置でリフトシリンダの作動が止まります。



## ■リフトロッド取付け穴位置

リフトロッドのロワーリンクへの取付けは、図のように一般作業機、特３Ｐロータリの場合と使い分けてください。

ピンは外側から取付けてください。

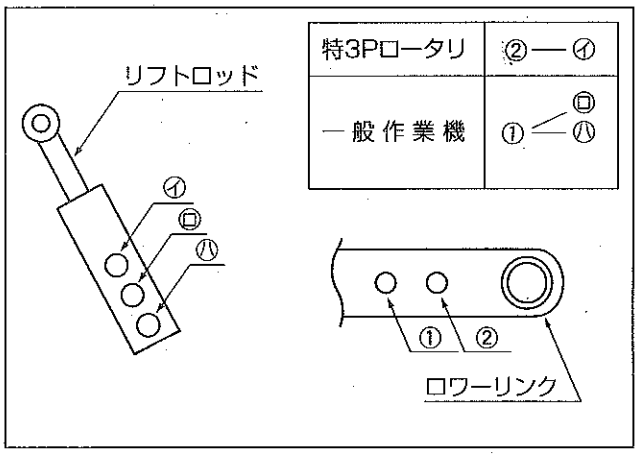



**重要**

**初めて作業機を装着した場合は、トップリンクマストと、トラクタ側の干渉に注意して除々に上げてください。**

**ロワーリンクの穴位置①と②は水平制御切換スイッチと合わせてください。**

**自動を使用する場合は、正しく合わせて作業しないと水平の精度が低下します。**




詳しくは、60ページを参照してください。

## ■作業機の取付け・取外し

作業機の取付け・取外しは、作業機の取扱い説明書に従い、行ってください。

**⚠ 警告**

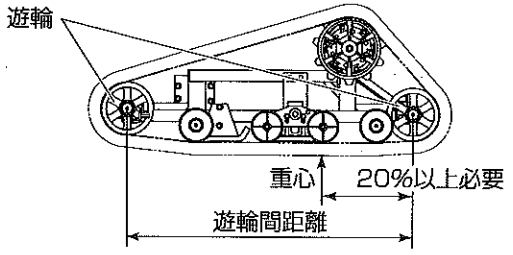
- 作業機の取付け・取外しは、平たんな場所で行ってください。怠ると機械が急に動いたり、傾いたりして思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。
- 作業機の取付け・取外しは、フルクローラと作業機の間に立ってしないで、脇から扱うようにしてください。フルクローラと作業機の間にはさまれたりして、傷害事故を引き起こすおそれがあります。
- 作業機を外した状態で、PTO軸を回転させないでください。また、PTO軸を使わない場合は、PTO軸キャップを取付けてください。怠ると衣服が軸に巻き込まれたりして、傷害事故を引き起こすおそれがあります。
- 作業機に寄りかかったり、乗ったりしないでください。怠ると、転倒または転落したりして危険です。

## ■バンパウエイト取付について

〈注文部品(117ページ参照)〉

**⚠ 警告**

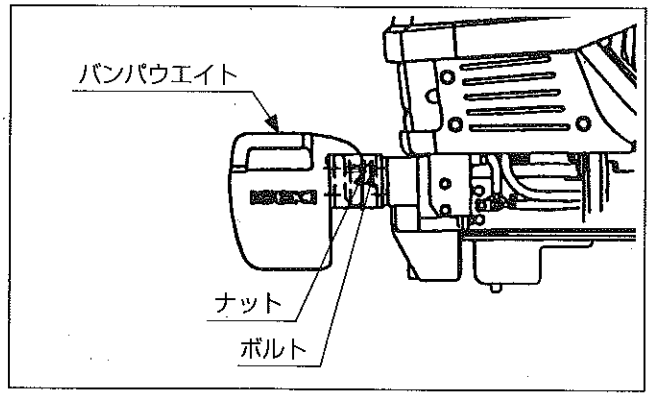
作業機を取り付けた時の前後バランスは重心位置と後遊輪までの距離が遊輪間距離の20%以上になるようにしてください。20%以下の場合には必ずバンパウエイトを装着し安定した姿勢で作業できるようにしてください。バンパウエイトは4枚(15kg×4枚)装着可能です。4枚装着しても20%以下になる作業機は装着しないでください。怠るとフルクローラの前方が浮き上がったり傾いたりして思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。




## ■けん引作業について

**⚠ 警告**

けん引作業を行う場合は、必ず純正品のトレーラヒッチを使用してください。
怠るとフルクローラが浮き上がったり、傾いたりして傷害事故を引き起こすおそれがあります。



# 油圧装置の使いかた

## ■コントロールレバー

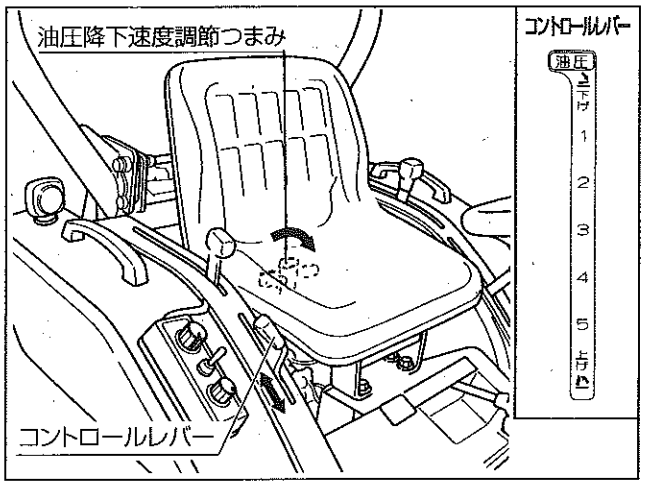
**TPC213**

作業機の上げ・下げは、コントロールレバーで行なってください。コントロールレバーを任意の位置に止めることによって作業機を同じ高さに止めることができます。

**◆操作方法**

油圧上げ……レバーを後方に引くと作業機は上がります。

油圧下げ……レバーを前方に倒すと作業機は下がります。




> **⚠ 警告**
>
> 作業中フルクローラから離れるときは、必ず作業機を下げて、エンジンを停止してください。

## ■コントロールレバー

**TPC183・153**

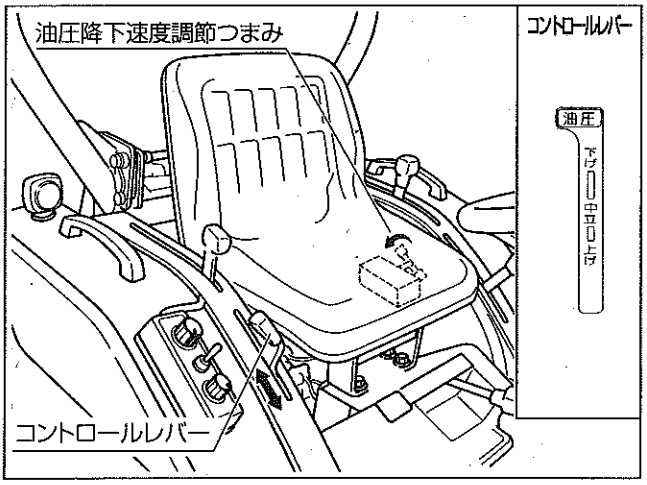
作業機の上げ・下げは、コントロールレバーで行なってください。

**◆操作方法**

油圧上げ……レバーを後方に引くと作業機は上がります。（最上げ位置まで上がると自動的に「中立」に戻ります）

油圧中立……現在の高さで作業機が止まります。

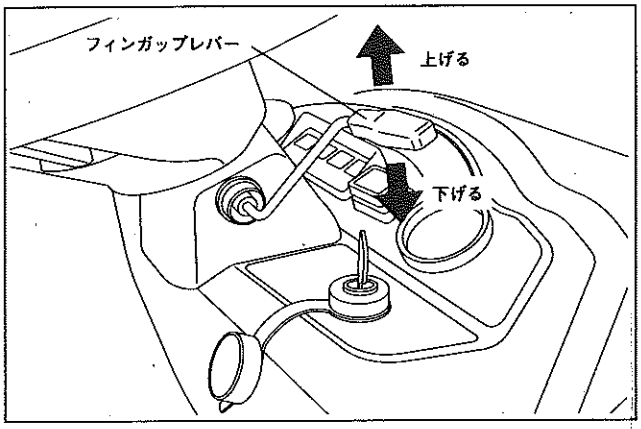
油圧下げ……レバーを前方に倒すと作業機は下がります。



## ■フィンガップレバー

**TPC213**

レバーをワンタッチで操作するだけで、作業機の上昇・下降ができます。




**◆操作方法**

レバーを上げる……作業機が最上げ位置高さまで上がる。

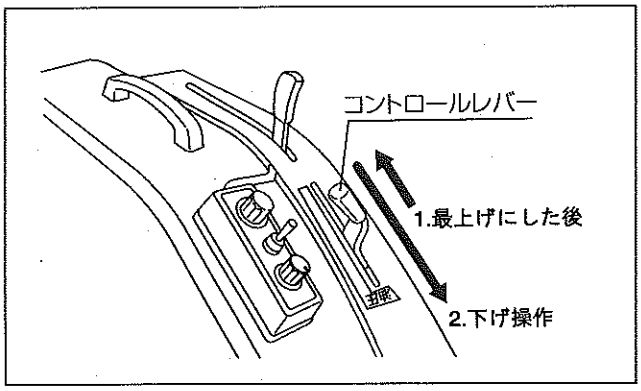
レバーを下げる……作業機がコントロールレバー位置まで下がる。

**重要**

●フィンガップレバーを上げ方向に操作すると、作業機は上がります。最上昇位置まで上げると、作業機の種類によっては、フルクローラと干渉する場合があります。
作業機を付け換えたときは、コントロールレバーで作業機をゆっくりと上げ、干渉しないことを確認してください。

●フィンガップレバーで上昇した後、コントロールレバーで下げる時は、コントロールレバーを最上げにした後、「下げ」方向に操作してください。
作業機はコントロールレバーに追従します。

●油圧降下速度調節つまみを開いてコントロールレバーを下げているのに作業機が下がらない場合は「上昇」が保持されている場合があります。




この場合はコントロールレバーを最上げに操作した後、「下げ」にするか、フィンガップレバーを「下げ」に操作すると作業機は下がります。

**⚠ 警告**

●フィンガップレバーは、ほ場内での作業時のみ使用してください。ほ場以外では、コントロールレバーで作業機を上昇・下降させてください。
守らないと、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

**⚠ 注意**

●畦(あぜ)際に作業機を降下させる場合は、コントロールレバーでゆっくり下げてください。
フィンガップレバーで下げると、作業機が速く下がり、畦(あぜ)と作業機が当たって畦(あぜ)や作業機が破損するおそれがあります。

## ■油圧降下速度調節つまみ

作業機の降下速度を調節します。

作業機の種類、作業状況によって降下速度を調節してください。

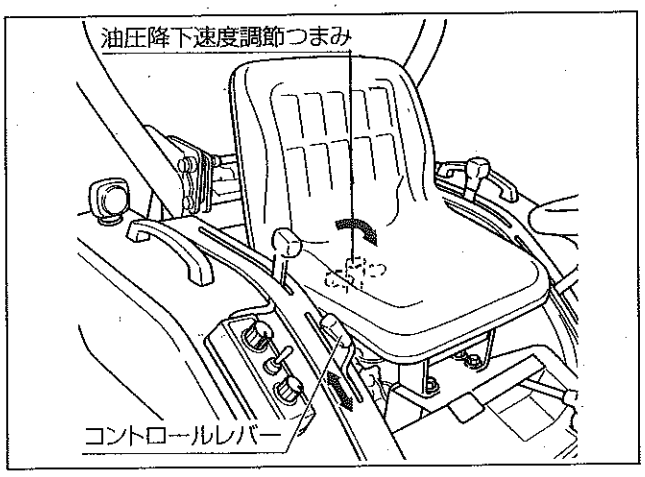
●ロータリ作業…降下速度を遅くしてください。

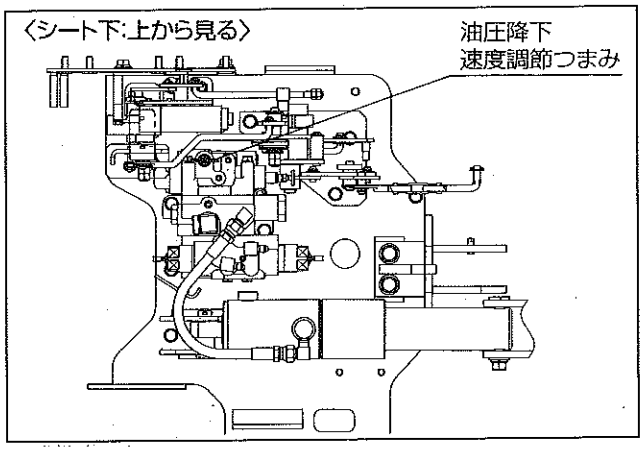
降下速度を遅く…つまみを時計方向に回します。

降下速度を速く…つまみを反時計方向に回します。

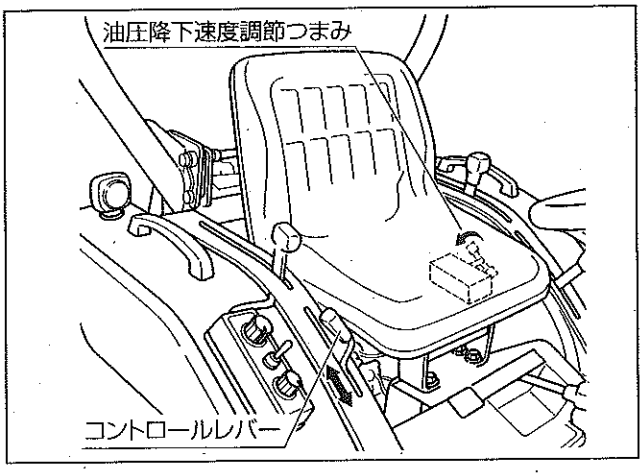
ロック……つまみを時計方向にいっぱい回します。

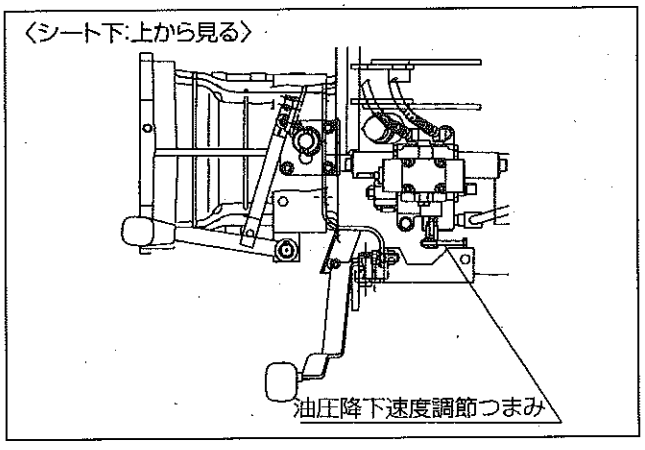
TPC213




TPC183・153




**⚠ 警告**

次のような場合は、必ず油圧降下速度調節つまみを「ロック」にしてください。その後コントロールレバーを「作業機下げ」位置にして、作業機が落下しないことを確認してください。その後、TPC183・153は、コントロールレバーを「中立」の位置へTPC213は最上げ位置に戻して下さい。 怠ると傷害事故の原因になります。

- 移動するとき。
- ロータリの爪交換、草、ワラなどの除去（必ずエンジンを停止してください）。
- 作業機の点検・調整（必ずエンジンを停止してください）。

## ■バックアップスイッチ (P1仕様)

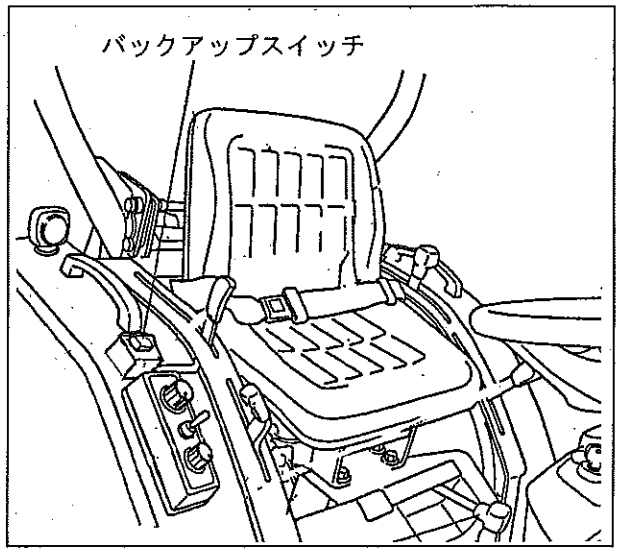
リニアレバーを「後進」に操作すると作業機が自動的に上がります。

操作方法

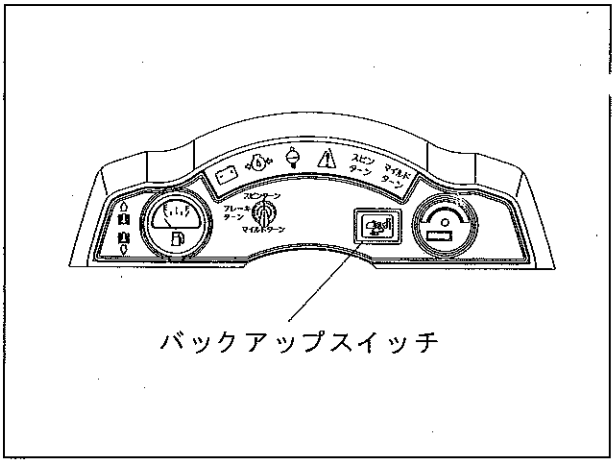
(1) バックアップスイッチを「入」にしてください。バックアップランプが点灯します。

(2) リニアレバーを「後進」に操作すると作業機が自動的に上がります。

(3) 作業機が上がった後、下げたい場合は油圧レバーを下げに倒してください。TPC213は、フィンガップレバーで下げることもできます。



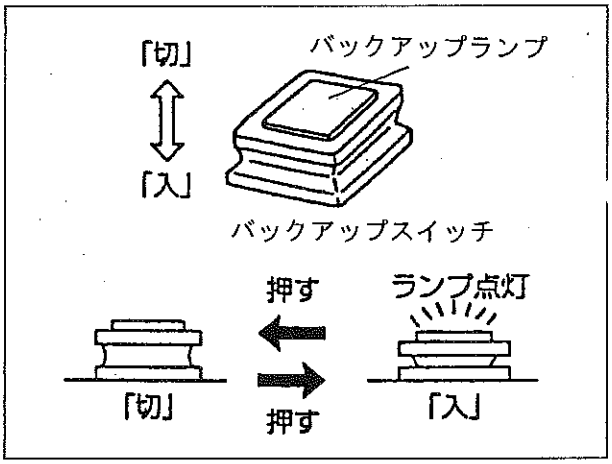
(TPC153)



(TPC213・183)

**重要**

- **この機能はリニアレバーを「前進」から「後進」に操作したときに作業機が上がるものです。しかし作業機が上がった後、コントロールレバーを下げた場合はそのまま後進しますと作業機を破損させてしまいます。この場合はコントロールレバーを「上げ」に倒して手動で操作してください。後進中は作業機の上昇を確認しながら作業してください。**
- **バックアップが正しく作動しなかった場合にはシステム異常ランプが点灯しブザーが連続でなります。この場合はリニアレバーを前進に操作しますとシステム異常ランプが消灯しブザーが鳴りやみます。**

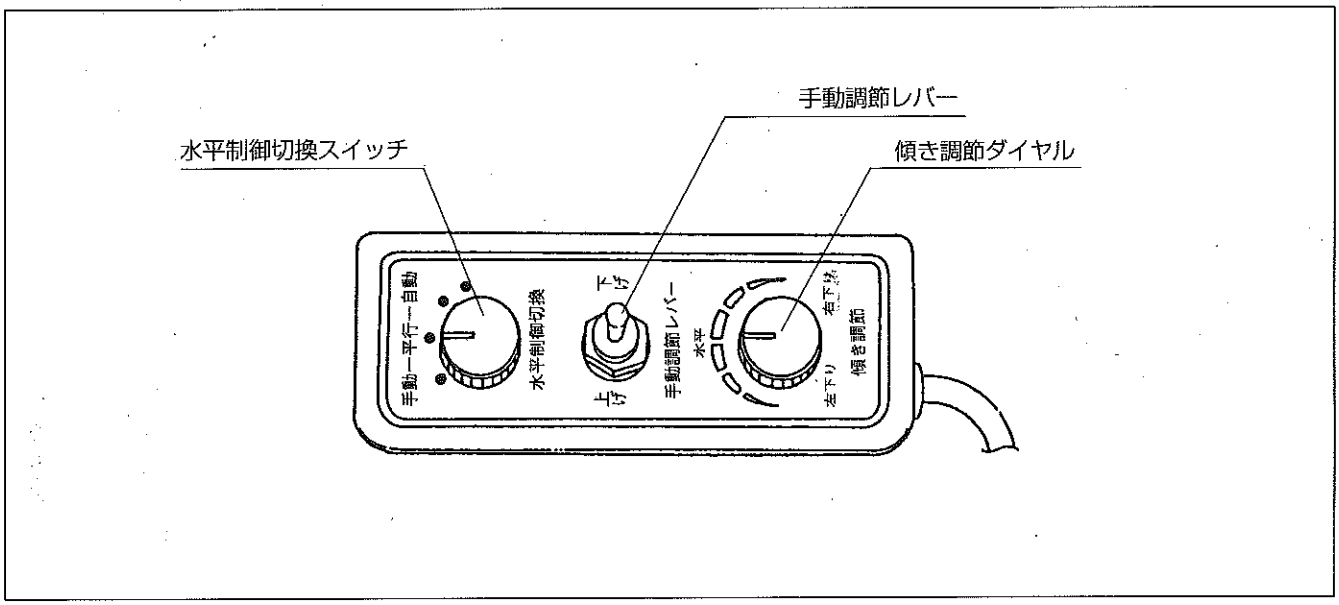



**⚠ 警告**

- **ほ場以外では、必ずバックアップスイッチを「切」にしてください。怠ると思わぬ傷害事故を引き起こす恐れがあります。**

# 水平油圧装置の取扱い

## ■スイッチの名称と操作




## ■水平制御切換スイッチ

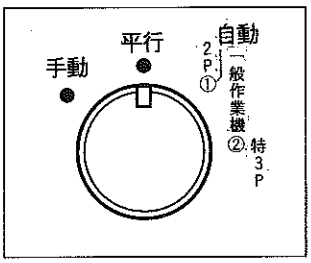
「自動」「平行」「手動」の切換ができます。

「自動」…作業機は自動的に水平になります。

「自動」には①と②がありますので条件によって切り換えてください。

「平行」…作業機はフルクローラと平行になります。

「手動」…作業機は希望の傾きに操作できます。

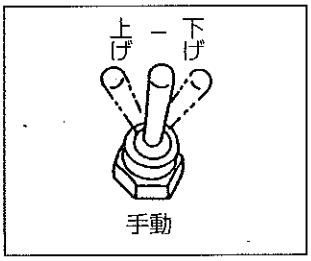



## ■手動調節レバー

作業機を手動で左右に傾斜させるときに使用します。

『上げ』…… 方向に倒すと作業機は右上りになります。

『下げ』…… 方向に倒すと作業機は右下りになります。



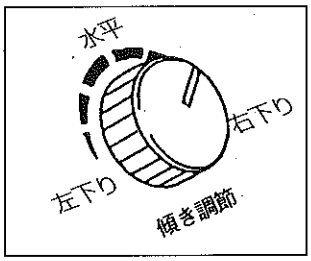

## ■傾き調節ダイヤル

作業機の傾きを調節します。

『水平』…… 位置にすると作業機は自動的に水平を保持します。

『右下り』…位置にすると自動的に右下りになります。

『左下り』…位置にすると自動的に左下りになります。



## ■水平制御切換スイッチの操作方法

### ▶自動

作業機は自動的に水平になりますので、次のような作業に効果があります。

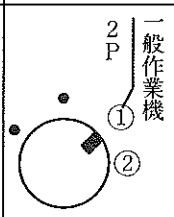
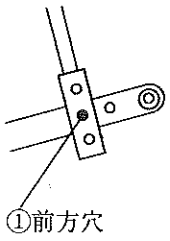
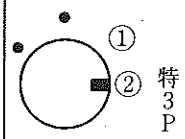
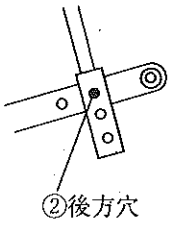
(1)あぜ際耕うん、枕地、凹凸地での均平耕うん。

(2)整地板などによる均平作業。

(3)畝立て、畝崩し作業。

### 自動①と②の切換え

下表に従って①と②を切換えてください。

| 組み合せ | 切換スイッチの位置 | ロワーリンクの組付け位置 |
|---|---|---|
| ・2P仕様<br>・3P仕様で標準3Pの作業機を装着するとき。 |  |  |
| ・3P仕様で特殊3Pのロータリを装着するとき。 |  |  |

**重要**

**切換スイッチを正しく合わせないと水平の精度が低下します。**

### ▶平行

作業機は、本機と平行になりますので、従来標準機と同様に作業してください。

### ▶手動

任意の傾きで作業姿勢を固定できますので次のような作業に効果があります。

(1)メロン、スイカなどの広幅うね作り。

(2)プラウ作業のすき込み調整。

**重要**

**「手動」で作業機を傾けた状態で作業機を最上昇位置に持ち上げるとジョイント騒音が高くなる場合があります。**

**切換スイッチを「自動」で回行時或いは畦越え時など作業機を持ち上げ、ジョイント騒音が高くなる時は、切換スイッチを「平行」に切換えてください。**

**ユニバーサルジョイントを使用する作業機でリフトシリンダを最も縮めた状態で作業機を最上昇位置に持ち上げるときは、ジョイント保護のため切換スイッチを「平行」に切換えてください。**

**配線点検時はエンジンを停止し、キースイッチを「停止」位置にしてから行なってください。**

**作業機を脱着する場合には水平制御切換スイッチを必ず「手動」にしてください。**

**作業機をはずした状態で「平行」や「自動」を使用しますと正しく水平制御が、はたらかず装置が故障するおそれがあります。**

**⚠ 警告**

- **道路走行、トラックへの積み降ろしの際は切換スイッチを「平行」にしてください。**
  **途中で傾いてアユミ等にひっかけると、傷害事故につながります。**

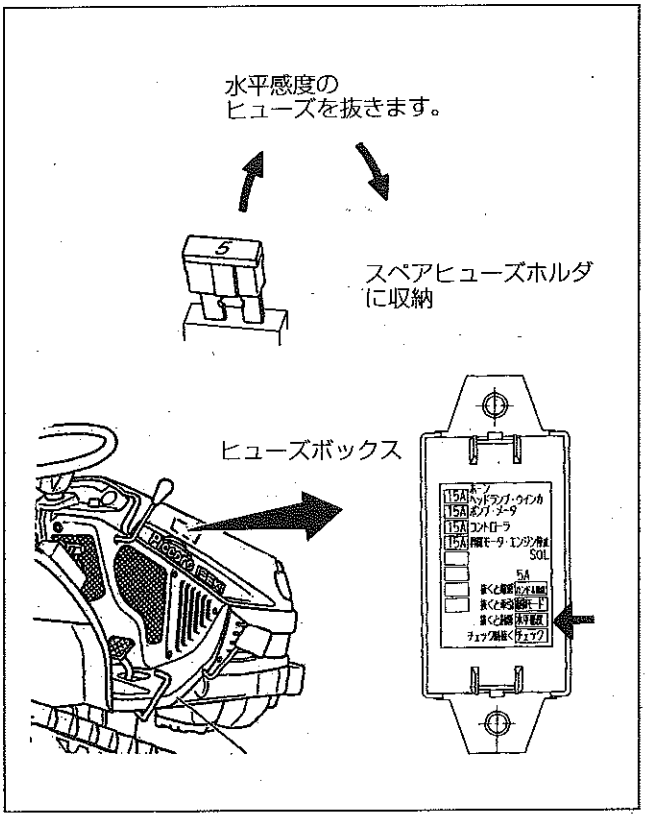
## ■水平感度の切換方法

水平制御切換スイッチを「自動」で作業する場合に水平制御の感度を切換できます。

### TPC213

| 水平感度 | 動　　作 | 切換方法 |
|---|---|---|
| 鈍　感<br>(出荷時) | 感度は鈍くなります。 | 水平感度切換ヒューズを挿入します。 |
| 標　準 | 感度はやや鋭くなります。 | 水平感度切換ヒューズを抜きます。 |

切換ヒューズはヒューズボックスにあります。



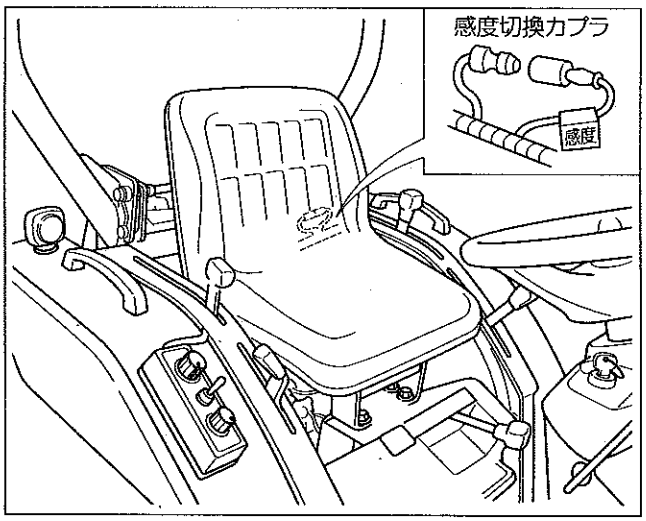

**重要**

**●5Aのヒューズ（4個）はモードの切換用で、出荷時はすべて挿入されています。水平感度以外の切換はお買いあげ先にご相談下さい。**

### TPC183・153

| 水平感度 | 動　　作 | 切換方法 |
|---|---|---|
| 鈍　感<br>(出荷時) | 感度は鈍くなります。 | 水平感度切換カプラを接続します。 |
| 標　準 | 感度はやや鋭くなります。 | 水平感度切換カプラを抜きます。 |

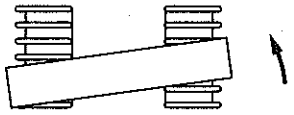
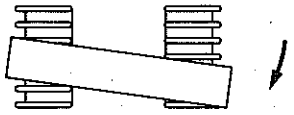
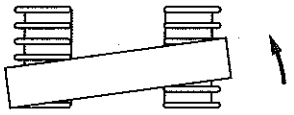
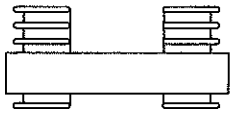
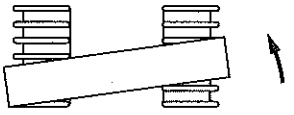
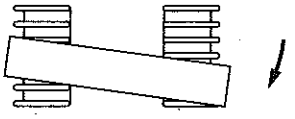
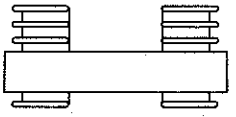
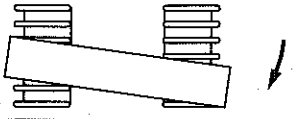
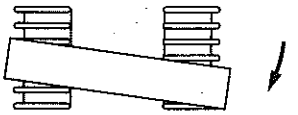
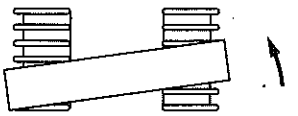
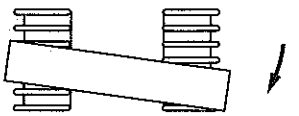
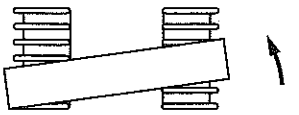
切換カプラは左後方にあります。




**重要**

**●感度の切換には、水平感度とハンドル感度がありますので間違えないよう注意してください。**
**工場出荷時は下表のようになっています。**
**水平感度以外の切換はお買いあげ先にご相談下さい。**

| | 工場出荷時の設定 | 感　度 | カプラのハーネス色 |
|---|---|---|---|
| 水平感度 | カプラ接続 | 鈍 | 茶 |

| 水平制御切換スイッチ | 傾き調節ダイヤル | 手動調節レバー | 作業機の動き |
|---|---|---|---|
| 「手動」位置 | | ㊤ － 下 | 右上り  |
| | | 上 － ㊦ | 右下り  |
| | | 上 － 下 | 右上り、右下り、いずれかの位置でそのまま停止 |
| 「平行」位置 | | ㊤ － 下 | 右上り  |
| | | 上 － ㊦ | 右下り |
| | | 上 － 下 | 自動的に本機と平行  |
| 「自動」位置 | 「水平」位置 | ㊤ － 下 | 右上り  |
| | | 上 － ㊦ | 右下り  |
| | | 上 － 下 | 自動的に水平  |
| 「自動」位置 | 「右下り」位置 | ㊤ － 下 | 右上り |
| | | 上 － ㊦ | 右下り  |
| | | 上 － 下 | 右下り  |
| 「自動」位置 | 「左下り」位置 | ㊤ － 下 | 右上り  |
| | | 上 － ㊦ | 右下り  |
| | | 上 － 下 | 右上り  |

## オートロータリの取扱い

### ■耕深調整レバー

ロータリの耕うん深さを調整します。

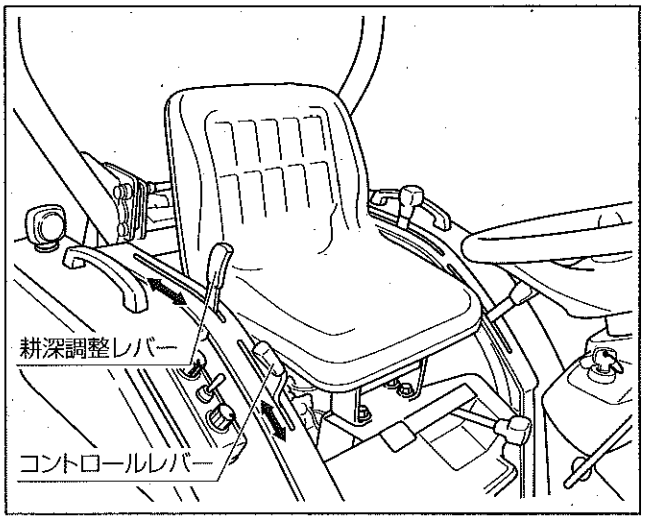
『耕深を深く』……レバーを前方に

『耕深を浅く』……レバーを後方に

ご希望の耕深位置にレバーを合わせてください。

(1)耕うん作業中はコントロールレバーを『下げ』の位置にしてください。

(2)回行時などでのロータリの上げ下げは、コントロールレバーで行ってください。




**重要**

**● ロータリの降り速度はあらかじめ油圧降下速度調節つまみで1.5～2.0秒に調節してください。**

### TPC213

#### ■ケーブル（オート）の取付

(1)コントロールレバーを「下げ」位置にしてロータリを接地させてください。

(2)ロータリ側のオート切換えレバーなどを図のように取り付けてください。

(3)ワイヤホルダを取り付け、ヘアーピン(2個)を挿入してください。

(4)エンジンを始動し、リヤカバーの上げ下げに応じて、ロータリが上がり下がりする事を確認してください。

### TPC183・153

#### ■ケーブル（オート）の取付

(1)コントロールレバーを「下げ」位置にしてロータリを接地させてください。

(2)ロータリ側のオート切換えレバーなどを図のように取り付けてください。

(3)ケーブル（オート）をケーブルガイドに通してください。

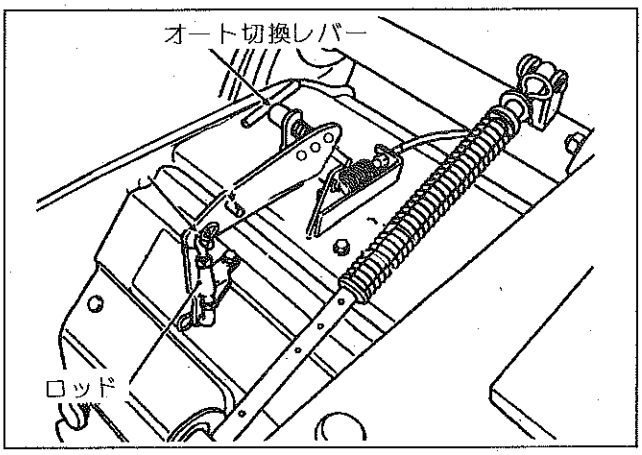
(4)ワイヤホルダ（シート右下）を取り付け、ヘアーピン（2個）を挿入してください。

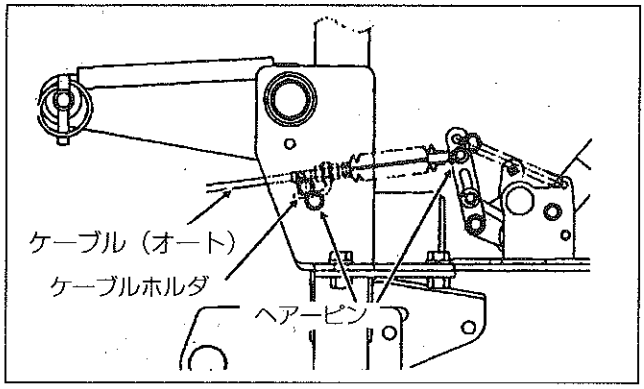
(5)エンジンを始動し、リヤカバーの上げ下げに応じて、ロータリが上がり下がりする事を確認してください。

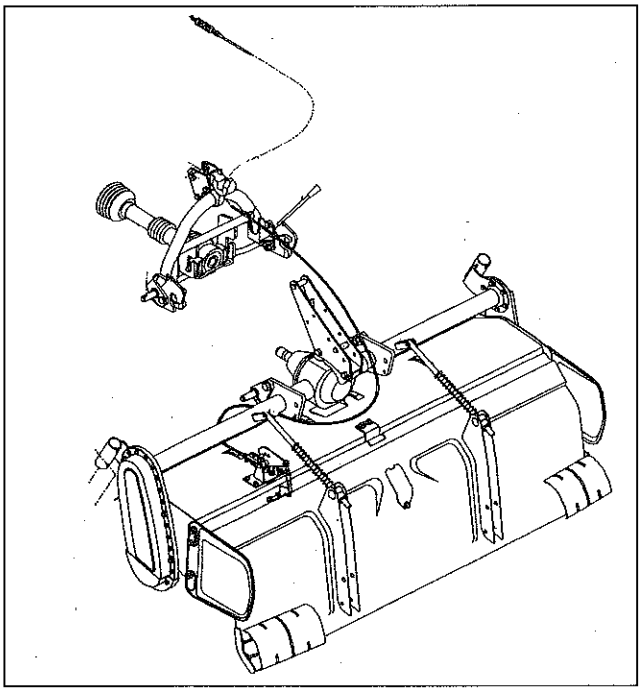
**重要**

**● オートロータリ作業以外のときには、耕深調整レバーを「最深」位置（前方）でご使用ください。**

## TPC213

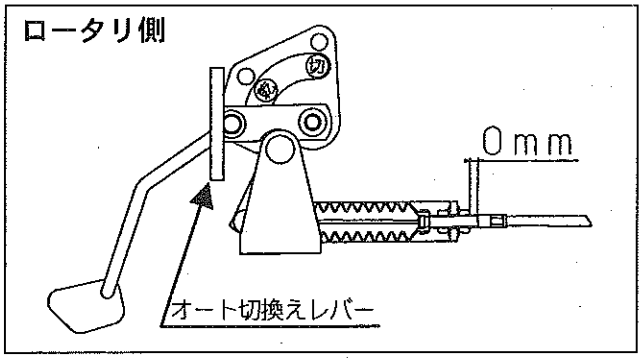


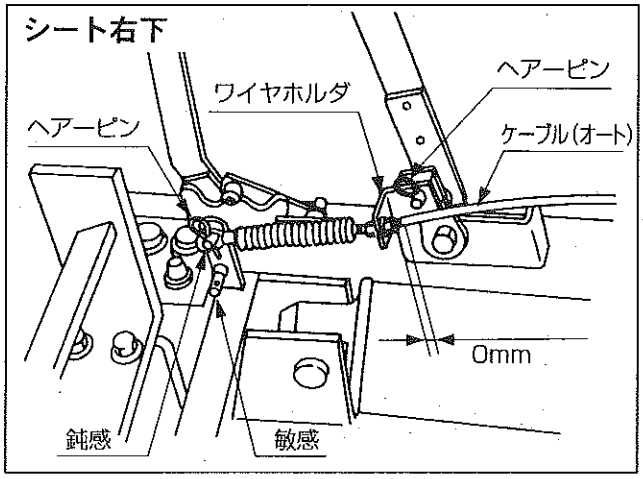



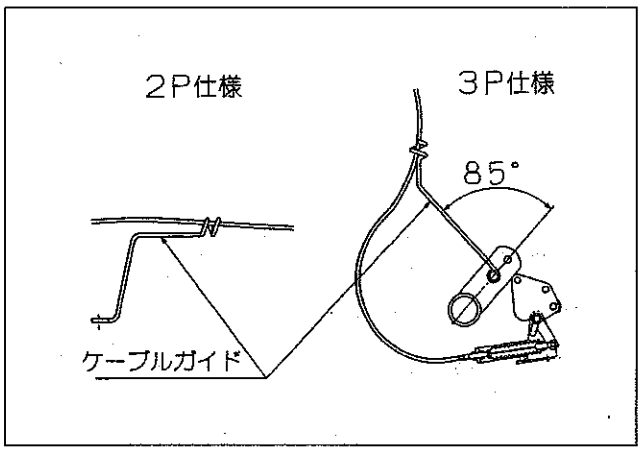



●ロータリの脱着をする場合は、上図を参考にケーブル(オート)を組み付けてください。正確に組み付けないとケーブル（オート）を傷めます。

## TPC183・153



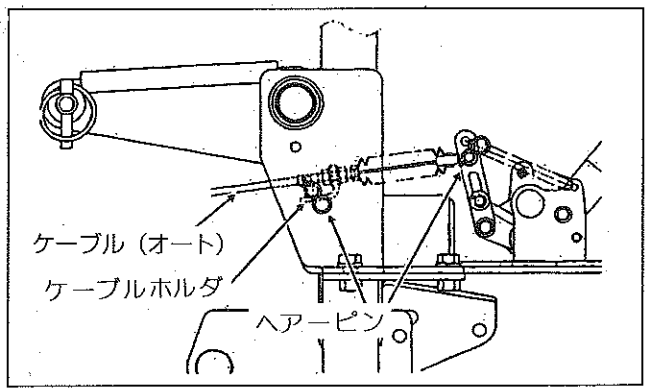

●3P仕様でケーブルガイドを分解した場合は、上図を参考に組み付けてください。正確に組み付けないとケーブル（オート）を傷めます。

## TPC213

### ■ケーブル（オート）の取外し

ロータリを外す時には、ヘアーピン（2個）を抜いて、ケーブル（オート）とワイヤホルダを取り外してください。

取り外すことを忘れると破損の原因となります。

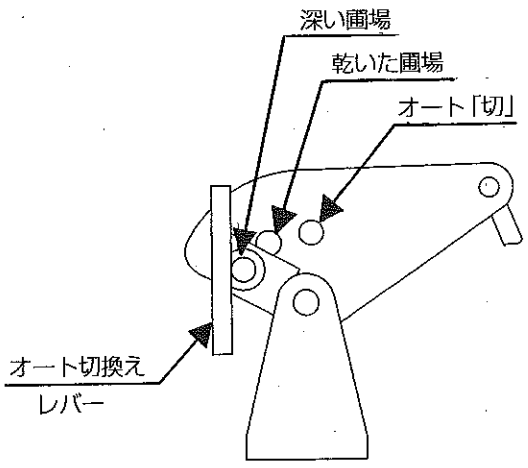



### ■耕深の切換え

耕深の切換えは、オート切換えレバーの取付位置を変更することで行えます。

乾いた圃場：通常耕うん、代かき作業

深い圃場：浅耕し、深い圃場での代かき作業




## TPC183・153

### ■感度の切換え

耕深感度はケーブル（オート）を掛ける位置を変更することで切換えられます。

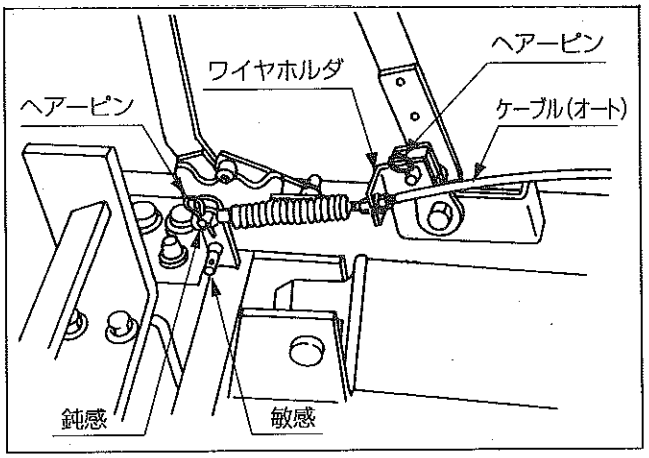
鈍感：上側のピンに掛けてください。

敏感：下側のピンに掛けてください。

### ■ケーブル（オート）の取外し

ロータリを外す時には、ヘアーピン（2個）を抜いて、ケーブル（オート）とワイヤホルダを取り外してください。

取り外すことを忘れると破損の原因となります。

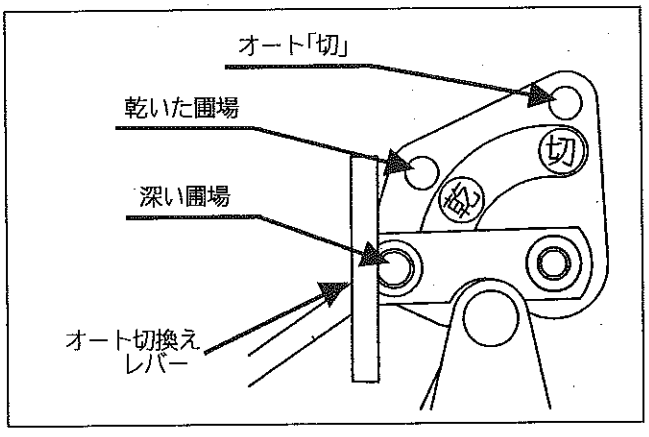



### ■耕深の切換え

耕深の切換えは、オート切換えレバーの取付位置を変更することで行えます。

乾いた圃場：通常耕うん、代かき作業

深い圃場：浅耕し、深い圃場での代かき作業



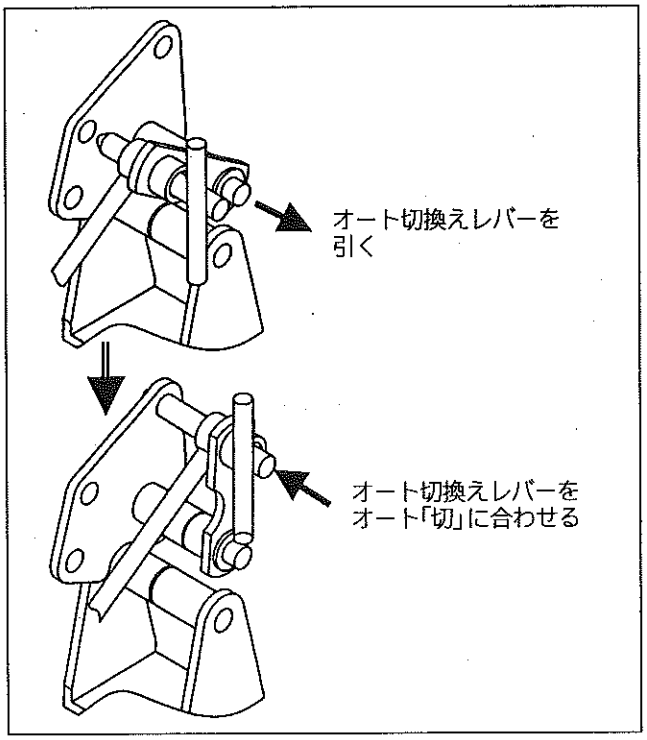
## ■リヤカバーはね上げのとき

ロータリ洗車時など、リヤカバーをはね上げるときは、次のようにしてください。

(1)耕深調整レバーを「最深」位置にしてください。

(2)オート切換えレバーを引いて、「切」の位置に差し換えてください。

オートロータリ作業を始めるときは、オート切換えレバーを元の位置に戻してください。




**重要**

**上記のことを守らないでリヤカバーをはね上げた場合、ケーブル（オート）やロッドなどの破損の原因となります。**

# 点 検 整 備

**⚠ 警告**

給油及び整備するときは、①フルクローラを平たんな広い場所に置き、②エンジンを止め、③パーキングブレーキをかけ、④油圧降下速度調節つまみを回して油圧をロックし、⑤さらにロータリの爪軸の下に木の台を置き、⑥エンジン各部が十分冷えてから、安全を確認して行ってください。安全を確認せずに点検整備すると傷害事故を引き起こすことがあります。

## 定期点検整備箇所一覧表

専門的な技術や特殊な工具を必要とするときは、お買い上げ先にご相談ください。

○：点検、補充、調整　●：交換　△：清掃、洗浄　★：お買いあげ先での交換・点検をおすすめします

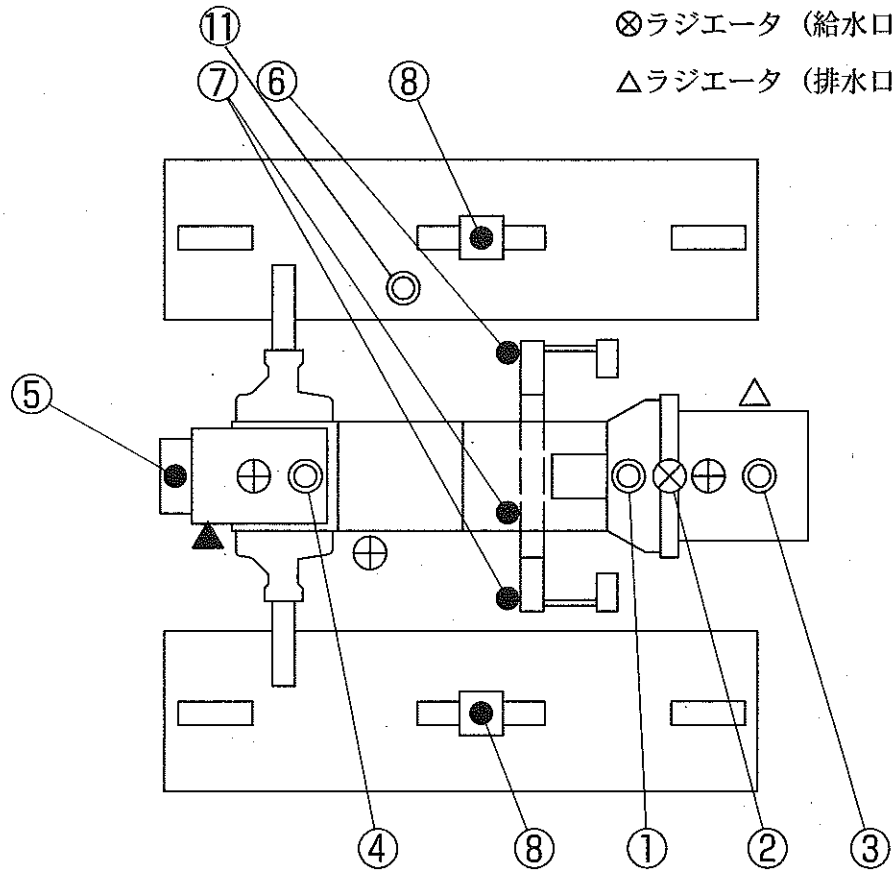
| 点検時間 ＼ アワーメータ表示時間 | | | 作業前 | 新車初期点検★ | 100時間 | 200時間★ | 300時間 | 400時間★ | 500時間 | 600時間★ | 1回／1ヶ月 | 1回／1年★ | 1回／2年★ | 備考 | 参照ページ |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| エンジン | エンジンオイル | 交換 | ○ | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | | | | 100時間ごと | 70 |
| | エンジンオイルフィルタ | 交換 | | ● | | ● | | ● | | ● | | | | 200時間ごと | 71 |
| | エアクリーナエレメント | 洗浄<br>交換 | ○ | △ | △ | △ | △ | △ | △ | ● | | ● | | 100時間ごと<br>600時間ごと、または1回/1年 | 71 |
| | 冷却水 | 補充<br>交換 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ● | | ● | | 100時間ごと<br>600時間ごと、または1回/2年 | 72 |
| | ラジエータ本体 | 洗浄 | | ○ | | | | | | | | | △ | 1回/2年 | 73 |
| | ラジエータホース | 点検<br>交換 | ○ | ○ | | ○ | | ○ | | ○ | | | ★ | 200時間ごと<br>1回/2年 | 74 |
| | 燃料フィルタ | 洗浄<br>交換 | ○ | △ | △ | △ | △ | ● | △ | △ | | | | 100時間ごと<br>400時間ごと | 74 |
| | 燃料パイプ・ホース | 点検<br>交換 | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | | ★ | 100時間ごと<br>1回/2年 | 74 |
| | ファンベルト | 点検 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | | | 100時間ごと | 75 |
| | バッテリ液面チェック | 点検・補充 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | ○ | | 100時間ごと<br>または1回/1年 | 75 |
| | エンジンバルブクリアランス | 点検 | | | | | | | | | | ★ | | 600時間ごと | — |

○：点検、補充、調整　●：交換　△：清掃、洗浄　★：お買いあげ先での交換・点検をおすすめします

| 点検時間 ＼ アワーメータ表示時間 | | | 作業前 | 新車初期点検★ | 100時間 | 200時間★ | 300時間 | 400時間★ | 500時間 | 600時間★ | 1回／1ヶ月 | 1回／1年★ | 1回／2年★ | 備考 | 参照ページ |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 本機 | ミッションオイル | 交換 | ○ | ● | | ● | | ● | | ● | | | | 200時間ごと | 77 |
| | ミッションオイルフィルタ | TPC153·183 吸込・低圧 | | △ | | △ | | △ | | △ | | | | 200時間ごと | 77 |
| | | TPC213 吸込 | | ● | | ● | | ● | | ● | | | | 200時間ごと | 77 |
| | クラッチペダルの遊び | 点検・調整 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | | | 100時間ごと | 77 |
| | ブレーキペダルの遊び ブレーキの効き具合 | 点検・調整 | ○ | ○ | | ○ | | ○ | | ○ | | | | 200時間ごと | 78 |
| | ステアリングの戻り具合 | 点検 | ○ | ○ | | | | | | | | | | 200時間ごと | — |
| | アクセルレバー・ペダルの戻り具合 | 点検・調整 | ○ | ○ | | ○ | | ○ | | ○ | | | | 200時間ごと | 82 |
| | 電装計器の作動 | 点検 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | | | 100時間ごと | — |
| | 電気配線 | 点検 交換 | | ○ | | | | | | | | ○ | ★ | 1回/1年 1回/2年 | 82 |
| | 油圧ホース | 点検 交換 | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | | ★ | 100時間ごと 1回/2年 | — |
| | 水平シリンダホース | 交換 | | ○ | | | | | | | | | ★ | 1回/2年 | — |
| | 各部のグリース注入 | 補充 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | | | 作業前後に実施 | — |
| クローラ部 | ゴムクローラの張り調整 | 点検・調整 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | | | 100時間ごと | 79 |
| | 各部グリースアップ | 補充 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | | | 作業前後に実施 | 79 |
| | 各部ボルト、ナットの緩み | 点検・調整 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | | | 100時間ごと | — |
| | 転輪、遊輪他のオイルシール | 点検 交換 | | | | ★ | | ★ | | ★ | | | | 200時間ごと点検 | — |
| | スプロケットの摩耗 | 点検 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | | | 作業前後に実施 | — |
| | ゴムクローラの損傷 | 点検 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | | | 作業前後に実施 | — |

## 給油・給水一覧表

●グリース注入口（グリースニップル）
◎給油口
⊕排油口
▲検油窓
⊗ラジエータ（給水口）
△ラジエータ（排水口）



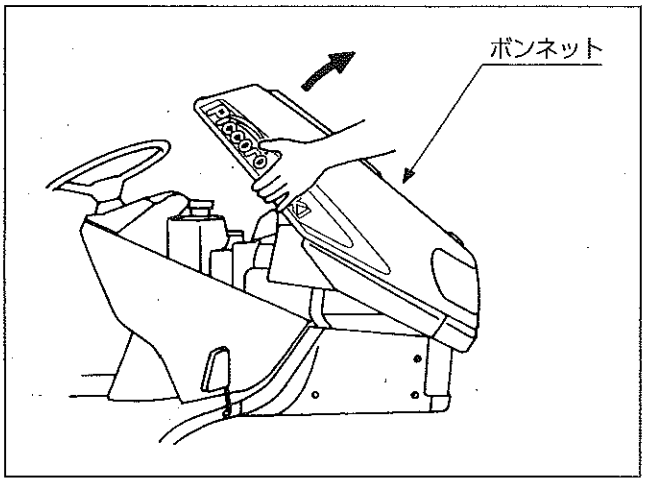

| 番号 | 給油（水）箇所 | 容量（L） | | 使用オイル |
|---|---|---|---|---|
| ① | 燃料 | TPC153 | 13.0 | ディーゼル軽油（JIS2～3号） |
| ⑪ | | TPC183・213 | 21.0 | |
| ② | ラジエータ | TPC153・183 | 3.0 | 不凍液（L・L・C） |
| | | TPC213 | 3.6 | |
| ③ | エンジン | TPC153 | 2.7 | ヰセキ・ディーゼル・エンジンオイル |
| | | TPC183・213 | 2.6 | |
| ④ | ミッションケース | TPC153・183 | 20.0 | ヰセキU・T・Hオイル |
| | | TPC213 | 24.0 | |
| ⑤ | 2Pブラケット | 適量 | | リチューム系一般グリス |
| ⑥ | クラッチペダル | | | |
| ⑦ | ブレーキペダル | | | |
| ⑧ | 揺動転輪 | | | |

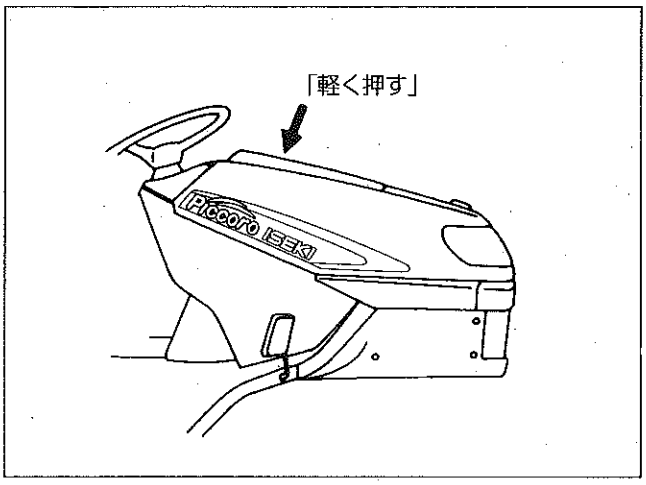
## 点検・清掃・調整のしかた

### ■ボンネットの開閉

ボンネットは、後部（メータパネル側）を持ち上げる様にすると開きます。

閉じる時は、ボンネットを元のように倒し、上面を軽く押すとセットされます。




### ■エンジンオイル

#### ▶点検

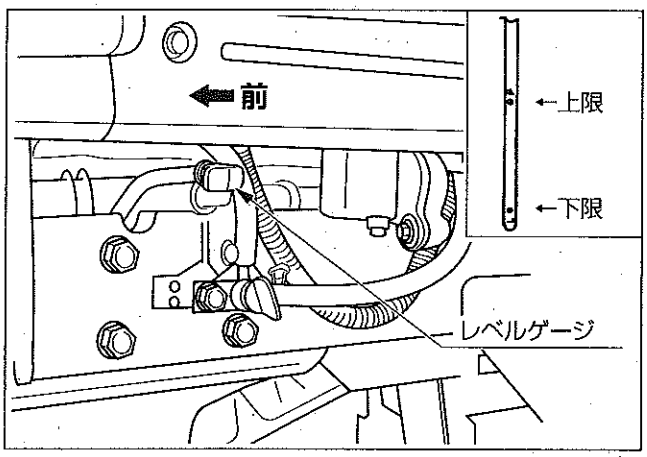
(1) レベルゲージを抜いて先端をきれいにふき、改めて差込んでから再び抜き「上限と下限の間」にオイルがあるか調べます。

(2)「下限」以下の場合は、補給してください。

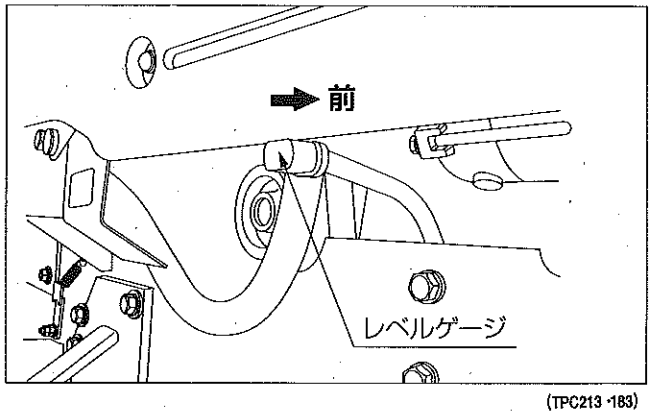
**重要**

**●エンジンオイルは、上限以上に入れないでください。**

**●使用するエンジンオイルは、必ず「ヰセキ純正オイル」を使用してください。（113ページ参照）**




(TPC153)




(TPC213 -183)

### ▶オイル交換

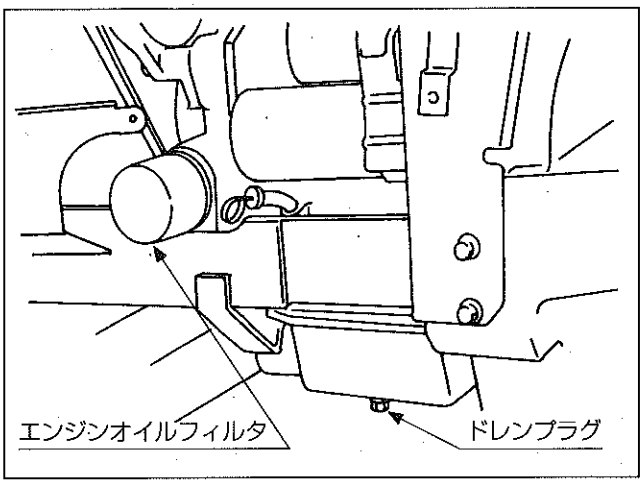
(1)ドレンプラグを外してオイルを排出します。

(2)給油口からエンジンオイルを規定量入れてください。

**重要**

**廃棄物をみだりに、廃却、焼却すると環境汚染につながり、法令により処罰されることがあります。**

- **機械から廃液を抜く場合は、容器に受けてください。**
- **地面へのたれ流しや河川、湖沼、海洋への投棄はしないでください。**
- **廃油、燃料、冷却水（不凍液）、冷媒、溶剤フィルタ、バッテリ、ゴム類、その他の有害物を廃棄、又は焼却するときは、購入先、又は産業廃棄物処理業者等に相談して、所定の規則に従って処理してください。**




(TPC153)

### ▶エンジンオイルフィルタの交換

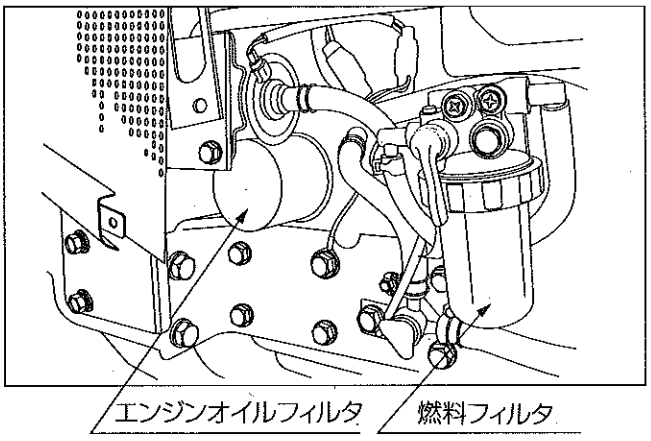
(1)市販のフィルタレンチで取外します。

(2)新しいオイルフィルタのOリングにオイルを薄く塗布してから、手で確実に締付けます。（シール面のゴムパッキンが接触してから、約2/3回転締付けてください。）

(3)エンジンオイルを規定量まで補給します。

(4)エンジンを約５分間運転し、オイルランプの作動に異常がないか確認してから止めます。

(5)再びレベルゲージで油面を確認し、不足していればエンジンオイルを補給してください。

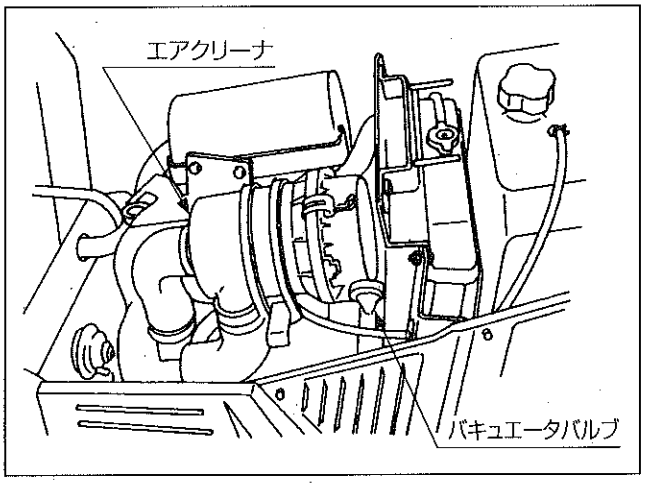



(TPC213・183)

## ■エアクリーナの清掃

### ▶バキュエータバルブの清掃

ボンネットカバーを開け、バキュエータバルブを指でつまんで内部のゴミを落としてください。水分があるときは、エアクリーナ内部をボロ布等にてふき取ってください。



### ▶エレメントの清掃

(1)クリップを外し、エレメントを取出します。

(2)エレメントの清掃は次の要領で行ってください。

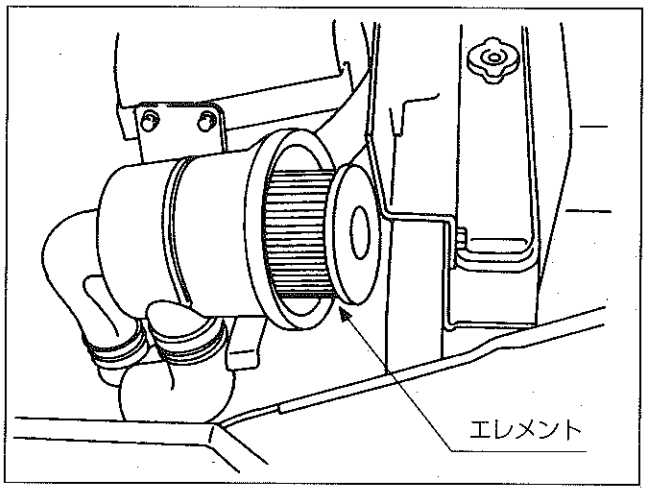
●乾いたほこりがついている場合

エレメントの内側から空気を吹付けるか、または手で軽くたたいてゴミを取除いてください。

●湿ったほこり、油分などで汚れている場合

家庭用中性洗剤を水でうすめエレメントを約30分浸し、その後軽くすすぎ洗いをし、自然乾燥させてください。

(3)エレメント清掃後、確実に組付けてください。




**重要**

**●清掃時エレメントを石やコンクリートでたたかないようにしてください。**

**●エアクリーナ各部の締付けは、確実に行いゴミを吸込まないようにしてください。**

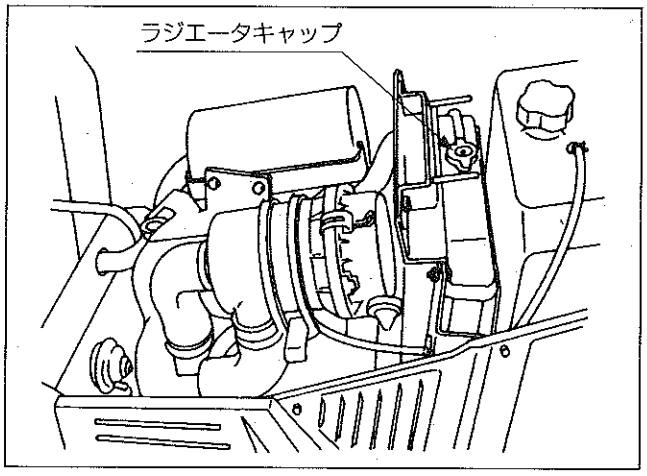
### ▶エレメントの交換

エレメントは5回清掃後または破損している場合は交換してください。

## ■冷却水

**⚠ 警告**

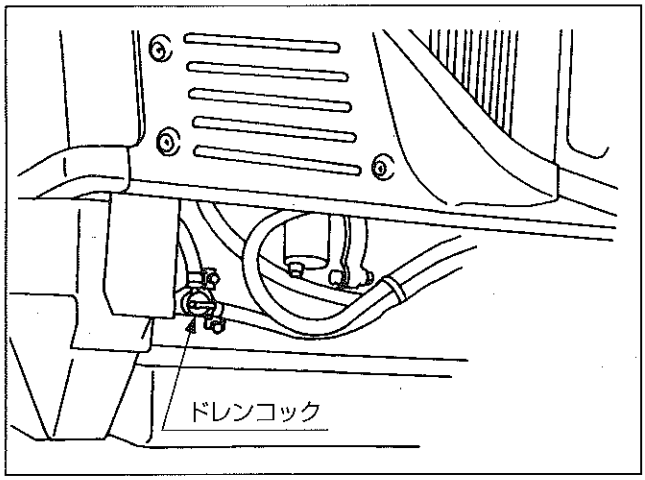
**ラジエータキャップは、エンジン運転中および停止直後に開けないでください。運転停止後10分以上たってよく冷えてから、注意して開けてください。これを怠ると、熱湯が噴出してやけどをする危険があります。**




### ▶点検

ボンネットを開き、ラジエータキャップをはずし「口元」まで冷却水が入っているか確認し、少ない場合は、補給してください。

### ▶交　換




(1)冷却水を抜くときは、エンジン左側のドレンコックを開けて抜きます。ラジエータキャップを同時に開けると、冷却水は勢いよく排出されます。

(2)水道の水でラジエータ内部をよく洗浄してください。

(3)ドレンコックを閉じて、冷却水をラジエータへ溢れるまで入れ、ラジエータキャップを確実に締めてください。

(4)エンジンを始動し、約５分間、中速回転（約1500rpm）で運転してください。

(5)エンジン停止後、十分に冷却水が冷えた後、ラジエータキャップを外し、ラジエータ内の冷却水を確認してください。不足している場合は給油口の「口元」まで補給してください。

### ▶不凍液の使いかた

冷却水が凍結すると、エンジンを破損することがあります。冬期、気温が0℃以下になるようなときは、不凍液を混入してください。

(1)不凍液を入れる前に、よくラジエータ内部を洗浄してください。

(2)不凍液の混合比は、不凍液メーカや気温により異なりますので、不凍液メーカの説明書に従ってください。

(3)不凍液は水とよく混合し、注入してください。

(4)不凍液の補給

●蒸発の場合…冷却水が減った分だけ、清水を補給してください。

●ブリーザより漏れた場合…同じ比率に混合した不凍液を補給してください。

## ■ラジエータの清掃

> ⚠ **警告**
> **エンジンは必ず停止して清掃してください。これを怠ると、回転部に巻き込まれたりして、傷害事故を引き起こすおそれがあります。**

### ▶防虫網の清掃

水田・草地や夜間の作業をすると、ラジエータに草・ワラくず・虫などが付着し詰まることがありますので、このようなときは防虫網を清掃してください。防虫網を引出して清掃します。

### ▶ラジエータコアの清掃

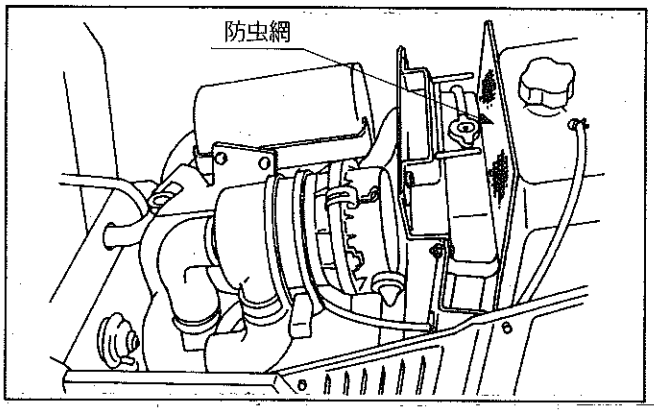
フィンとチューブの間にまで、ゴミが入った場合は、水道水で流してください。

**重要**

●ラジエータが目詰まりするとオーバーヒートし、オイルの消費量が増加します。

●強い圧力水をかけると、フィンが変形することがありますから、注意してください。

●エンジン回りの電気配線・電装品には水をかけないでください。



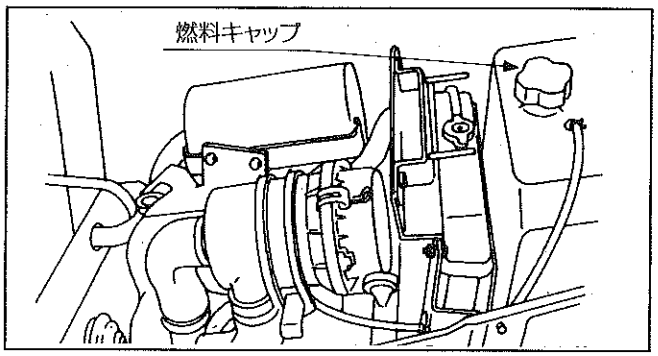

## ■燃料

燃料は、ディーゼル軽油（JIS 2～3号）を使用してください。

**重要**

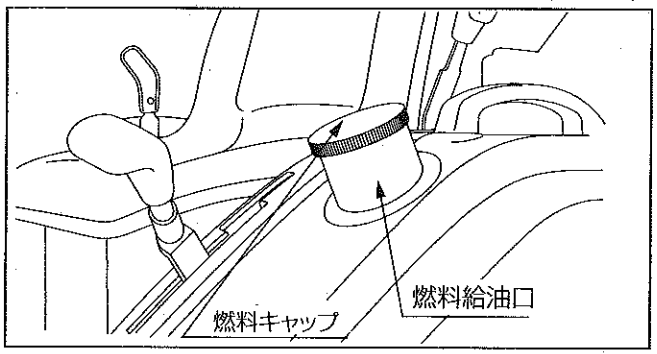
●燃料タンク内に水、ゴミなどが入らぬよう注意してください。

●燃料キャップが締まっているか確認してください。




(TPC153)

> ⚠ **危険**
> 燃料を補給するときは、くわえタバコなどの火気厳禁です。守らなかった場合、火災の原因になります。



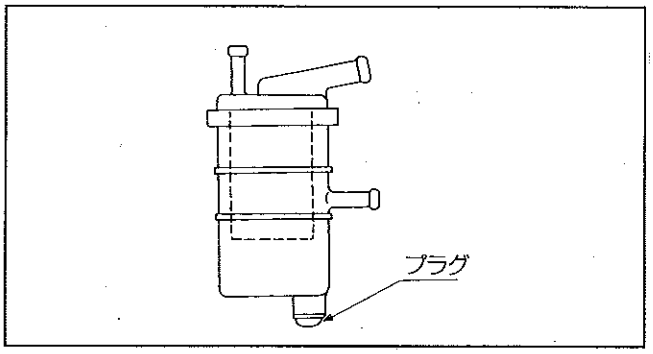

(TPC213・183)

### ▶燃料フィルタの清掃と交換

(1) 燃料中に含まれる水・ゴミがフィルター内に沈殿しているか点検してください。

(2) 水・ゴミがたまっている場合は、プラグを外し、排出してください。本フィルタはエレメントの洗浄ができません。300時間毎またよごれのひどい時は交換してください。

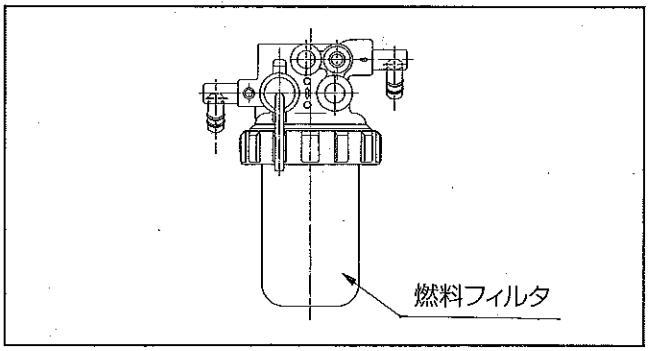
(3) 締め付けは、燃料もれのないよう十分注意してください。




(TPC153)

### ▶燃料ホースの点検

燃料ホースは100時間ごとに点検してください。ひび・亀裂・燃料もれがあった場合は交換してください。



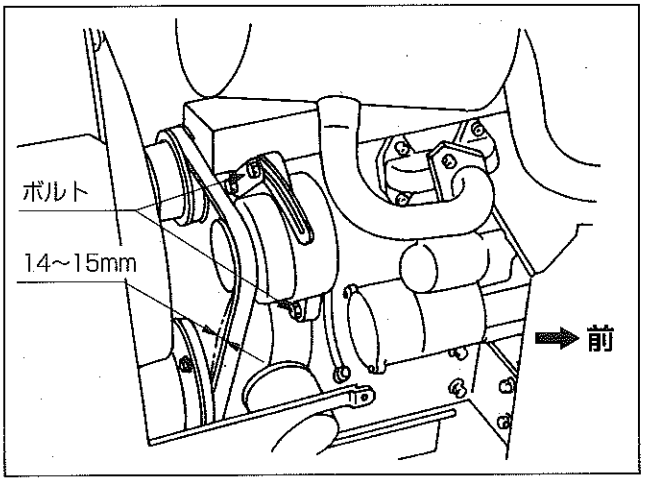

(TPC213・183)

## ■ファンベルトの張り具合

### ▶点　検

ベルトの中央部を10kgfで押さえて14～15mm程度たわむか確認してください。

ベルトの張りがゆるいと、オーバーヒートや充電不足の原因になりますので下記要領で調整してください。




### ▶調整

(1) オルタネータを取付けているナットとボルトをゆるめます。

(2) オルタネータを動かし、ベルトの中央部を10kgfで押さえて、ベルトの張りが14～15mmたわむ程度に調整します。

(3) 調整後はナットとボルトを確実に締付けます。

(4) ベルトに亀裂やはがれがないか点検し、損傷があれば新品と交換してください。ベルトを交換した場合は、交換調整後約1時間運転した後に、初期のび調整のため再度ベルトの調整をしてください。

**⚠ 警告**

マフラーは、エンジン停止直後にさわると、やけどをすることがあります。エンジン停止後十分冷えてから点検を行ってください。

## ■バッテリの点検と取扱い

### ▶バッテリ液の点検

**⚠ 危険**

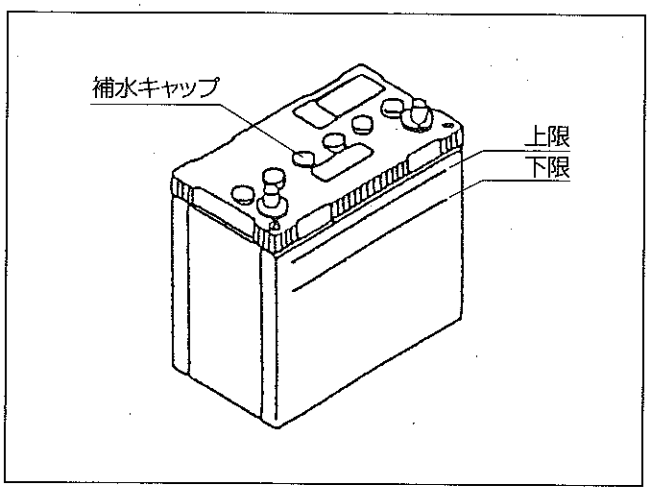
(1) ショートやスパークさせたり、たばこ等の火気を近づけないでください。また充電は、通風のよいところで行ってください。これを怠ると引火爆発することがあり大変危険です。

(2) バッテリ液（電解液）は、希硫酸で劇毒物です。バッテリ液を体や服につけないようにしてください。失明ややけどをすることがあり大変危険です。もし目・皮膚・服についたときは、直ちに多量の水で洗ってください。なお目に入ったときは、水洗い後、医師の治療を受けてください。

(3) ブースターケーブル使用時には、危険のないように取扱ってください。

（18ページを参照してください。）

バッテリ液は使っているうちに蒸発して減少します。バッテリの前面に2本の線（レベル）があり、その間に液面があればよく、少ないときは上側の線（レベル）まで補給してください。
液が自然に減ったときは精製水を補給します。




**重要**

**バッテリ液が不足すると、バッテリを傷め、多過ぎると液がこぼれて車体を腐蝕させます。**

**▶バッテリの取扱い**

(1)気温が低下すると、バッテリの性能も低下します。冬期は特にバッテリの管理に注意してください。

(2)バッテリは使用しなくても自己放電しますから補充電を行ってください。
夏期.....1ヵ月毎
冬期.....2ヵ月毎

(3)フルクローラを長期格納する場合は、バッテリを外し日光の当たらない乾燥した場所に保存してください。どうしてもフルクローラに取付けたまま保管しなければならないときは、必ずアース側（⊖側）を外してください。

(4)新品のバッテリと交換する場合は必ず指定した型式（44B19R）のバッテリを使用してください。

**重要**

**●バッテリは必ず車体から取外して充電してください。電装品の損傷の他に配線などを傷めることがあります。**

**●バッテリの急速充電はバッテリの寿命を短くしますから、できるだけ避けてください。**

**●充電は、バッテリの⊕を充電機の⊕に、⊖を⊖にそれぞれ接続して、普通の充電法で行ってください。**

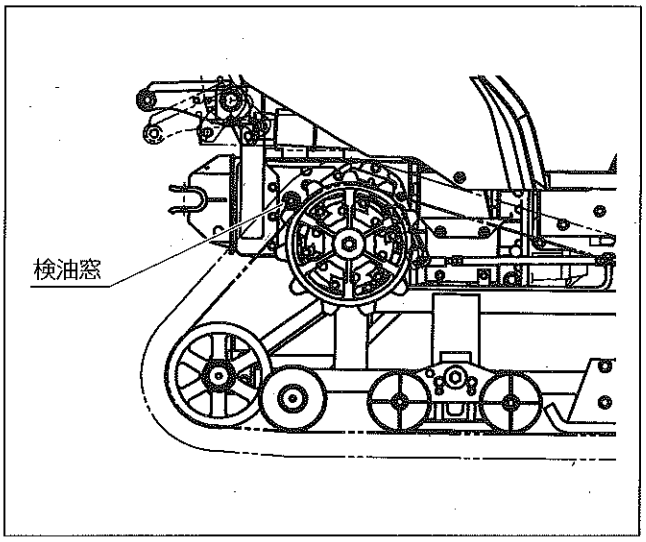
**●バッテリを外し、再度取付けるときにはバッテリの⊕、⊖のコードを元どおりに配線し、まわりに接触しないように締付けてください。**

**●バッテリコード（端子）を取外すときは、⊖コードを先に外します。バッテリコードを取付けるときは、⊕コードを先に取付けます。これを怠るとショートして火花がとんだりします。**

**⚠ 危険**

**バッテリの液量がバッテリ側面に表面に表示されている「下限」以下になったまま、使用を続けると、バッテリの各部の劣化が進み、バッテリの寿命を縮めたり、破裂（爆発）の原因となるおそれがあります。**

## ■ミッションケースのオイル




### ▶点検

(1)平坦な場所へトラクタを置き、オイルレベルが検油窓の範囲にあるかを調べます。油面が検油窓以下の場合は補給してください。ただし検油窓以上には入れないでください。

### ▶交換

(1)ドレンプラグを外してオイルを排出します。

(2)ヰセキU・T・Hオイルを給油口から規定量入れてください。給油後、オイル量の点検を行ってください。

### ▶エア抜きの方法

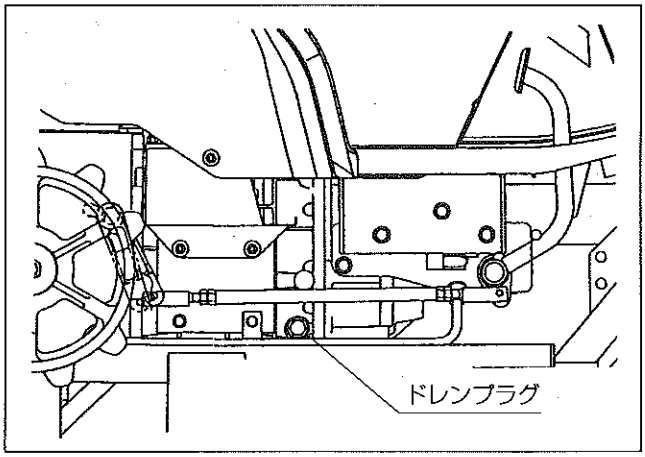
オイルを抜いた後、再び給油したときには次の要領で必ず油圧配管内のエア抜きをしてください。

(1)エンジンを始動して、エンジン回転を1000rpm以下で、コントロールレバーを上げ位置にし、リフトアームを最上げ位置にする。

(2)コントロールレバーを下げ位置にし、リフトアームを下げ位置にした後リフトアームを下方へ押し、エアーを抜きます。

(3)上記(1)・(2)の操作を2～3回繰り返し、コントロールレバーの「上げ」「下げ」位置への操作でスムースにリフトアームが作動することを確認する。

(4)検油窓で点検して、不足していれば補給してください。



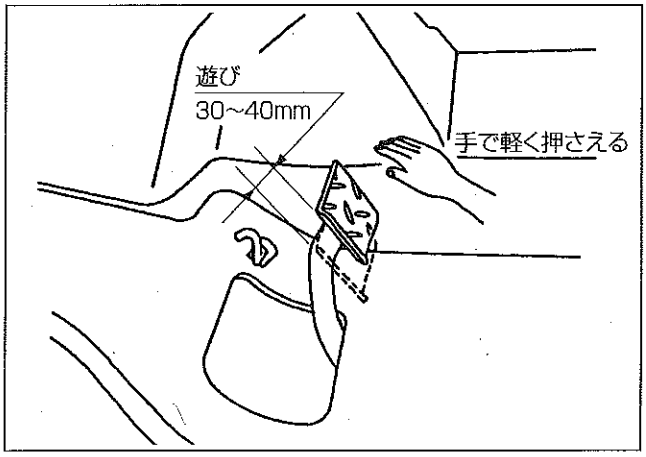

**重要**

**エア抜きを行なわないと、ギヤーポンプの焼付・油圧装置の作動不良を引き起こすことがあります。**

## ■クラッチペダル

### ▶点検

ペダルの遊び量が30～40mmあるか確認してください。




**重要**

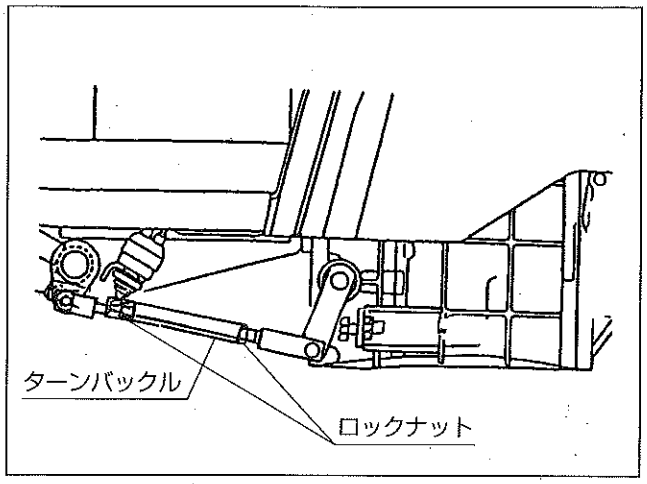
**クラッチの調整が悪いと、クラッチ切れ不良、スリップを起こし損傷につながります。**

▶調整

(1)ロックナットをゆるめます。

(2)ターンバックルを回してペダルの遊び量を30～40mmに調整します。

(3)ロックナットを確実に締付けてください。




## ■ブレーキペダル

▶点検

ペダルの遊び量を「20～30mm」になるように調整します。

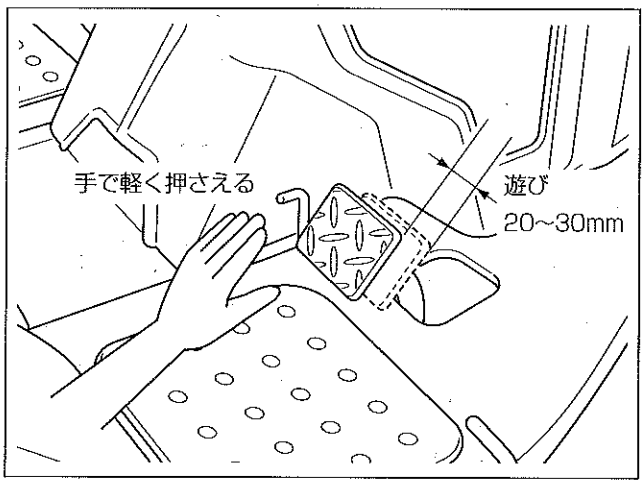
▶調整

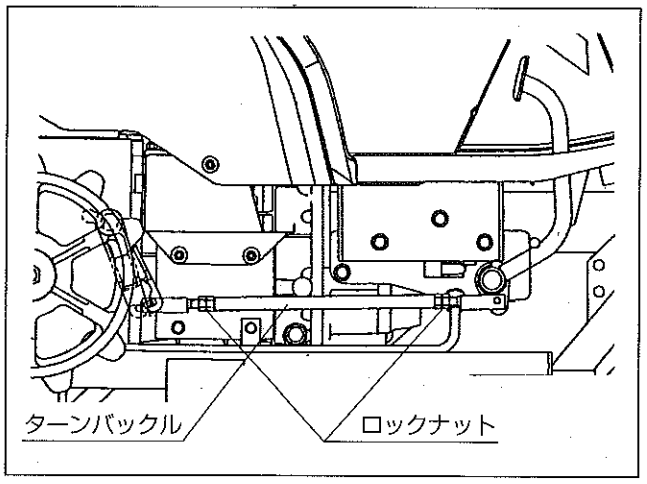
(1)パーキングブレーキを解除します。

(2)ロックナットをゆるめ、ターンバックルを回してペダル遊び量が「20～30mm」になるように調整します。

(3)前後2箇所のロックナットを確実に締付けてください。

(4)調整後、パーキングブレーキが確実にかかる事およびブレーキが正常に作動することを確認してください。

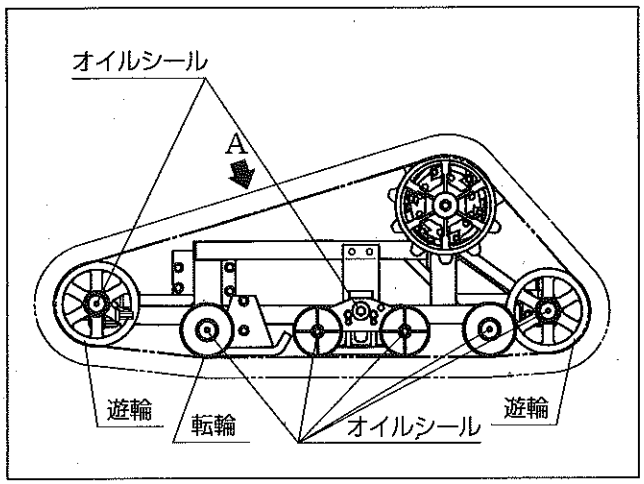


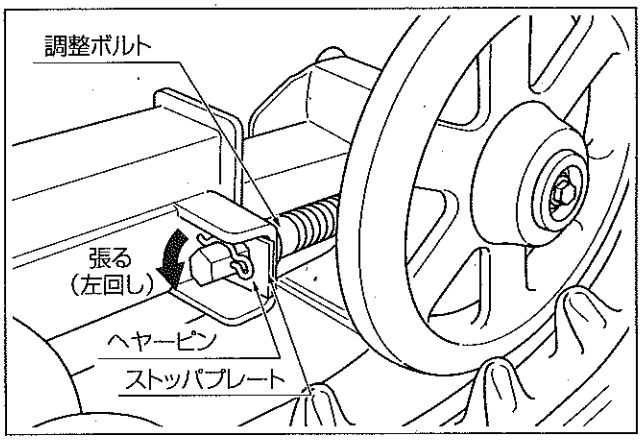



## ■ゴムクローラの張り調整

(1)ゴムクローラの張りがゆるいまま使用すると走行中に脱輪する恐れがありますので定期的に点検を行い、張り調整を行ってください。

(2)張り調整は、A部のたわみが30kgfで押さえて15～20mm になるように、調整ボルトにて行ってください。
調整ボルトは左に回して張ります。
調整後はストッパプレートにて固定してください。



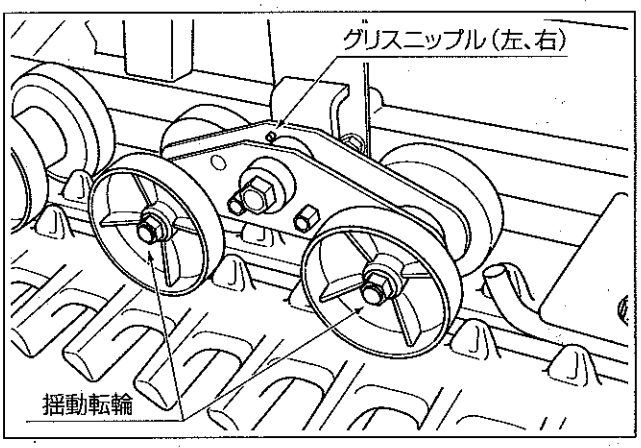

## ■遊輪・転輪他のオイルシールの点検

遊輪・転輪がスムーズに回るか200hr毎に点検、チェックし、回らない場合はオイルシールの損傷が考えられますので、修理を「お買いあげ先」に依頼してください。

## ■グリースアップ

### ▶揺動転輪部（2カ所）

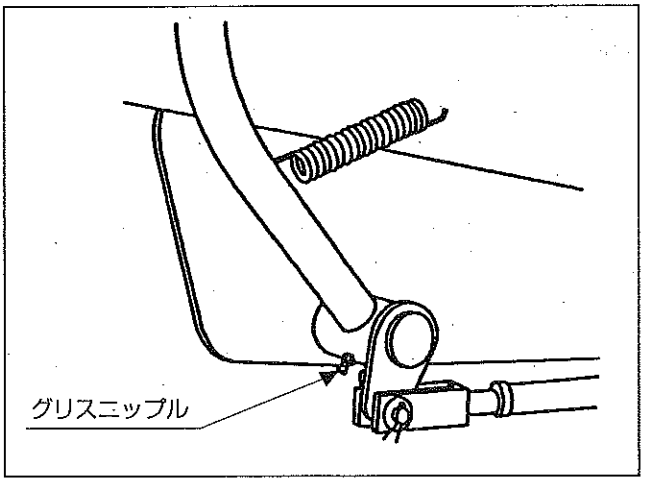
グリースニップルより定期的（50hr毎）にグリースの注入を行ってください。**（代掻き時は毎回）**



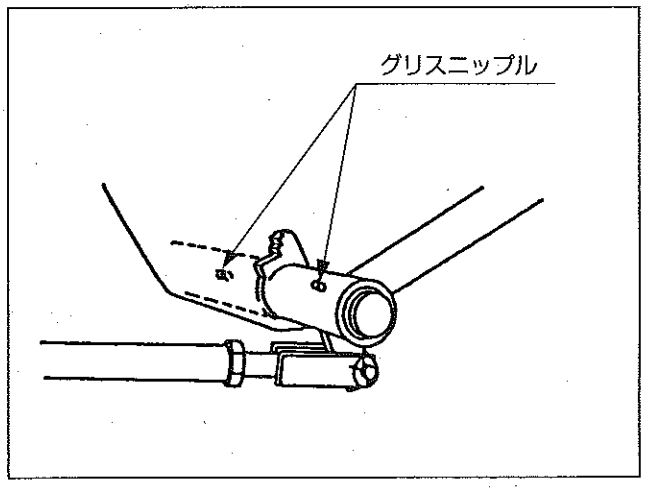

### ▶クラッチペダル・ブレーキペダル

ステップ下側の3箇所にグリースを少量注入します。

〈クラッチペダル〉




〈ブレーキペダル〉



## TPC213

### ■ミッションオイルフィルタの交換

ミッションオイルフィルタが詰まると、油圧系統の故障の原因となります．交換は定期的に「お買い上げ先」で行ってください。

フィルタはカートリッジ式です。

**▶カートリッジの交換**

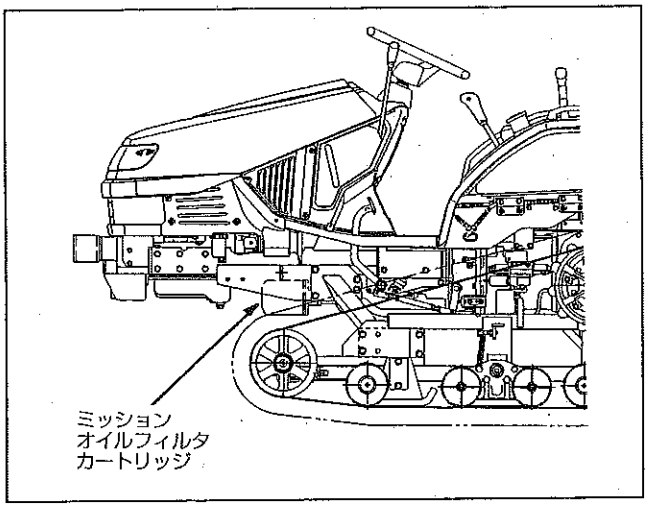
(1) ミッションオイルを抜きます。

(2) 市販のフィルタレンチで取外します。

(3) 新しいオイルフィルタのOリングにオイルを薄く塗布してから、手で確実に締付けます。(シール面のゴムパッキンが接触してから、約2/3回転締付けてください。)

(4) ミッションオイルを規定量入れてください。

(5) オイルのエア抜きをしてください。




## TPC183・153

### ■ミッションオイルフィルタの清浄

ミッションオイルフィルタが詰まると、油圧系統の故障の原因となります．清掃は定期的に「お買い上げ先」で行ってください。

**▶吸入側オイルフィルタ**

(1) ミッションオイルを抜きます。

(2) ボルトを外します。

(3) フィルタを引き抜きます。

**重要**

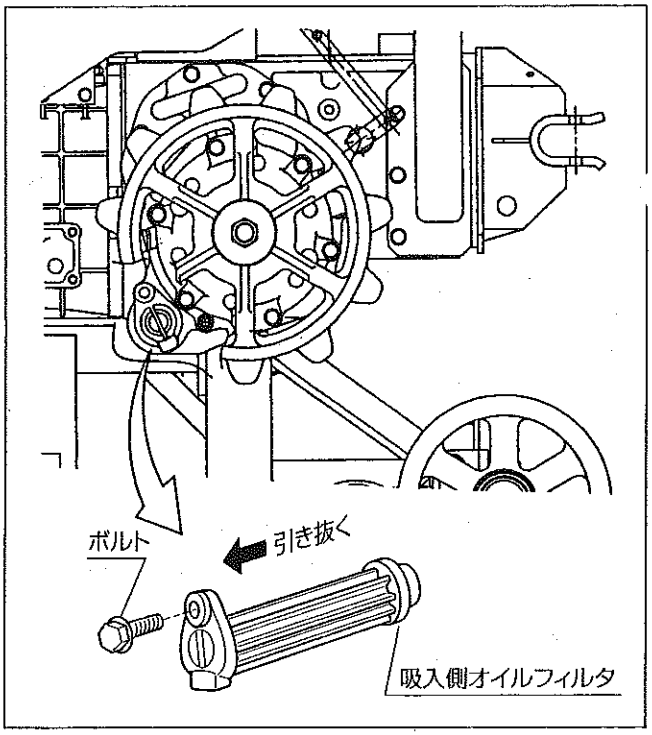
**フィルタはメッシュ(網)を傷めないよう、まっすぐに抜いてください。傾けて引き抜きますと、メッシュが破れる恐れがあります。**

(4) フィルタを洗浄します。

(5) もと通りに組み付けます。

(6) ミッションオイルを規定量入れてください。

(7) オイルのエア抜きをしてください。



ＴＰＣ２１３の低圧側フィルタは、分解できません。

## ＴＰＣ１８３・１５３

### ▶低圧側フィルタ

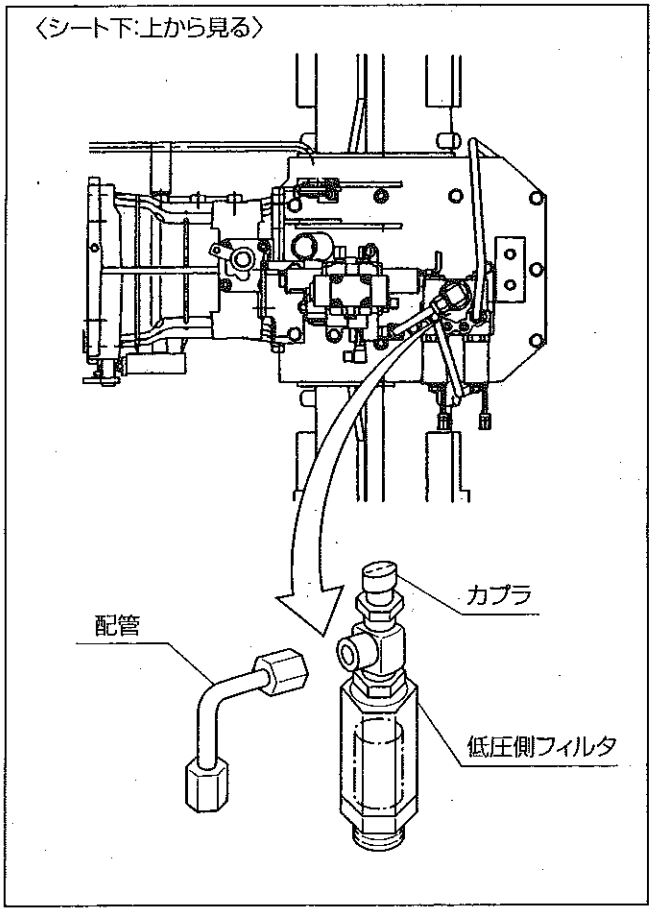
(1)配管を外します。

(2)カプラを抜きます。

(3)低圧側フィルタを外します。

(4)フィルタを洗浄します。

(5)もと通り組み付けてください。



## ■アクセルレバー

アクセルレバーの回動が重くなったり、軽くなったりしたときは、調整を「お買いあげ先」に依頼してください。

## ■電気配線の点検と清掃

**⚠ 注意**

(1)配線の端子や接続部のゆるみおよび配線の損傷は、電気部品の性能を損なうだけでなく、ショート（短絡）・漏電の原因となり火災事故になるおそれがあり大変危険です。傷んだ配線は、早めに交換・修理してください。

(2)バッテリ、電気配線およびマフラやエンジン周辺部のワラくず・ゴミなどは、取除いてください。これを怠ると火災の原因となります。

(3)1年に1回、お買いあげ先での定期点検を受けてください。また安心して作業できるよう電気配線は、2年毎に交換することをお勧めします。

下記の項目につき定期的に点検してください。

(1)配線の損傷がないこと。配線被覆が破れている時は、ビニールテープを巻き補修してください。

(2)配線のクランプのゆるみがないこと。

配線がクランプより外れているときは、所定のクランプに配線をセットしてください。

(3)ターミナル、ブロック（ソケット）の接続部のゆるみがないこと。

(4)各スイッチが確実に作動すること。

**重要**

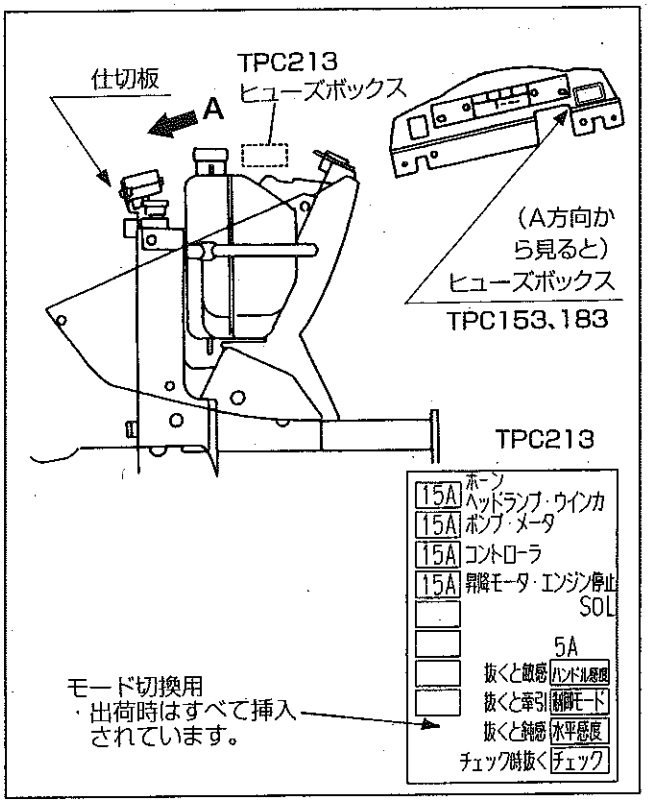
**メータパネル、バッテリ、エンジンまわりの電気配線・電装品及び電子油圧操作部には圧力水をかけないでください。電気部品の故障の原因となります。**

## ■ヒューズおよびスローブローヒューズの取扱い

### ▶ヒューズの交換

ヒューズは、ボンネットを開き、ラジエータ前側の仕切板に取付けています。ヒューズが切れた場合は、必ず同じ容量のヒューズと交換してください。大容量のヒューズをつけると焼損の原因となります。

ヒューズボックスにマークが貼付してあります。
これと照らし合せて確認してください。
TPC213のヒューズボックスにはモード切換用のヒューズも内蔵しています。紛失しないようにしてください。このヒューズの取扱いは、お買いあげ先にご相談ください。




### ▶スローブローヒューズ

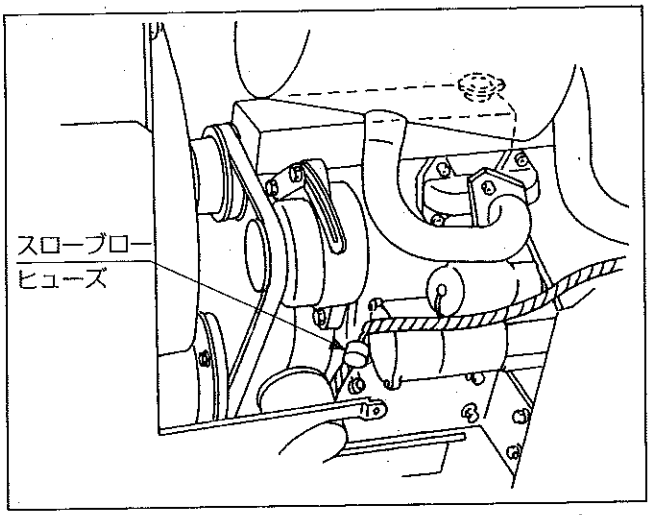
配線中にスローブローヒューズが設置されています。

スローブローヒューズはヒューズの一種で過大電流が流れたりショートしたときに、溶断して配線の損傷を防ぎます。

| | |
|---|---|
| 15A | ヘッドランプ・ホーン・ウインカ |
| 15A | ポンプ・メータ |
| 15A | コントローラ |
| 15A | 昇降モータ・エンジン停止ソレノイド |

●チェック方法

エンジンの右横にスローブローヒューズが見えます。溶断している場合は、スローブローヒューズを抜き交換してください。




**重要**

**ヒューズが切れた場合は、切れた原因を調べ、修理後に純正部品のヒューズと交換してください。絶対に針金などで代用しないでください。**

# 格納時の取扱い

## ■日常の格納

日常の格納及び短期間の格納は、次の要領で行ってください。

(1)フルクローラはきれいに清掃しておきましょう。特に代掻、湿田作業後は、きれいに洗車してください。

(2)作業機は必ず降ろしてください。

(3)格納はできる限り屋内にしてください。

(4)厳寒時はバッテリを外し暖かい室内などに保管すると始動時に効果があります。

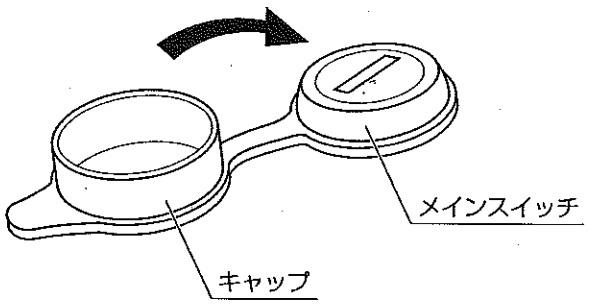
(5)外気温が0℃以下になるときは、エンジン凍結割れ防止のため、不凍液を入れるか、または冷却水を完全に抜いてください。

**重要**

**●洗車するときは、メータパネル、電装品、およびボンネット等のマーク貼付部には圧力水をかけないでください。圧力水をかけると、故障の原因となったり、マークのはがれ、部品の変形を起こしたりします。**

**●漏電の原因となるため、メインスイッチのキーは抜いておいてください。また洗車時もキーを抜きキャップをかぶせてください。**

**格納時、洗車時はキャップをする**




## ■長期格納

フルクローラを長い間使用しない場合は、きれいに清掃し次の要領で格納してください。

(1)不具合箇所は整備してください。

(2)エンジンオイルを新しいオイルと交換、5分ほどエンジンをアイドリング回転にて運転し各部にオイルをゆきわたらせます。

(3)ラジエータの冷却水を抜いてください。排水後「水なし」と書いた札をステアリングホイールにかかげておきましょう。

(4)各部の給油を必ず行ってください。

(5)各部のボルト、ナットのゆるみを点検し、ゆるんでいれば締めてください。

(6)バランスウェイトなどは外しておきましょう。

(7)作業機は取外すかまたは地面に降ろしてください。

(8)格納場所は、周囲にワラなど燃えやすいものがない雨のかからない乾燥した場所を選定し、シートをかけるようにしましょう。

**⚠ 警告**

**作業が終了して、シートカバー等を機械にかけるときは、過熱部分が完全に冷えてから行ってください。**
**熱いうちにカバー類をかけると、火災の原因になります。**

(9)クローラの前後に車止めをしておいてください。

(10)バッテリは、フルクローラから外し補充電を行い、液面を正しく調整して日光の当たらない乾燥した場所に保管してください。どうしても取付けたまま保管しなければならない時は、必ずアース側（⊖側）を外してください。

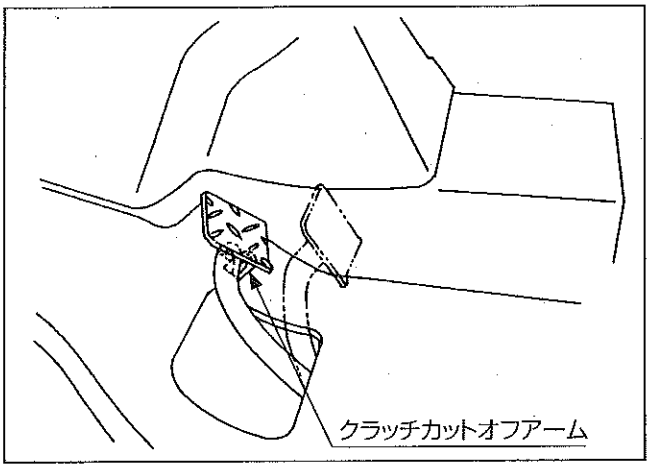
(11)クラッチはカットオフアームを使用し、確実に切れた状態にしておいてください。
クラッチを接続したまま長期間格納すると、クラッチディスクが固着していてクラッチが切れなくなることがあります。

**重要**

- **エンジン防錆のため、１カ月に１回、1500～2000回／分の中速回転で５～10分間運転してください。**
- **バッテリを外さないときは最低限バッテリの⊖端子を外してください。ねずみが配線をかじり、ショートして火災が発生することがあります。**
- **メインスイッチのキーは必ず抜いておいてください。**

## ■クラッチカットオフアーム

長期格納時は、クラッチ保護のためクラッチを切った状態にしておきます。クラッチペダルを踏み、アームを引っかけてください。




## ■長期格納後の使用

長期格納後の再使用は特に次の内容に注意してください。

(1)運行前点検（始業点検）を確実に行ってください。

(2)エンジンの寿命、性能を保つためエンジン始動後は、アイドリング回転で30分ほど運転してください。

# ロータリについて

## ロータリの取り付け・取り外し（ARP14・15：2Pリンク式）

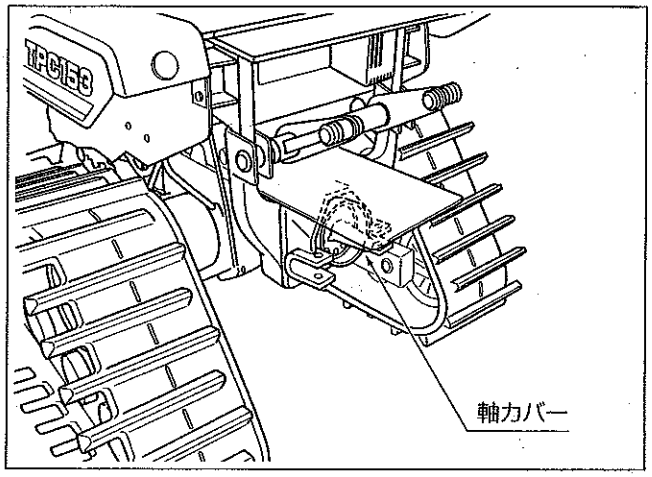
### ■フルクローラへの取付けかた

**⚠ 警告**

● フルクローラのエンジンを停止し、パーキングブレーキをセットして、安全確認して行ってください。安全確認を怠ると、傷害事故を引き起こすことがあります。

(1)PTO軸カバーを外します。

安全のため、取り付けてあるPTO軸カバーを外してください。PTO軸を使わない場合は、PTO軸にグリースを塗布した後、必ず元の位置に取り付けてください。




**⚠ 注意**

傷害事故を防止するため、次のことを守ってください。

● ロータリの取り付け・取り外しは、平たんな場所で行ってください。怠ると機械が急に動いたり傾いたりして、思わぬ事故を引き起こすことがあります。

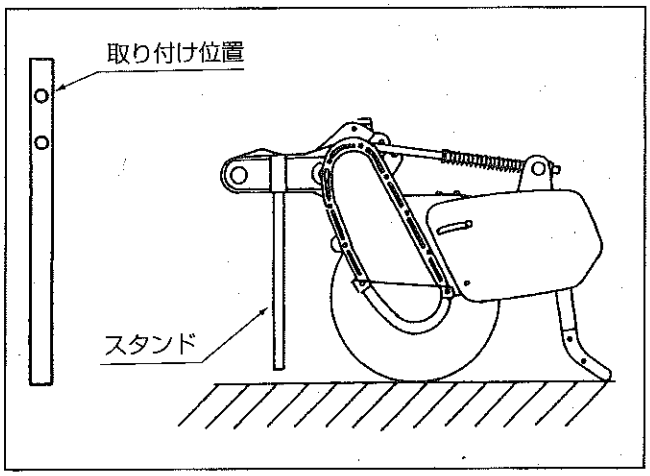
● ロータリの取り付け・取り外しは、フルクローラと作業機の間に立ってしないで横から扱うようにしてください。フルクローラと作業機の間にはさまれたりして、傷害事故を引き起こすことがあります。

● ロータリに寄りかかったり、乗ったりしないでください。怠ると、転倒したり転落したりして危険です。

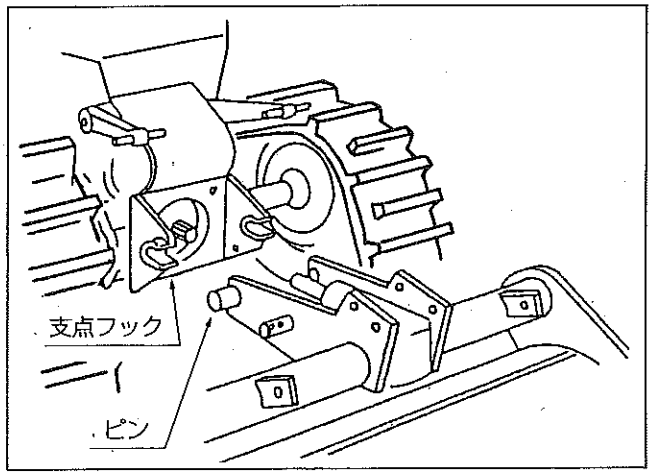
● ロータリの取り付け・取り外しを行う時は、必ず尾輪（両側）又はスタンドを取り付けて行ってください。

怠ると、ロータリが急に傾いたりして、思わぬ事故を引き起こすことがあります。

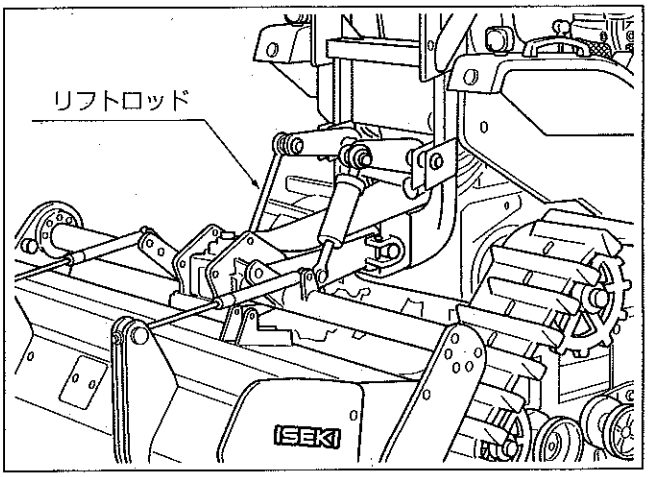
(2) スタンドが図のようにロータリ着脱時の状態になっていることを確認してください。




(3) 路面の平らな場所を選び、ロータリとフルクローラの中心を合わせながらロータリの取り付けピンがフルクローラの取付部（支点フック）と接触近くまでフルクローラをバックさせます。



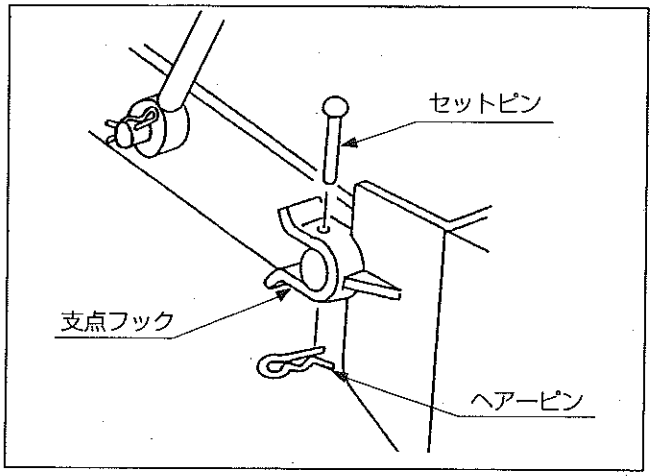

(4) ロータリのピンを支点フックに入れリフトロッドを取り付けてください。



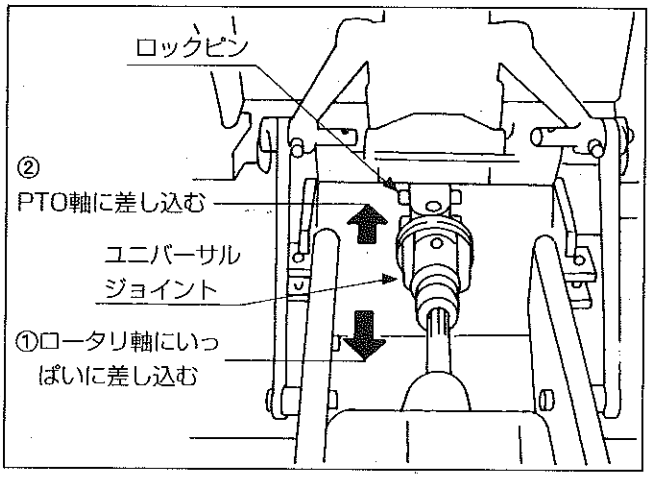

⚠ 注意

●フルクローラの移動は低速で行ってください。

(5)
(4) 連結後ロータリを少し吊り上げてセットピンをフルクローラの支点フックに通しヘアーピンにて外れ止めをしてください。

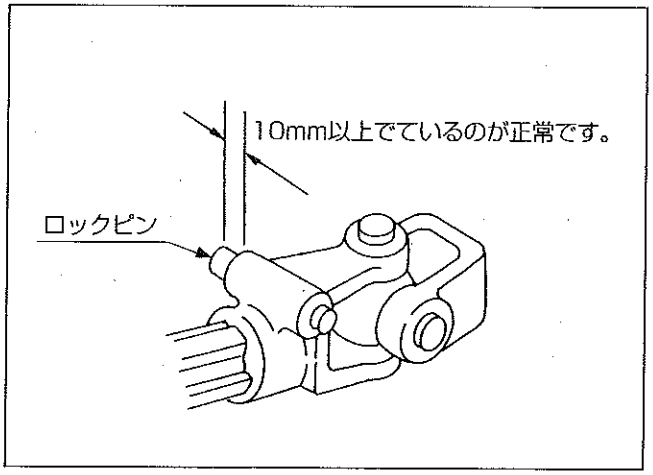



(6) ユニバーサルジョイントの取り付けは、まずロータリ側の軸にいっぱい差し込み次にフルクローラのPTO軸にロックピンを指で押さえながら入れPTO軸にセットしてください。
この状態で、前後に押し引きし、ジョイントが動かないことを確認してください。

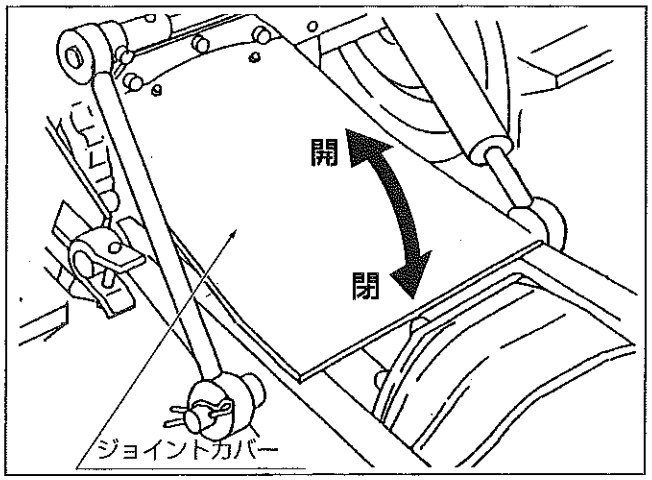



**⚠ 警告**

- ユニバーサルジョイントを取り付ける時は、フルクローラのエンジンを停止し、パーキングブレーキをセットしてから行なってください。怠ると衣服を軸に巻き込まれたりして、傷害事故を引き起こすことがあり大変危険です。
- ユニバーサルジョイントが確実にセットできたかどうかの確認はロックピンの頭が10mm以上でているかどうかで確認してください。



(7) ジョイントカバーは、開閉ができます。
ユニバーサルジョイントの着脱は、開の状態で行ってください。作業中は必ず閉じた状態で使用してください。

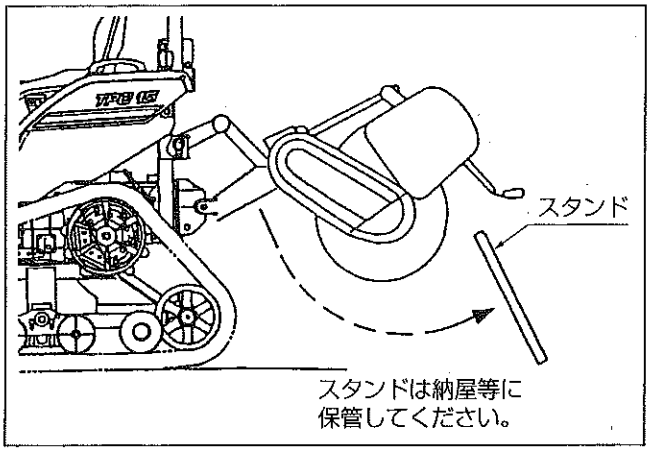



> ⚠ 注意
> ●ジョイントカバーの上に乗ったり、物を載せたりしないでください。傷害事故を引き起こすおそれがあります。

(8) ロータリを装着後・ケーブル(オート)を取付けてください。

> ⚠ 注意
> ●オートロータリ・ケーブル(オート)の取扱い方は63ページを参照してください。

(9) 使用したスタンドは、ロータリを少し持ち上げた状態で取外し、納屋等に保管してください。




> ⚠ 注意
> ●ロータリを装着後、スタンドは必ず取外してください。装着したままでロータリを上げ下げすると、スタンドがフルクローラと干渉し損傷事故を引き起こす恐れがあります。

## ■ロータリの取り外しかた

取付けと逆の手順で行ってください。

(1) スタンドを取付けて下さい。
(2) ケーブル (オート) を取り外してください。
(3) ユニバーサルジョイントを取り外してください。
(4) セットピンを取り外してください。
(5) リフトロッドを取り外してください。
(6) ロータリを取り外した後、PTO軸カバーを取り付けてください。

## ロータリの取り付け・取り外し（ARP15・16：特殊4Pリンク式）

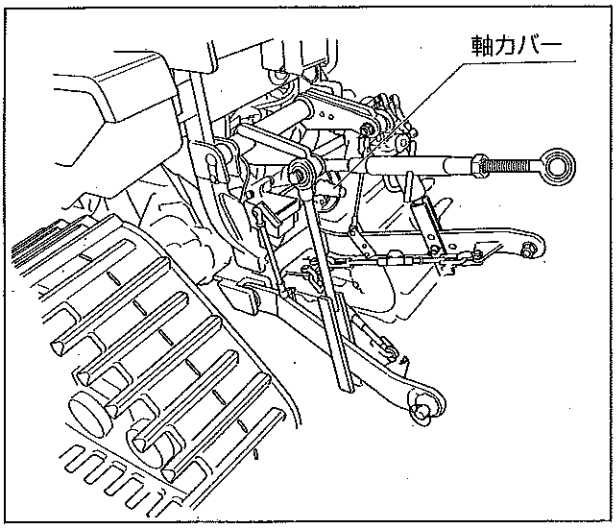
### ■取り付け前の準備

**⚠ 警告**

● フルクローラのエンジンを停止し、パーキングブレーキをセットして、安全確認して行ってください。安全確認を怠ると、傷害事故を引き起こすことがあります。

(1)PTO軸カバーを外します。

安全のため、取り付けてあるPTO軸カバーを外してください。PTO軸を使わない場合は、PTO軸にグリースを塗布した後、必ず元の位置に取り付けてください。




**⚠ 注意**

傷害事故を防止するため、次のことを守ってください。

● ロータリの取り付け・取り外しは、平たんな場所で行ってください。怠ると機械が急に動いたり傾いたりして、思わぬ事故を引き起こすことがあります。

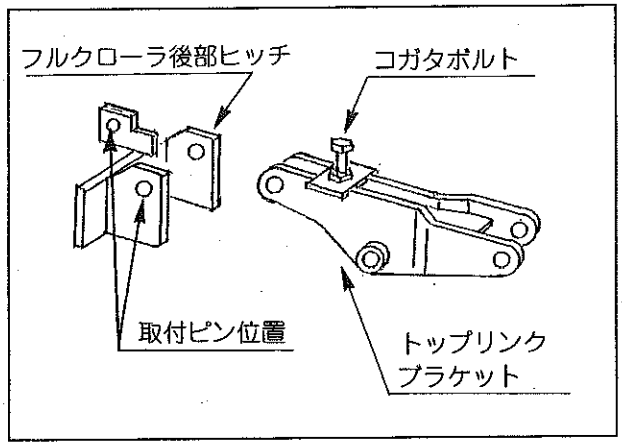
● ロータリの取り付け・取り外しは、フルクローラと作業機の間に立ってしないで横から扱うようにしてください。フルクローラと作業機の間にはさまれたりして、傷害事故を引き起こすことがあります。

● ロータリに寄りかかったり、乗ったりしないでください。怠ると、転倒したり転落したりして危険です。

● ロータリの取り付け・取り外しを行う時は、必ず尾輪（両側）又はスタンドを取り付けて行ってください。

怠ると、ロータリが急に傾いたりして、思わぬ事故を引き起こすことがあります。

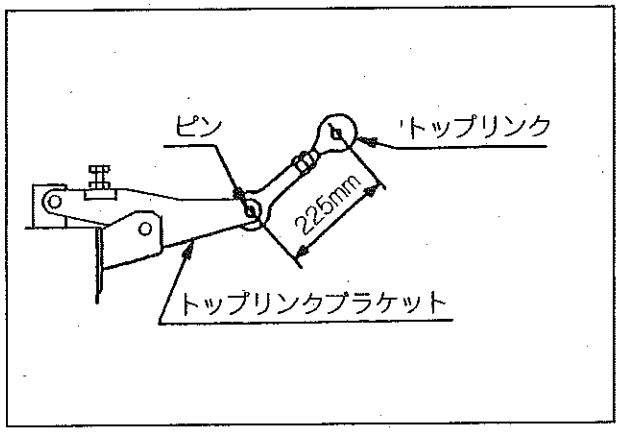
(2) トップリンクブラケットを取り付けます。
固定用のコガタボルトが上側になるように、図のようにフルクローラ後部ヒッチに取付ピンにて取り付けてください。固定はブラケットが動かなくなるまでコガタボルトを締め込んでください。




**重要**

**●使用初期に、トップリンクブラケットにガタが発生することがあります。その際は、増締めを行い、確実に固定してください。**

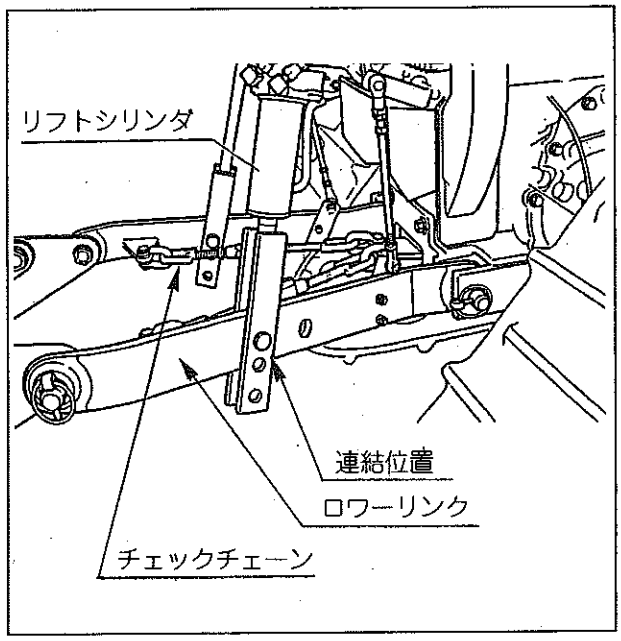
(3) トップリンクを取り付けます。
図のように、トップリンクブラケットにピンにて取り付けてください。




**重要**

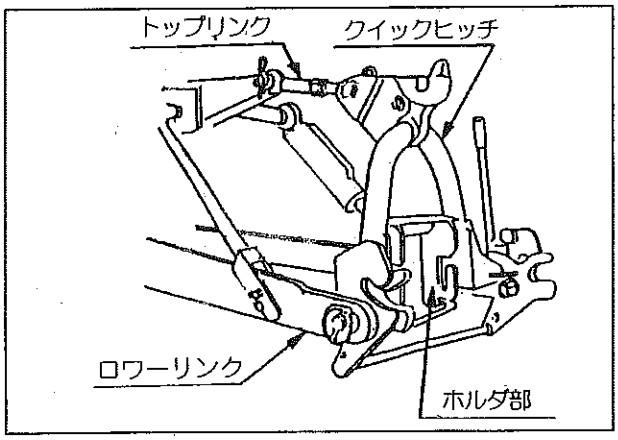
**●トップリンクの長さは、標準セット時の長さを表示しております。調整を必要とする場合は、振動・騒音が少なくなるように長さを調整してください。**

(4) ロワーリンクとリフトシリンダの取り付け位置を調整してください。
ロワーリンクは後方の穴、リフトロッドは一番上側の穴と連結されていることを確認し、もし異なっている場合は調整してください。




> ⚠ **注意**
> ● **ロワーリンクと、リフトシリンダの取り付け位置を間違うと、ユニバーサルジョイントが抜けてしまい破損し傷害事故を引起こすおそれがありますので注意してください。**

(5) クイックヒッチを取り付けます。
チェックチェーンをゆるめて、クイックヒッチをロワーリンクとトップリンクの3点で止めてください。



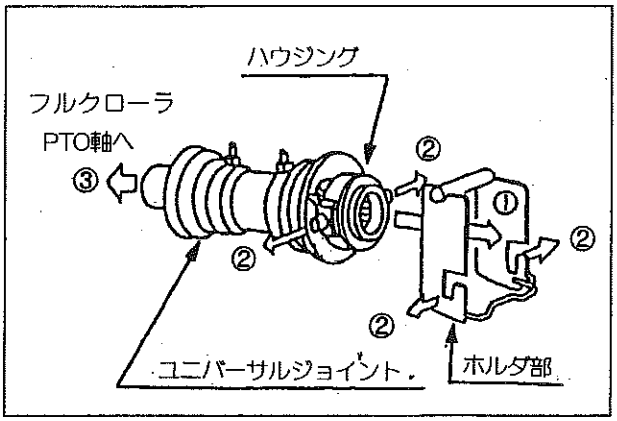
(6)ユニバーサルジョイントを取り付けます。

①ユニバーサルジョイントをクイックヒッチのホルダ部に通します。(矢印①)

②ハウジングの左右のピンをホルダ部の溝に合わせセットしてください。(矢印②)

③ユニバーサルジョイントのロックピンを指で押し、フルクローラのPTO軸に差し込みます。ロックピンを確実に溝に入れてください。(矢印③)

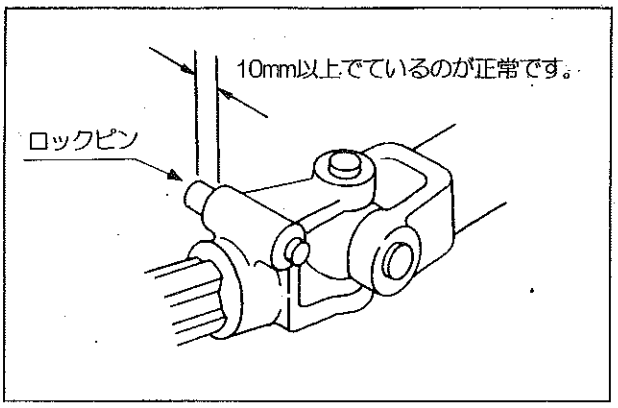
この状態で、前後にジョイントが動かないことを確認してください。




**⚠ 注意**

**●ユニバーサルジョイントのロックピンが、正確に溝にはいったかどうかの確認は、ロックピンの頭が10mm以上出ているかどうかで確認してください。**

**●ロータリを装着していない状態ではぜったいにPTOを回さないでください。**

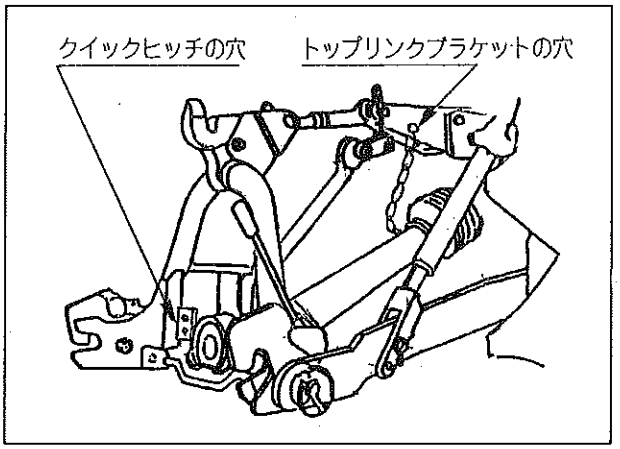



(7)安全カバーの回り止めをします。

安全カバーの鎖を図の通り取り付けてください。

●フルクローラ側＝トップリンクブラケットの穴

●ロータリ側＝クイックヒッチ左側の穴




**重要**

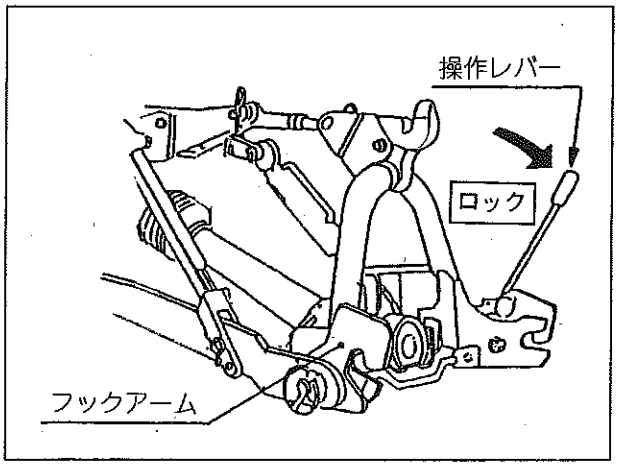
**●鎖は所定の位置に正しく取付けてください。**

(8)操作レバーを矢印（➡）の方向に倒し、ロック状態にしてください。

**⚠ 注意**

**●クイックヒッチ左右のフックアームが確実にロック状態になっているか、確認してください。**

**ロックしていないと、ロータリが脱落する恐れがあります。**



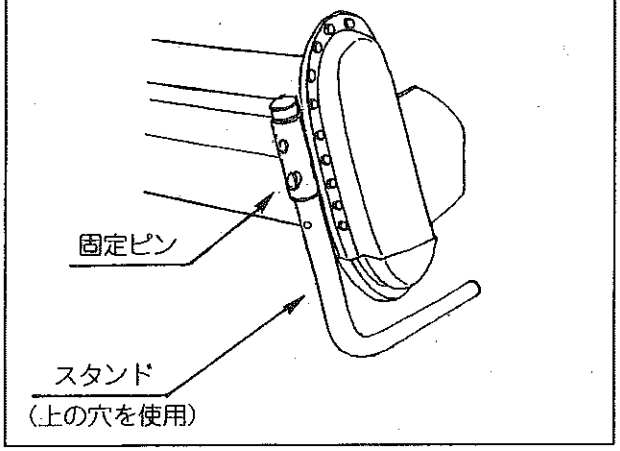
## ■フルクローラへの取付けかた

次の手順で取付けてください。

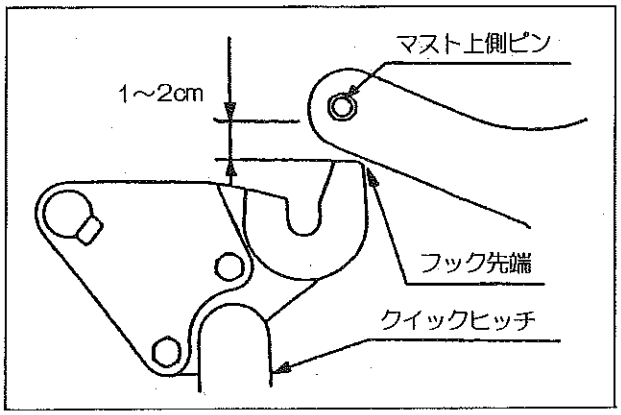
(1) スタンド左右が図のようにロータリ着脱時の状態になっているか、固定ピンは確実に取付けられているか確認してください。

> ⚠ 注意
> ●スタンドの取扱い方は98ページを参照し、左右とも確実に取付けられていることを確認してください。

ロータリ着脱状態



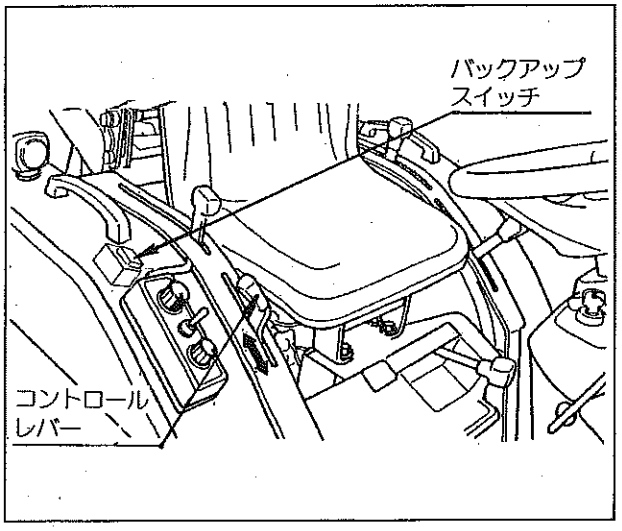

(2) クイックヒッチを下げ、フックの先端がマスト上側ピンのやや下（1～2cm）にくるようにバックしてください。




重要

●フルクローラをロータリの中心に合わせまっすぐ直角になる様にバックしてください。

(3) クイックヒッチをゆっくり上げ、フック部がマスト上側ピンに確実に引っ掛かったことを確認してから、ロータリをつり上げてください。

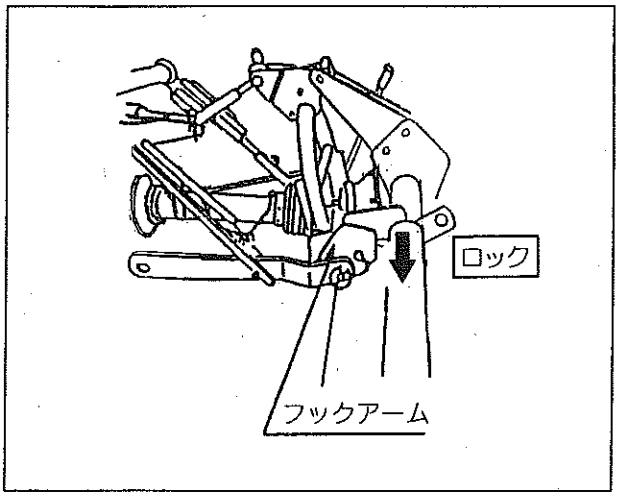



重要

●ユニバーサルジョイント（スプライン部）が完全にドッキングできるまで、ロータリを持ち上げすぎないでください。（耕うん爪を地面から5～10cm程度の高さにしてください。）

> ⚠ 注意
> ●ロータリの上げ下げはコントロールレバーで行ないます。この時、「バックアップスイッチ」は「切：ランプを消す」にしてください。怠ると、急にクイックヒッチが持ち上がり損傷事故の原因となる恐れがあります。

(4) クイックヒッチでロータリをつり上げるとロータリは自動的にフックアームで「ロック」され、同時にユニバーサルジョイントも噛み合います。



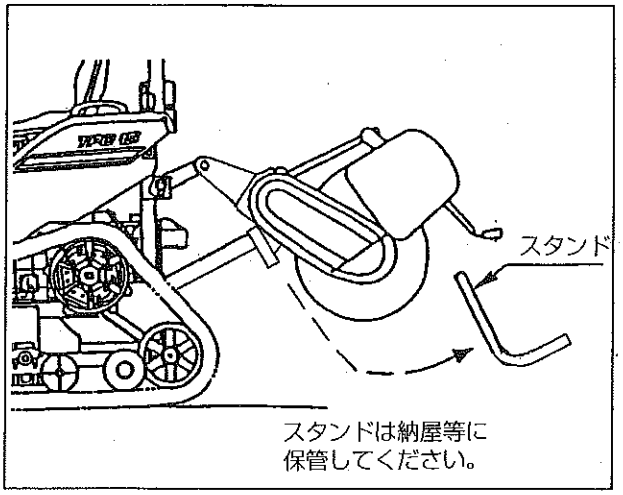

**重要**

**●ユニバーサルジョイントが噛み合わなかった場合は無理をせずロータリを下げ、手順(2)より再度やり直してください。**

(5) ロータリを装着後、ケーブル(オート)を取付けてください。

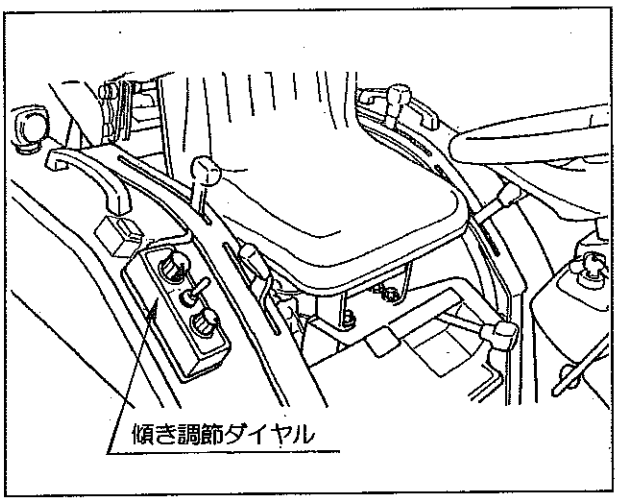
> ⚠ 注意
> ●ケーブル(オート)の取扱い方は63ページを参照してください。

(6) 使用したスタンドは、ロータリを少し持ち上げた状態で取外し、納屋等に保管してください。




> ⚠ 注意
> ●ロータリを装着後、スタンドは必ず取外してください。装着したままでロータリを上げ下げすると、スタンドがフルクローラと干渉し損傷事故を引き起こす恐れがあります。
> ●フックアームにより、ロータリの外れを防止しています。確実にロック状態にあるか確認してください。

(7) ロータリの左右の傾き調整をします。
ロータリを持ち上げた状態で、ロータリの爪軸がフルクローラの車軸と平行になるようにしてください。
調整は「傾き調節ダイヤル」で行ないます。
(59ページ参照)




**重要**

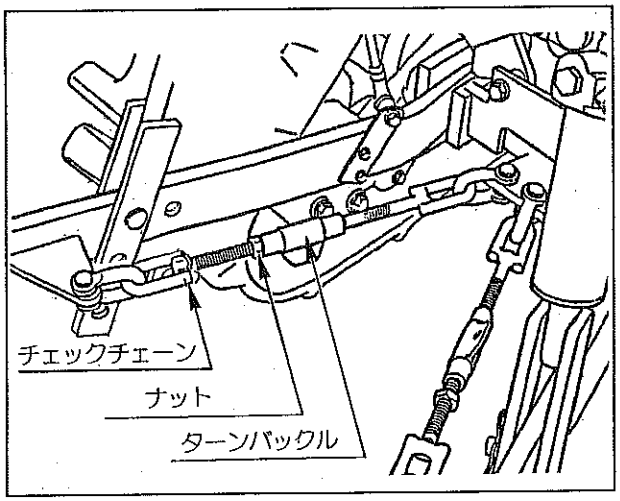
**●ロータリがフルクローラと平行になっていないと左右の耕深が異なり、砕土・均平性能が悪くなります。**

(8) フルクローラとロータリの中心を合わせます。
ユニバーサルジョイントが、上から見て一直線になるようにチェックチェーンを左右均等に張り、ナットでロックしてロータリの横ぶれを防止してください。

**重要**

**●ユニバーサルジョイントの直線がずれていると、振動や騒音の原因となります。**

**●ロータリを回転しながら上げ下げし、ユニバーサルジョイント部からの異音・振動がないか確認します。**
**この時、耕うん爪が接地しないよう注意してください。もし異音・振動が発生した場合は、ロワーリンクとリフトロッドの取り付け位置を確認後、トップリンク長さを音の出ない長さに調整してください。**

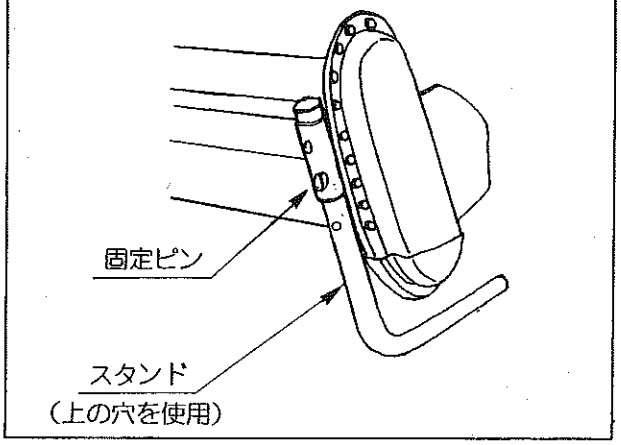


## ■ロータリの取外しかた

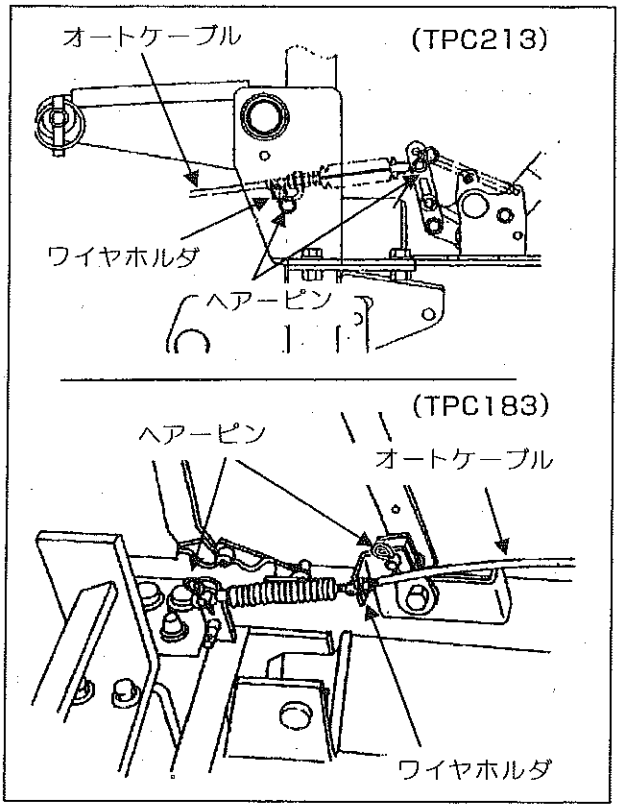
取付けと逆の手順で行なってください。

(1) スタンドを取付けます。
(98ページ参照)

ロータリ着脱状態




(2) ケーブル（オート）を取外します。
(63ページ参照)
ヘアーピン2個を外します。
ワイヤホルダを付けたままケーブル（オート）を外してください。

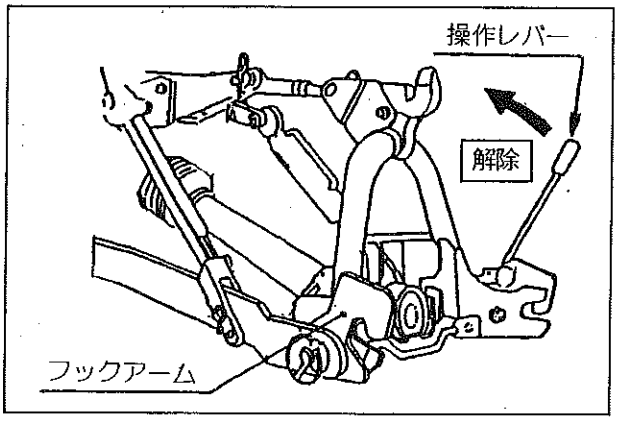



> ⚠ 注意
> ●取り外すことを忘れると破損の原因となります。

(3) 操作レバーをロック解除 (矢印) の方向に操作します。

(4) ロータリを降ろすと、フルクローラとロータリが分離されます。

(5) フルクローラを低速で静かに前進させてください。




> ⚠ 注意
> ●分離されたロータリが安定していることを確認してください。

## 作業に適した調整と使いかた

### ■プレッシャスプリングの調整のしかた

凹凸の激しいほ場、畦くずし、自動耕深調節作業などで、表面の仕上がりを平にしたい場合にプレッシャスプリングを働かせてください。

(1)耕うんを行い、その状態でフルクローラを停止し、エンジンを止めてください。

(2)プレッシャスプリングが2～3cmたわむ位置までスプリングを手前に引っ張り、ヘアーピンで位置決めをしてください。

(3)加圧力の調整は、ヘアーピンの位置を変える事によって、行います。矢印方向にセットするに従って、強くなります。

**⚠ 警告**

●プレッシャスプリングの調整を行う時は、ロータリを地上に降ろし、フルクローラのエンジンを停止してから行ってください。怠ると、ロータリが落下したり、衣服を爪軸に巻き込まれたりして、傷害事故を引き起こすことがあり大変危険です。

### ■サイドカバーの調整のしかた(ARP14・15)

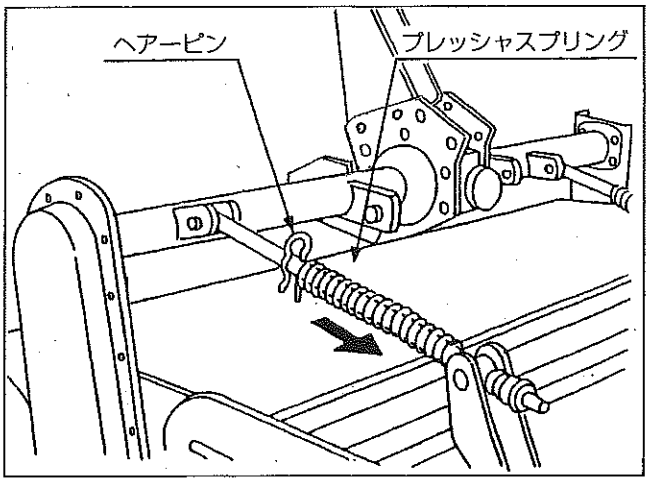
サイドカバーは上下調節ができます。

作業に合わせて調節してください。

| サイドカバー標準位置 | |
|---|---|
| ARP14・15 | 上げ位置 |

**⚠ 注意**

●耕うん作業中、サイドカバーが地面に接触しないよう調節してください。
接触すると、サイドカバーの摩耗や変形の原因となります。

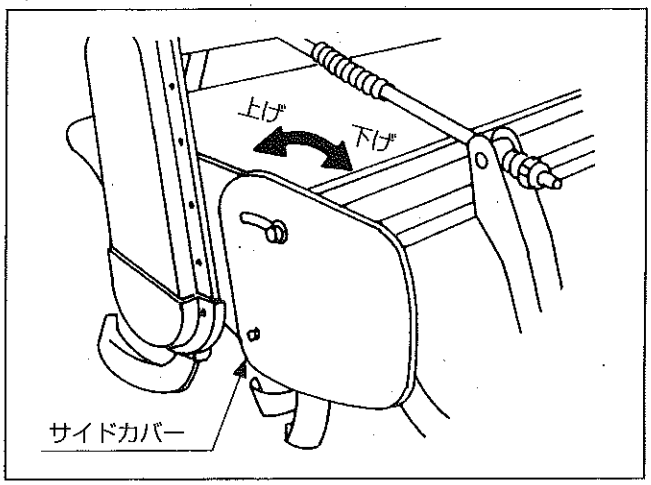



**重要**

**●必要以上に加圧を強くすると馬力ロスの原因となります。**

**●耕うん後の凹凸が目立ち、再度耕うんするときは、加圧力の調整と合わせて車速を1段下げ、耕深を少し深めにしてください。**

**●移動中リヤカバーが上下にバタツク時は、プレッシャスプリングを矢印（⇐）の方向に押し付けて固定し、リヤカバーのバタツキを止めてください。**



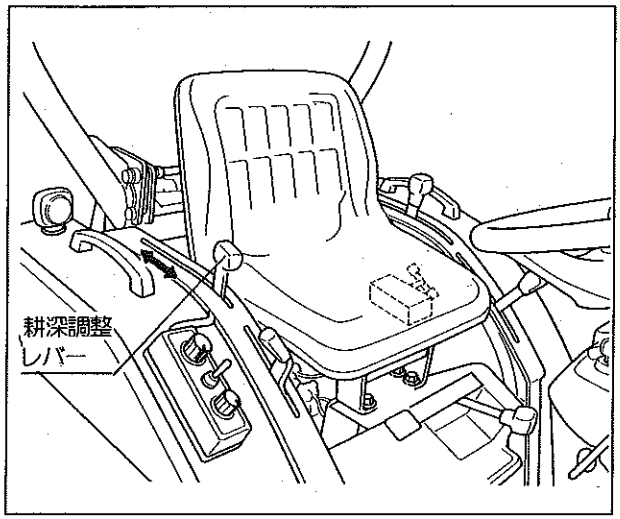
## ■耕深調整のしかた

(1) オートロータリ作業

自動耕深制御は標準装備です。

耕深調整レバーの位置を変えることにより耕深を自由に選ぶ事ができます。

(63ページ参照)



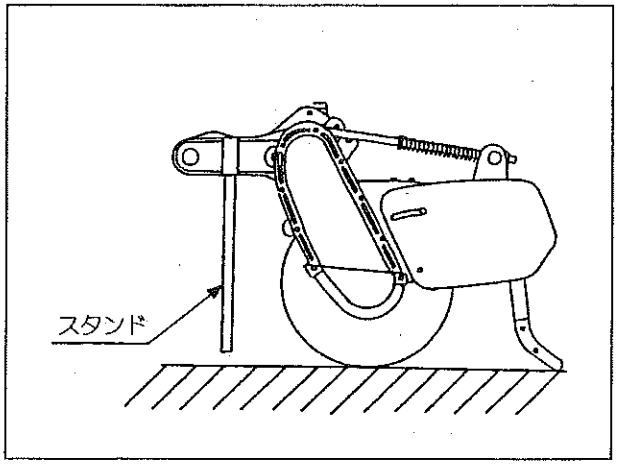

## ■スタンドの使いかた

(1) ARP14・15（装着方式：2Pリンク式）

前スタンドを標準装備しています。ロータリの着脱時に使用してください。

図が着脱状態です。

固定ピンで確実に取り付けてください。



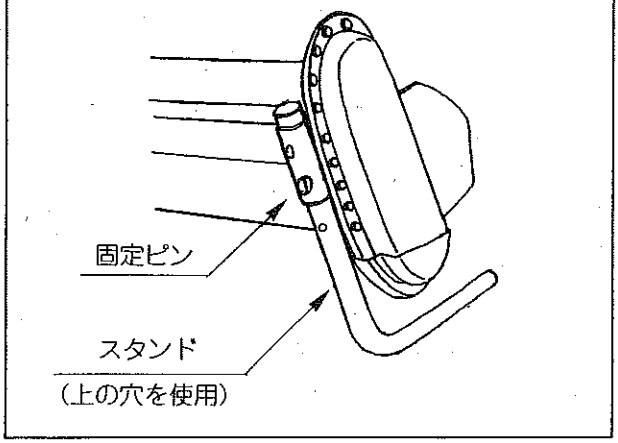

(2) ARP15・16（装着方式：特殊4Pリンク式）

スタンドをロータリ左右に標準装備しています。ロータリの着脱時に使用してください。

図が着脱状態です。

固定ピンで確実に取付けてください。

**ロータリ着脱状態**

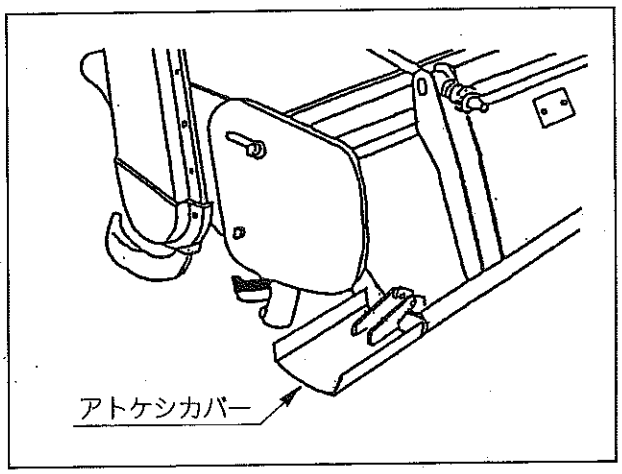



**⚠ 注意**

- **スタンドが確実に固定されていることを確認してください。**
- **作業時は、納屋等に保管し、上向きに取り付けないでください。思わぬ事故の原因となります。**

## ■アトケシカバーの使いかた

アトケシカバーを開くことで、隣接耕や畦立作業時の段差が少なくなります。



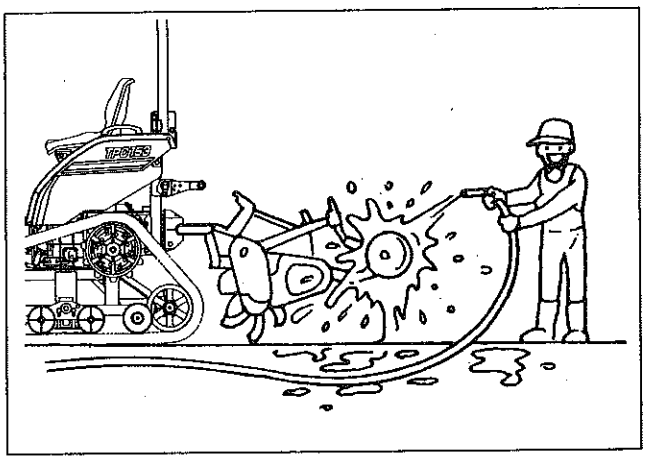

**⚠ 注意**

●開いたままでの走行は危険です。作業終了後は必ず閉じてください。

## ■手入れについて

●水洗いをする場合は電装品等に直接圧力水をかけないようにしてください。

●高圧洗浄機で洗車すると、圧力水によりラベルがはがれるおそれがあります。
圧力水を直接ラベルにかけないでください。



# 耕うん爪について

**⚠ 注意**

傷害事故を防止するため、次のことを守ってください。

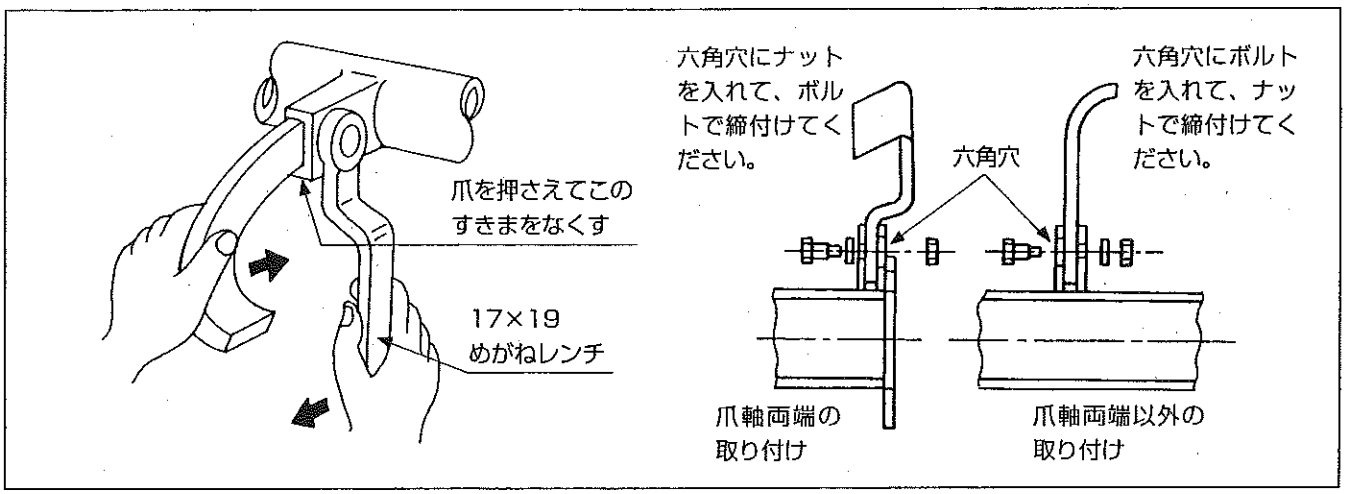
●フルクローラを平坦な広い場所に置き、エンジンを止める。

●油圧降下速度調節つまみを「ロック」の方向いっぱいに回す。(57ページ参照)

●パーキングブレーキをセットする。

●ボルト・ナットを締め付ける時は、めがねレンチが確実に入ったか確認する。

## ■耕うん爪の取り付けかた




**重要**

- 爪を抜いて作業すると、爪軸のバランスが狂い、振動や騒音が出ることがありますので、注意してください。
- 畦くずしや、凹凸のある枕地などを耕うんする場合は、リヤカバー加圧用プレッシャスプリングにてリヤカバーの押付力を強くすると効果的です。
- 耕うん後の凹凸が目立ち、再度耕うんするときは、車速を１段下げ、耕深を少し深めにしてください。
- メガネレンチで力いっぱい締付けてください。
- 耕うん爪は、回転径の正しい「ヰセキ純正部品」をご使用ください。

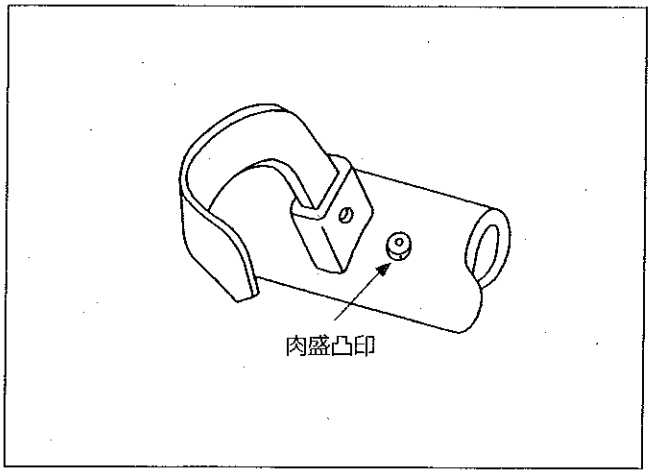
## ■爪配列

爪の配列は、作業に合わせて次の通り使い分けることができます。作業内容に合わせて選択してください。

**重要**

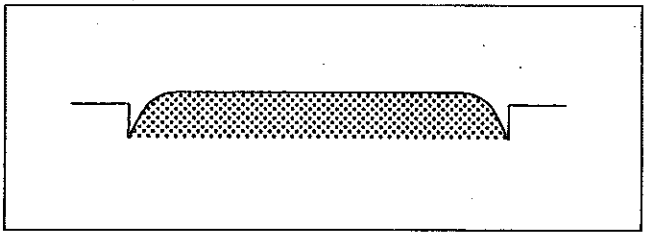
- 肉盛凸印のあるホルダは、肉盛凸印側に爪の曲がりがくるように取り付けます。その他のホルダには逆に曲がった爪を取り付けてください。

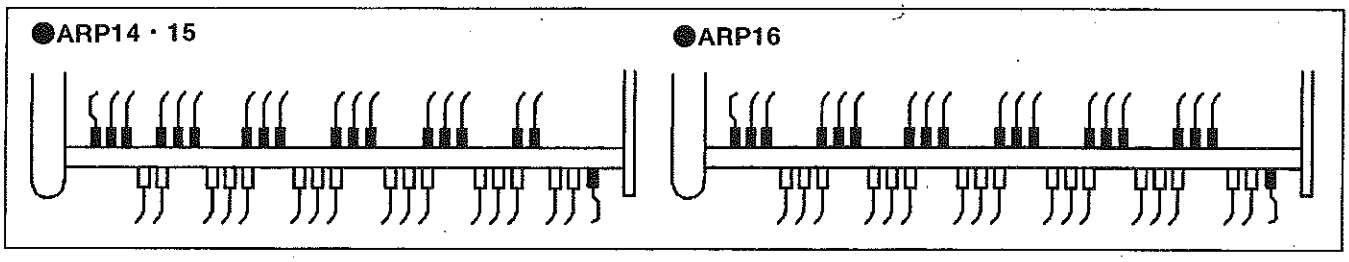
■ =肉盛凸印が「ある」ホルダです。
凵 =肉盛凸印が「ない」ホルダです。



(1)平面耕（標準）

一般水田・畑の耕うん作業・代かき作業・畑の細土・均平作業等に使用できます。

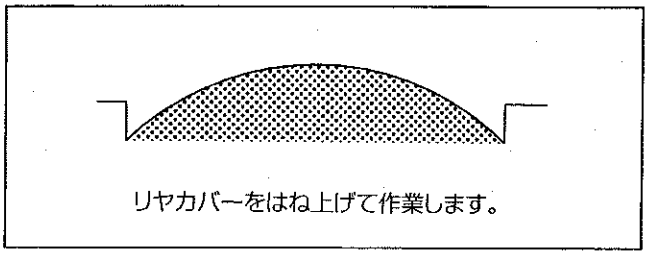


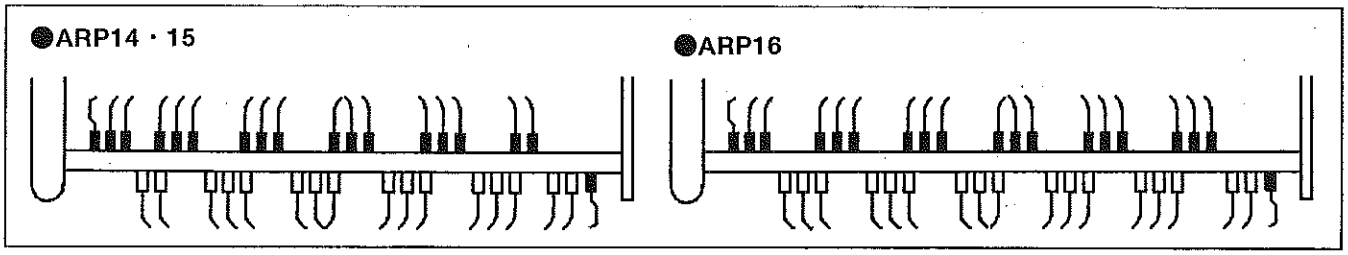



(2)内盛耕

乾土効果を必要とする水田耕うん作業、溝をまたいでの畦くずし作業に使用できます。

爪軸中央を基準とし、右図を参考に爪を内向きになるよう取り付けてください。この時、リヤカバーが盛り土に当たらないようにすることで高く盛ることができます。

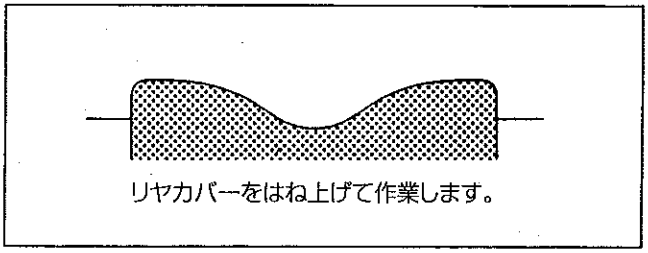


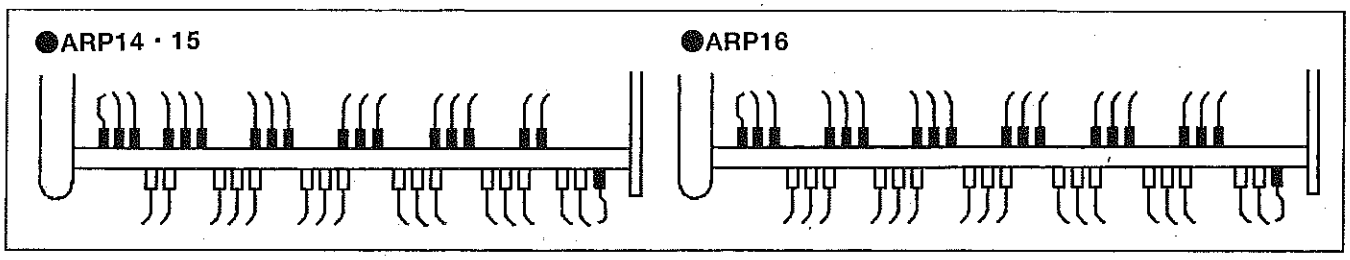




(3)外盛耕

乾土効果を必要とする水田耕うん作業、畦をまたいでの畦くずし作業、畦立作業に使用できます。

爪軸中央を基準とし、右図を参考に爪を外向きになるよう取り付けてください。この時、リヤカバーが盛り土に当たらないようにすることで高く盛ることができます。



## 作業前の点検（日常点検）

⚠ 注意

傷害事故を防止するため、次のことを守ってください。

●フルクローラを平坦な広い場所に置き、エンジンを止める。

●油圧降下速度調節つまみを「ロック」の方向いっぱいに回す。（57ページ参照）

●パーキングブレーキをセットする。

●安全カバー類を外した時は、必ず元の状態に取付けてください。巻込まれや、切傷事故の原因となります。

### ■点検箇所

故障を未然に防ぐには、機械の状態をいつもよく知っておくことが大切です。日常点検は毎日欠かさず行ってください。

点検は次の順序で実施してください。

(1) 前日の異常箇所

(2) ロータリ取付部の点検

①ピンの抜け、脱落

②ユニバーサルジョイントのロックピンのロック状態

③チェックチェーンのゆるみ

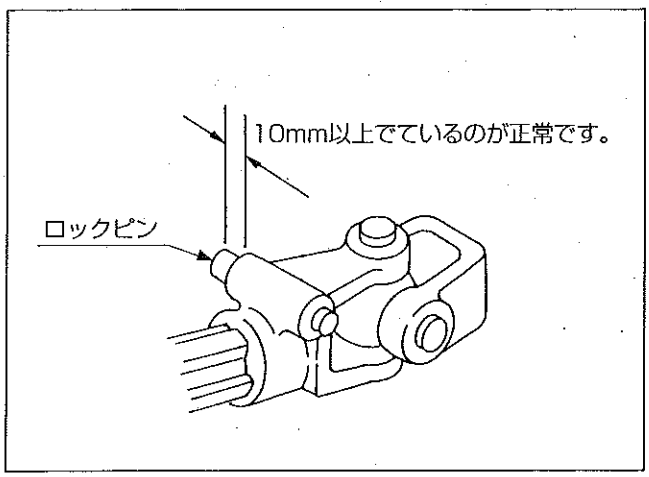
(3) ロータリ各部の点検

①ロータリ各部のボルト・ナットのゆるみ

②爪軸固定ボルトのゆるみ

③耕うん爪取り付けボルトのゆるみ

④ギヤケース・チェンケースのオイル量及び油もれの確認




重要

●オイルは工場出荷時に入れてありますが、念のためご使用前に確認してください。

（104ページ参照）

## ロータリの手入れと点検・整備（2Pリンク式・特殊4Pリンク式共通）

**⚠ 警告**

傷害事故を防止するため、次のことを守ってください。

- ●フルクローラを平坦な広い場所に置き、エンジンを止める。
- ●油圧降下速度調節つまみを「ロック」の方向いっぱいに回す。（57ページ参照）
- ●パーキングブレーキをセットする。
- ●ボルト・ナットを締め付ける時は、めがねレンチが確実に入ったか確認する。
- ●安全カバー類を外した時は、必ず元の状態に取付けてください。巻込まれや、切傷事故の原因となります。

### ■定期点検箇所一覧表

次の定期点検表に従って、必ず定期点検を実施してください。

**重要**

**●新車時の初期点検整備はロータリの耐久性にとって大事な項目です。**
**フルクローラのアワメータが50時間になるか、最初のシーズンを終了したときは、必ず点検整備を実施してください。**

○：点検、補充、調整　●：交換　★：整備工場にて交換・整備をおすすめします。

| No. | 点検項目 | | アワメータ表示時間（Hr） | | | | | | 参照ページ |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | 50 ★ | 100 | 200 ★ | 300 | 400 ★ | 500 | |
| 1 | ギヤケース チェンケース | 油量点検 | | ○ | ○ | ○ | | ○ | 104、105 |
| | | オイル交換 | ● | | | | ● | | 104、105 |
| 2 | グリースの補給 ①ユニバーサルジョイント ②ロータリ側入力軸 | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | 106 |

**重要**

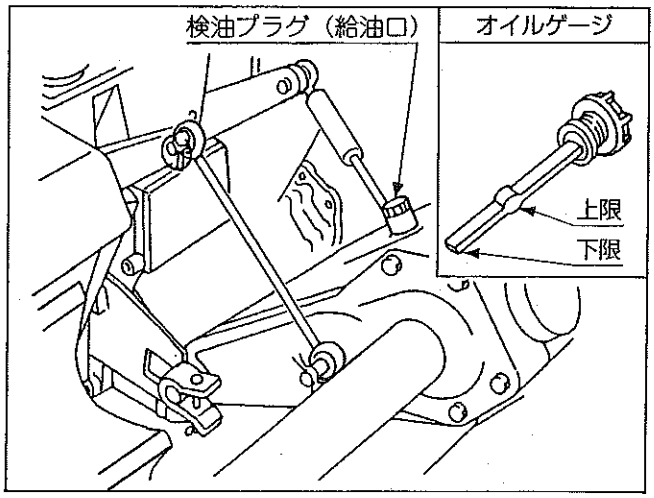
- ●点検する時は、ロータリをフルクローラに装着したまま水平な地面に置いて行ってください。傾いていると、正確な量を示さないことがあります。
- ●ギヤケース部オイルゲージはネジ込んで測定してください。
- ●オイル交換時の規定量は完全にオイルを抜き出した場合のオイル量です。
  オイルゲージ又は、検油プラグにて点検して上限以上には入れないでください。
- ●抜き出したオイルは、道路・河川に捨てず、ガソリンスタンド・販売店等にて処理してください。

## ■オイル量の点検と交換（ARP14・15）

(1)ギヤケースオイル量点検のしかた

ロータリを接地させ検油プラグを抜き、オイルゲージの先端をきれいにふいて、ネジ込んでから再び抜き「下限」以上オイルがあるか調べます。

「下限」以下の場合は補給しますが「上限」以上には入れないでください。

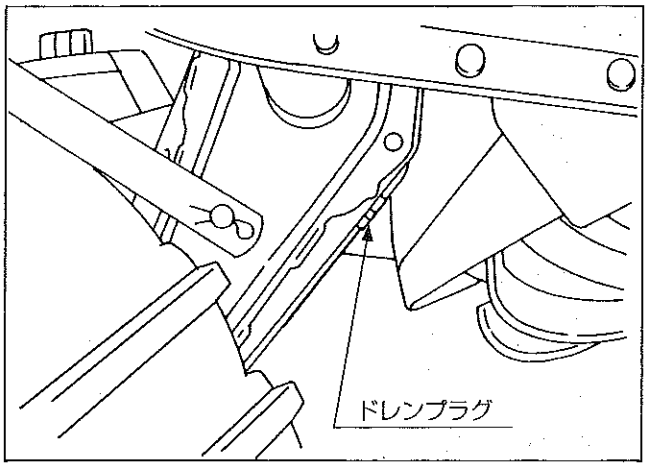



(2)ギヤケースオイル交換のしかた

①ドレンプラグを外してオイルを出します。オイルが抜けたらドレンプラグをしっかりと締付けてください。

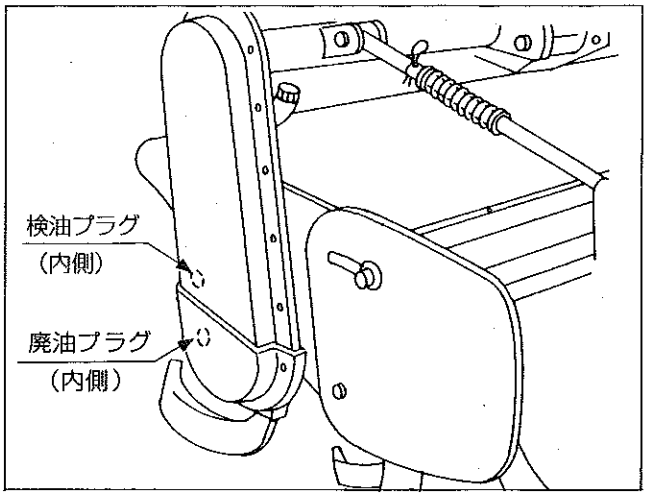
②ギヤオイルを給油口から規定量（0.8ℓ）入れてください。

オイルは、ヰセキハイポイドギヤオイル＃140をご使用ください。




(3)チェンケースオイル量点検のしかた

ロータリを接地させ検油プラグを外し、検油口までオイルがあるかを調べます。検油口以下の場合は補給が必要ですが、検油口以上には入れないでください。



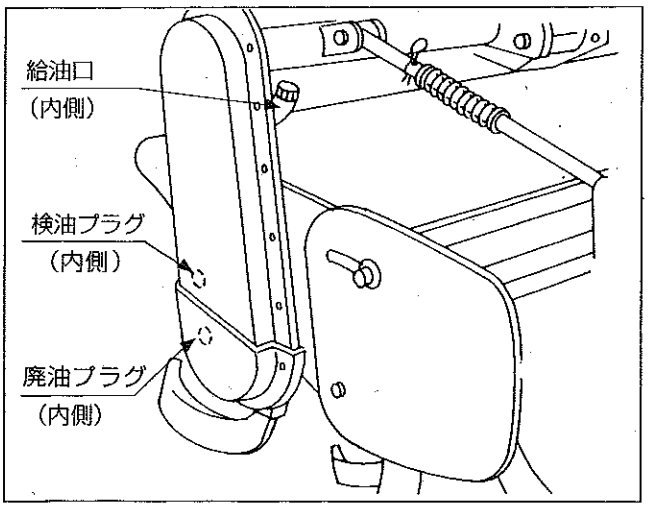

(4)チェンケースオイル交換のしかた

①ロータリをリフトアップします。

②廃油プラグを外してオイルを出します。オイルが抜けたらプラグをしっかりと締付けてください。

③ギヤオイルを給油口から規定量（0.6ℓ）入れてください。

オイルは、ヰセキハイポイドギヤオイル＃140をご使用下さい。

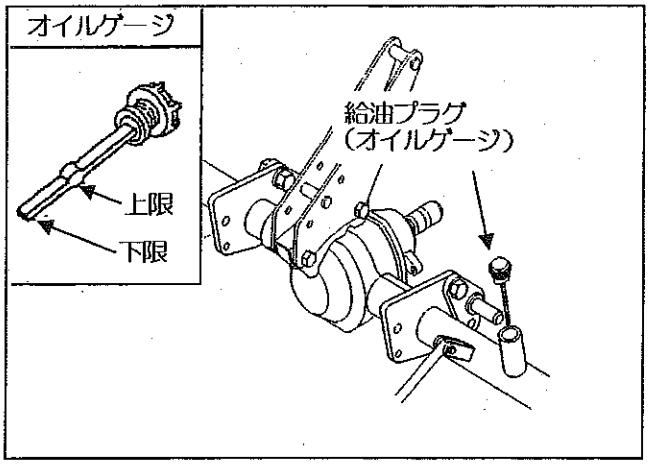


## ■オイル量の点検と交換（ARP16）

(1) オイル量点検のしかた

ロータリを降ろして給油プラグを抜き、オイルゲージの先端をきれいにふいて、ネジ込んでから再び抜き「下限」以上オイルがあるか調べます。

「下限」以下の場合は補給しますが「上限」以上には入れないでください。




**重要**

**●点検するときは、ロータリをトラクタに装着したまま水平な地面において行ってください。傾いていると、正確な量を示さないことがあります。**

(2) オイル交換のしかた

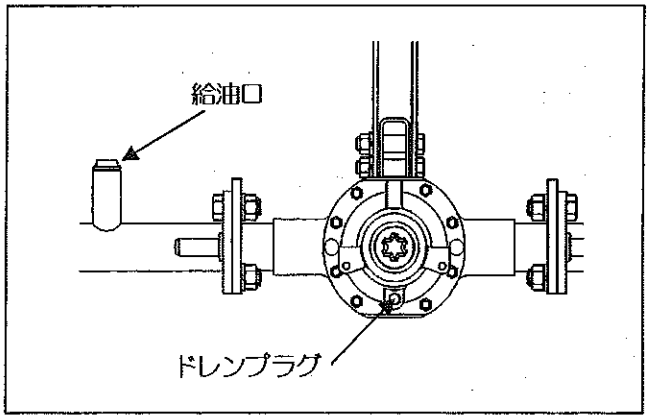
ギヤケースとチェンケースのそれぞれのドレンプラグを外してオイルを抜きます。

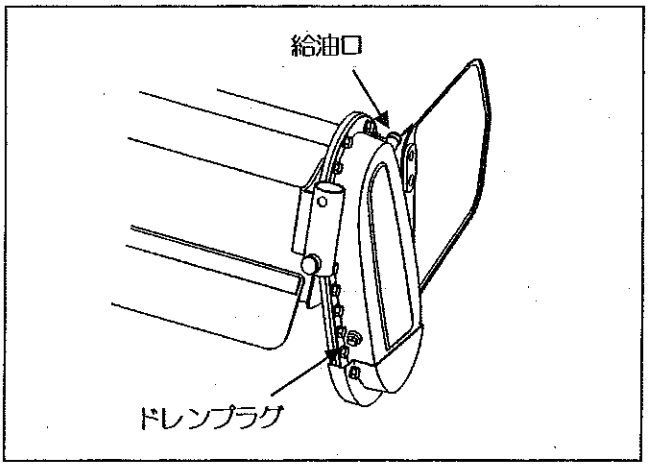
オイルが抜けたらドレンプラグをしっかりと締付けてください。

オイルを給油口より規定量（4.5ℓ）入れてください。

オイルは、ヰセキハイポイドオイル＃140をご使用ください。

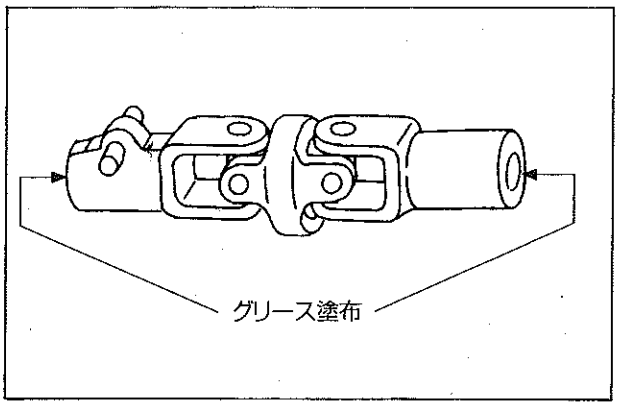
（オイル規定量はギヤケースとチェンケース合わせた量です。）



## ■グリースの補給

通常のグリースアップは、定期点検箇所一覧表に従って行ってください。ただし、代かき作業終了後は必ずグリースアップをしてください。

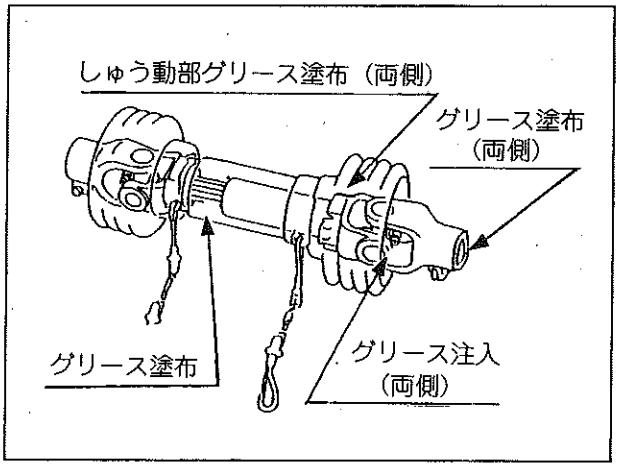



(1)ユニバーサルジョイント

しゅう動部はジョイントのオス・メス部を切り離して補給してください。

(2)入力軸

ユニバーサルジョイントを外し、入力軸のしゅう動部に補給してください。

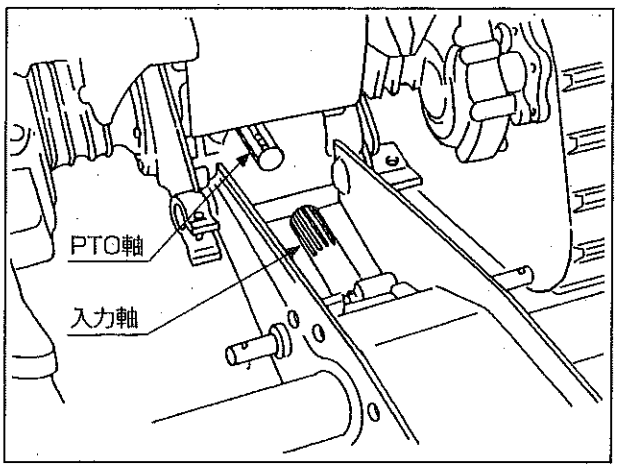



**重要**

**●フルクローラ側PTO軸にも塗布してください。**

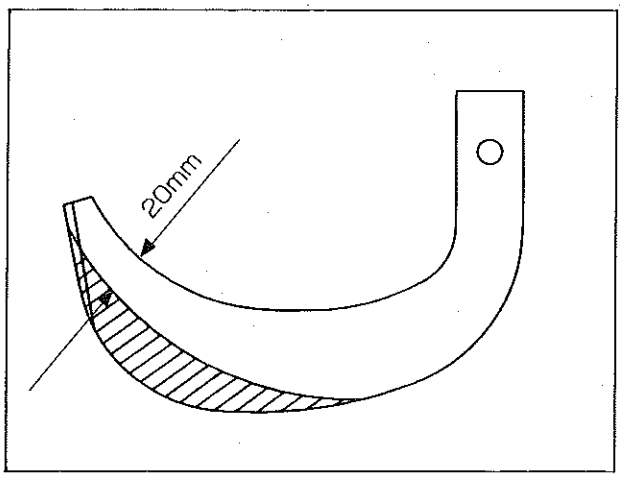
## ■シールの組替え

整備などの目的でギヤケース、チェンケース等を分解される場合は、必ず新しいオイルシール、スリーブと交換してください。オイルもれの原因となります。液状ガスケットは、スリーボンドTB1206E相当品を使用してください。




## ■耕うん爪の交換時期

耕うん爪が摩耗しますと反転性・砕土性が悪くなり、充分な性能が発揮されません。（曲がったり、折れたりしてからでは遅すぎます。）効率の良い耕うん作業をしていただくために、耕うん爪は早めにお取り替えください。




**重要**

**●図のようになりましたら新しい耕うん爪と交換してください。**

# 不 調 時 の 処 置

| | 故障状況 | 原因 | 処置 |
|---|---|---|---|
| エンジン関係 | メインスイッチを「始動」にしても、スタータが回らない | ○クラッチペダルの踏み忘れ<br>○セフティースイッチの故障<br>○バッテリの放電<br>○各部端子のゆるみ<br><br><br>○スイッチの故障<br>○スタータの故障 | ○ペダルを踏込む<br>○「お買いあげ先」で調整または交換<br>○バッテリを充電<br>○外れ、ゆるみ、腐蝕を点検し清掃して確実に締付け、グリスを塗布し防錆しておく<br>○「お買いあげ先」で修理または交換<br>○「お買いあげ先」で修理または交換 |
| | スタータは回るが、回転がおそい | ○バッテリの充電量不足<br>○アース不良<br>○エンジン・オイルの粘度が高い | ○バッテリの充電<br>○接続部を清掃しアースを確実にとる<br>○適性粘度のオイルに交換 |
| | スタータは回るがエンジンがかからない | ○燃料系統にエア混入<br>○燃料フィルタのつまり<br>○燃料が供給されない<br><br>○エンジン本体の不具合 | ○エア抜きを行う<br>○フィルタの清掃または交換<br>○燃料フィルタのコックを開いて燃料を送る<br>○「お買いあげ先」で修理 |
| | エンジン回転が不規則である | ○燃料系統エア混入<br>○燃料フィルタのつまり<br>○噴射ノズルのつまり<br>○パイプ系の燃料もれ<br>○燃料噴射の不揃い<br>○燃料ポンプの作動不良 | ○エア混入ヶ所の修理<br>○燃料フィルタの清掃又は交換<br>○「お買いあげ先」で修理<br>○「お買いあげ先」で修理<br>○「お買いあげ先」で修理<br>○ヒューズの点検 |
| | エンジンを低速にすると停止する | ○インジェクション・ポンプの不良<br>○エンジンのバルブ・クリアランス不良<br>○ノズル不良 | ○「お買いあげ先」で修理<br>○「お買いあげ先」で修理<br>○「お買いあげ先」で修理 |

| 故障状況 | | 原因 | 処置 |
|---|---|---|---|
| エンジン関係 | 運転中エンジンオイル圧力警告灯が点灯する | ○エンジン・オイル量が少ない<br>○エンジン・オイルの粘度が低い<br>○プレッシャ・スイッチの故障<br>○オイル・ポンプの故障<br>○オイル・フィルタ・エレメント目づまり | ○規定量まで補給<br>○適性粘度のオイル交換<br>○「お買いあげ先」で修理<br>○「お買いあげ先」で修理<br>○エレメントを交換 |
| | 運転中にバッテリチャージ警告灯が点灯する | ○配線の故障<br>○オルタネータの不良<br>○バッテリの不良又は精製水不足<br>○ファン・ベルトのゆるみまたは破損<br>○スローブローヒューズの断線 | ○「お買いあげ先」で修理<br>○「お買いあげ先」で修理<br>○バッテリの交換または精製水の補給<br>○張り調節または「お買いあげ先」で修理<br>○配線チェックしスローブローヒューズを交換する |
| クラッチ関係 | クラッチがすべる | ○ペダルの調整不良<br>○クラッチ・ライニングの摩耗・焼損 | ○ペダルの遊び、踏みしろ調整<br>○「お買いあげ先」で修正または交換 |
| | クラッチが切れない | ○クラッチ・ライニングの摩耗<br>○ペダルの調整不良 | ○「お買いあげ先」で修理<br>○ペダルの遊び、踏みしろ調整 |
| ブレーキ関係 | ブレーキのききが悪い | ○ブレーキ・ペダルの遊びが多すぎる<br>○ライニング摩耗 | ○遊び量を調整する<br>○「お買いあげ先」で修理 |
| | ブレーキ・ペダルの戻りが悪い | ○ブレーキ戻しスプリングの損傷<br>○各摺動部のグリース切れ | ○「お買いあげ先」で修理<br>○錆を落しグリース注入 |

| | 故障状況 | 原因 | 処置 |
|---|---|---|---|
| エンジン関係 | エンジンが過回転する | ○ガバナにゴミ等がつまっている<br>○オイル上がり | ○「お買いあげ先」で修理<br>○「お買いあげ先」で修理 |
| | 運転中エンジンが突然停止した | ○燃料不足<br>○エンジンオイル不足<br>○ノズル不良<br>○オイル不足または潤滑不良によるエンジン焼付<br>○ファンベルトを引張ってクランクプーリが動けば燃料不足か、ノズル不良の場合が多い | ○燃料補給とエア抜きを行う<br>○エンジンオイル補給<br>○「お買いあげ先」で修理<br>○「お買いあげ先」で修理 |
| | エンジンが過熱する | ○冷却水の不足<br>○ファンベルトのゆるみ、破損<br>○ラジエータの目づまり<br>○エンジン・オイル不足 | ○冷却水を補給する<br>○ベルトの張り調節または「お買いあげ先」で修理<br>○清掃する<br>○点検・補給 |
| | エンジンの排気色が白い | ○エアクリーナがつまっている<br>○エンジン・オイル量が多すぎる<br>○燃料供給量の不足 | ○エレメントの清掃<br>○点検し適性量にする<br>○「お買いあげ先」で修理 |
| | エンジンの排気色が黒すぎる | ○燃料が正規のものでない<br>○燃料の供給過剰<br>○ノズル圧力の不足 | ○正規の燃料に入れかえる<br>○「お買いあげ先」で修理<br>○「お買いあげ先」で修理 |
| | エンジンの出力不足 | ○ノズルの焼付、つまり及びカーボンがたまっている<br>○圧縮圧力の不足、バルブ・シート部よりガスもれ<br>○バルブ・クリアランス調整不良<br>○噴射時期不良<br>○燃料不足<br>○エアクリーナのつまり | ○「お買いあげ先」で修理<br>○燃料系統をチェックする<br>○エレメントを清掃する |

| | 故障状況 | 原因 | 処置 |
|---|---|---|---|
| ステアリング関係 | ステアリングが重い | ○ライニングの摩耗<br>○ベアリングの不良 | ○「お買いあげ先」で修理 |
| 油圧関係 | 作業機が上がらない | ○エンジンの回転数不足<br>○ミッションオイル不足<br>○吸入パイプ系統からエアを吸い込む<br>○オイルフィルタのつまり<br>○油圧ポンプの故障<br>○コントロール・バルブの故障<br>○シリンダの破損 | ○回転数1,000～1,500rpmで使用する<br>○規定量まで補給する<br>○取付部を増し締めし、パイプに亀裂が発生していたり、Oリングが破損していれば交換<br>○「お買いあげ先」で交換<br>○「お買いあげ先」で修理<br>○「お買いあげ先」で修理<br>○「お買いあげ先」で交換 |
| | 配管から油もれする | ○各部ジョイントのゆるみ<br>○パイプの亀裂 | ○増し締めを行なう<br>○「お買いあげ先」で交換 |
| | 作業機が下がらない | ○油圧降下速度調節つまみがロック位置になっている<br>○コントロール・バルブの故障<br>○シリンダの破損 | ○つまみを反時計方向に回す<br>(57ページ参照)<br>○「お買いあげ先」で修理<br>○「お買いあげ先」で交換 |
| 電装関係 | バッテリが充電されない | ○スローブローヒューズの断線<br>○配線の故障<br>○オルタネータの不良<br>○ファンベルトのゆるみまたは破損<br>○バッテリの機能不良 | ○配線チェック後にスローブローヒューズの交換<br>○「お買いあげ先」で修理<br>○「お買いあげ先」で修理<br>○張り調節または「お買いあげ先」で修理<br>○端子のゆるみ、腐蝕、電解液の不足などを修正する |

| 故障状況 | | 原因 | 処置 |
|---|---|---|---|
| 電装関係 | ヘッドランプが暗い | ○バッテリの充電不足<br>○結線、接触不良 | ○充電する<br>○アース及びターミナルの点検清掃及び増し締め |
| | ヘッドランプが点灯しない | ○電球の断線<br>○ヒューズの断線<br>○接触不良 | ○電球交換<br>○配線をチェックしヒューズを交換する<br>○アース及びターミナルの点検清掃 |
| | ホーンが鳴らない | ○ホーンボタンの故障<br>○配線不良<br>○ホーンの損傷 | ○「お買いあげ先」で修理<br>○「お買いあげ先」で修理<br>○「お買いあげ先」で修理 |
| | ウインカが点滅しない | ○電球切れ<br>○フラッシャユニットの故障<br>○接触不良 | ○電球を交換する<br>○「お買いあげ先」で修理<br>○アース及びターミナルの点検清掃 |
| | システム異常表示灯が点灯または点滅する | ○暖機運転の不足<br>○オイルフィルタの目づまり<br>○回転センサの不良<br>○ステアリングセンサの不良<br>○システム初期化不良 | ○十分暖機する<br>○オイルフィルタの洗浄・交換<br>○「お買いあげ先」で修理<br>○「お買いあげ先」で修理<br>○「お買いあげ先」で調整 |
| | ステアリングを回しても方向制御できない | | |
| 水平制御関係 | 水平手動スイッチを操作しても動かない | ○ヒューズの断線<br>○バルブ配線のはずれ<br>○配線の不良<br>○バルブゴミ詰り | ○配線をチェックし、ヒューズを交換する<br>○カプラを接続<br>○サービス工場で修理または交換<br>○サービス工場で修理または交換 |
| | 水平切換スイッチを「平行」にしても平行にならないない | ○ストロークセンサアームはずれ（TPC153・2P仕様）<br>○ストロークセンサ調整不良 | ○アームを組付ける<br>○サービス工場で修理または交換 |
| | 水平切換スイッチを「自動」にしてもロータリが水平にならない | ○傾き調整ダイヤルの調整不良<br>○スロープセンサの不良<br>○システムの初期化不良<br>○配線の不良 | ○フルクローラを平たんな所に置いて、ロータリが地面と水平になる様に調整してください。<br>○サービス工場で修理または交換<br>○サービス工場で調整<br>○サービス工場で修理または交換 |

| 故障状況 | | 原因 | 処置 |
|---|---|---|---|
| ロータリ関係 | ジョイント鳴きの発生 | ○スプライン部等の摩耗によるガタ | ○交換 |
| | 注油キャップ部よりの油漏れ | ○オイル量の調整不良 | ○点検・調整 |
| | ギヤ音の発生 | ○噛み合い不良 | ○サービス工場で修理 |
| | 残耕の発生 | ○耕うん爪の摩耗<br>○耕うん爪の変形 | ○交換<br>○修理または交換 |
| | 耕うん時の異音・振動 | ○爪取付ボルトのゆるみ<br>○爪配列不良<br>○特殊耕うん爪の使用 | ○増締め・調整<br>○爪配列の点検調整<br>○交換（純正品の使用） |
| | 土寄りがする<br>整地・均平性が悪い | ○爪配列不良 | ○爪配列の点検・調整 |
| | | ○リヤカバーの押え力不良 | ○加圧スプリングの調整 |
| | | ○リヤカバーの変形 | ○修理または交換 |

## ■推奨潤滑油一覧表

| 区分 | メーカ名 | 商品名 | 出荷時充填油 |
|---|---|---|---|
| エンジンオイル ディーゼル | 井関農機 | ヰセキ・ディーゼル・エンジン・オイル<br>（20ℓ缶：7019-005-300-00<br>4ℓ缶：7019-005-400-00）<br>他有名メーカのグレードCC級以上使用 | ○ |
| ミッションケース ギヤーオイル | 井関農機 | ヰセキU・T・Hオイル<br>（20ℓ缶：7019-019-300-00<br>4ℓ缶：7019-019-400-00） | ○ |
| 一般グリース | 協同油脂 | ユニルーブNo.2<br>他有名メーカのリチューム系一般グリース | ○ |
| 燃料 | 有名メーカー品 | ディーゼル軽油<br>JIS2号～3号（3号は厳寒時） | ○ |
| 不凍液 | モービル石油<br>シェル石油<br>他有名メーカ品を使用 | モービルロングライフクーラント（L.L.C）<br>アンチフリーズ | ○ |
| ロータリ部 オイル | 井関農機 | ヰセキハイポイドギヤオイル・＃140<br>（20ℓ缶：7019-003-300-00<br>4ℓ缶：7019-003-400-00） | ○ |

## ■主要諸元表（フルクローラ）

| 名称 | | | TPC153 | | TPC183 | TPC213 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 型式名 | | | ヰセキ TPC153 | | ヰセキ TPC183 | ヰセキ TPC213 |
| 駆動方式 | | | ゴムクローラ | | | |
| 型式 | | | CSXZ | CSXZP1 | CSXZP1 | CQXZP1 |
| 機体寸法 | 全長 (mm) | | 2,145 | 2,460 | | 2,570 |
| | 全幅 (mm) | | 1.200 | 1.200 | | 1.200 |
| | 全高 (mm) | | 1,950 | 1,950 | | 1,950 |
| | 最低地上高 (mm) | | 360 | 360 | | 360 |
| 機体重量 (kg) | | | 780 | 810 | 870 | 950 |
| エンジン | 型式名 | | E383B01 | | E3112B20 | E3112UB28 |
| | 種類 | | 水冷4サイクル3気筒ディーゼル | | | |
| | 総排気量 (L) | | 0.831 | | 1.123 | 1.123 |
| | 出力 (kW{PS/rpm}) | | 11 {15} /2,500 | | 12.7 {17.3} /2,500 | 15.4 {21.0} /2,500 |
| | 使用燃料 | | ディーゼル軽油JIS2号・3号（3号は北海道厳寒時） | | | |
| | 燃料タンク容量 (L) | | 13 | | 21 | 21 |
| | バッテリ (V・Ah) | | 12V・28Ah | | | |
| 走行部 | クローラ 幅×接地長 (mm) | | 330×1240 | 330×1450 | | |
| | クローラ 中心距離 (mm) | | 870 | | | 870 |
| | クローラ 平均接地圧 {kg/cm²{KPa}} | | 0.09 {8.8} | | | 0.099 {9.7} |
| | クラッチ型式 | | 湿式多板 | | | |
| | ブレーキ型式 | | 湿式ディスク | | | |
| | かじ取り方式 | | 遊星クラッチ電子制御方式 | | | |
| | 変速方式 | | 常時噛み合い、選択噛み合い式併用 | | | |
| | 変速段数 | | 前進8段・後進8段 | | | |
| | 走行速度 (km/h) | 前進 | 0.4～8.0 | | | |
| | | 後進 | 0.3～5.7 | | | |
| 旋回条件 | | ブレーキターン | 低1～4速、高1速 | | | |
| | | スピンターン | 低1～4速（スイッチによる選択） | | | |
| PTO | 回転数 (rpm) | | 466、666 (逆転563) | 456、567、666 (逆転558) | 456、555、652 (逆転550) | 468、555、651 (逆転545) |
| | 軸寸法 (mm) | | 6スプライン軸径35mm | | | |
| けん引装置 | | | 固定ヒッチ（注文部品） | | | |
| 作業機昇降装置 | | 制御方式 | セレクトコントロール | | | ポジションコントロール |
| | | 装着方式 | 2P | 3P | | |

## ■主要諸元表（ロータリ）

この仕様は改良のため、予告なく変更することがあります。

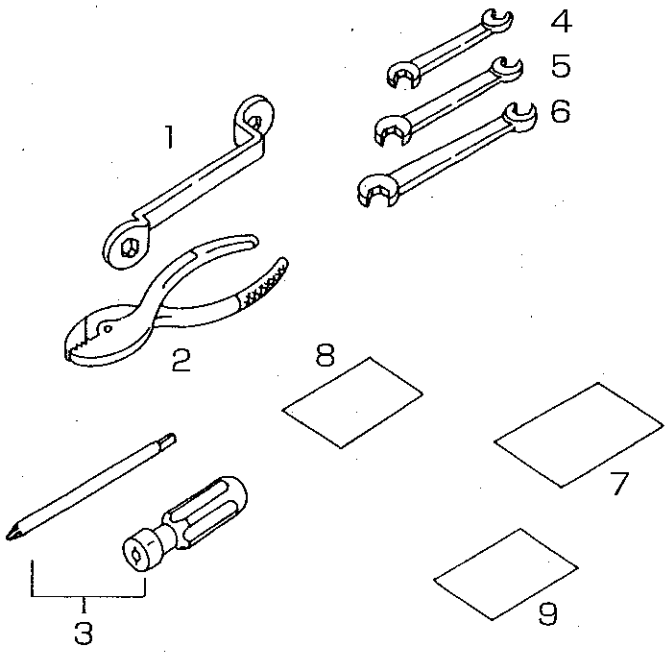
| 名称 | | ARP14 | ARP15 | ARP15−3 | ARP16−3 |
|---|---|---|---|---|---|
| 駆動方式 | | サイドドライブ | | | |
| 機体寸法 | 全長 (mm) | 995 | | 775 | 900 |
| | 全幅 (mm) | 1,515 | 1,615 | | 1,770 |
| | 全高 (mm) | 570 | | 885 | 920 |
| 重量 (kg) | | 115 | 125 | 137 | 160 |
| 適応フルクローラ | | TPC153 | | TPC153-P1<br>TPC183-P1 | TPC213-P1 |
| 装着方式 | | 2Pリンク方式 | | 特殊4Pリンク方式 | |
| 標準耕幅 (cm) | | 140 | 150 | | 160 |
| 標準耕深 (cm) | | ～16 | | | |
| 爪軸回転数 (rpm) | | 210・300 | | 205, 250, 294 | 211, 251, 294 |
| 耕うん爪外径 (cm) | | 40 | | | 45 |
| 耕うん爪取り付け方法 | | ホルダタイプ | | | |
| 耕うん爪取り付け方法 | | C167（L）（R）各16<br>C168（L）（R）各1 | | | C140(L)(R)各17<br>C149(L)(R)各1 |

## ■走行速度表（km/h）

| 方向 | 副変速 | 主変速 | TPC153, TPC183, TPC213 |
|---|---|---|---|
| 前進 | 低速 | 1 | 0.4 |
| | | 2 | 0.9 |
| | | 3 | 1.4 |
| | | 4 | 1.6 |
| | 高速 | 1 | 2.0 |
| | | 2 | 4.3 |
| | | 3 | 6.3 |
| | | 4 | 8.0 |

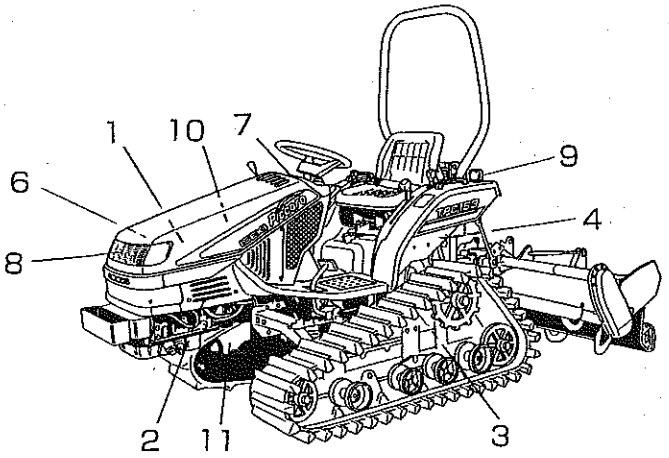
後進の車速は表の約0.7倍です。

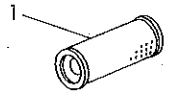
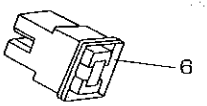
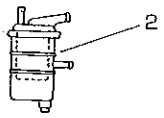
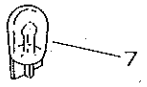
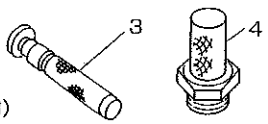
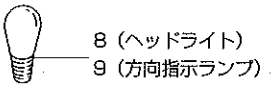
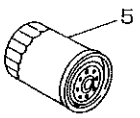
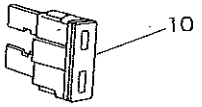
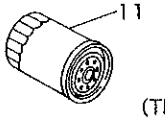
## ■付属品工具一覧表




| 番号 | 品　　名 | 個数 |
|---|---|---|
| 1 | メガネレンチ (17-19) | 1 |
| 2 | プライヤ | 1 |
| 3 | サシカエドライバ　ASSY | 1 |
| 4 | リョウクチスパナ (マル) 10×12 | 1 |
| 5 | リョウクチスパナ (マル) 14×17 | 1 |
| 6 | リョウクチスパナ (マル) 19×22 | 1 |
| 7 | 取扱説明書 | 1 |
| 8 | 保証書 | 1 |
| 9 | 愛用者カード | 1 |

## ■主な消耗部品一覧表




| | |
|---|---|
| エアクリーナ<br>エレメント  | スローブローヒューズ  |
| 燃料フィルタ  | モニタランプ、メータ照明  |
| オイルフィルタ  (TPC153) | 電球  |
| エンジンオイルフィルタ<br>カートリッジ  | ヒューズ  |
| | ミッション<br>オイルフィルタ<br>カートリッジ  (TPC213) |

| 図　番 | 品　　名 | 品　　番 |
|---|---|---|
| 1 | エレメントASSY | 1675-104-213 |
| 2 | フィルタ（フュエル）ASSY | 6213-200-009 |
| 3 | フィルタ（サクション）ASSY | 1724-509-360（TPC153） |
| 4 | フィルタ（500メッシュ）ASSY | K200-113-100（TPC153） |
| 5 | カートリッジ（オイルフィルタ） | 6213-240-004 |
| 6 | ヒューズ（スローブロー）40A | 1650-650-222 |
| | ヒューズ（スローブロー）50A | 1729-652-232（TPC183・213） |
| 7 | バルブ（ランプ、12V　3.4W） | 3650-270-214 |
| 8 | バルブ（ランプ、12V　23W） | 1426-621-002 |
| 9 | バルブ（ランプ、12V　21W） | 1564-654-213 |
| 10 | ヒューズ（ブレード/32V、15A） | 1575-623-001（TPC153・183） |
| | | 3821-262-203（TPC213） |
| | ヒューズ（ブレード/32V、5A） | 3824-247-202 |
| 11 | フィルタ（サクション/10）ASSY | 1758-509-500（TPC213） |

# 注文部品一覧

トラクタ本体装備の注文部品の一覧を示します。
この他、キセキでは、いろいろな種類の作業に適応できる作業機/アタッチメントを取り揃えております。
詳しくは、「お買い上げ先」にお問い合わせください。

| | 商品コード | 品　　名 | 用　途・仕　様 |
|---|---|---|---|
| フルクローラ関係 | 1614-922-200-10 | ウエイト（15）　SET | バンパウエイト1個、15kg（最大4個まで装着可能） |
| | 1703-661-200-10 | ランプ（ワーキング）　SET | 作業灯（TPC153・183専用） |
| | 1724-924-200-00 | バックアップ　SET | 後進時作業機が自動的に上がります。（2P仕様専用） |
| | 1724-930-200-00 | リンク（トップ）　SET | 一般作業機（標準3P）の装着ができます。（3P仕様専用） |
| | 1724-922-200-10 | ﾌﾞﾗｹｯﾄ(ｳｪｲﾄ/LH)　COMP | ウェイトをバンパの左右に取付できます |
| | 1724-922-210-10 | ﾌﾞﾗｹｯﾄ(ｳｪｲﾄ/RH)　COMP | |
| ロータリ関係 | 7855-505-500-00 | ホイール（ゲージ/14）　SET | ARP14用尾輪、スライドヒッチのSET（2P仕様専用） |
| | 7855-505-600-00 | ホイール（ゲージ/15）　SET | ARP15用尾輪、スライドヒッチのSET（2P仕様専用） |
| | 7855-506-200-00 | スタンド　SET | 尾輪付仕様のロータリに装着するスタンド（2P仕様専用） |
| | 7847-301-210-00 | ナタバ（36）　SET | 耕うんナタバのSET（ARP16用） |
| | 7855-301-520-00 | ナタバ（34/M10×28）　SET | 耕うんナタバと取付けボルトのSET（ARP14・15用） |
| | 7855-505-800-00 | ホイール（ゲージ/15）　SET | ARP15用尾輪、スライドヒッチのSET（3P仕様専用） |
| | 7868-505-200-00 | ホイール（ゲージ/16）　SET | ARP16用尾輪、スライドヒッチのSET |
| | 7855-506-320-00 | キャスタ　SET | スタンドに後付けするキャスタのSET（3P仕様専用） |

## 純正部品を使いましょう

補修用部品は、安心してご使用いただける純正部品をお買い求めください。
市販類似品をお使いになりますと、機械の不調や、機械の寿命を短くする原因になります。

## 純正アタッチメントを使いましょう

純正アタッチメントは、一番よくマッチするように研究され、徹底した品質管理のもとで生産・出荷していますので、安心して使っていただけます。
市販類似品をお使いになりますと、作業能率の低下や機械の寿命を短くする原因になります。

**取扱い方法、手入れの仕方、故障修理などお困りのときは、購入先へご相談ください。**

●ここにメモされておくと後々便利とおもいますので、ぜひ記入しておいてください。

| | | |
|---|---|---|
| 購入先名 | 担当者名 | 電話<br>(　　)　　－ |
| 御購入日<br>平成　　年　　月　　日 | 型式 | 区分 |
| 車台番号（本機番号） | エンジン番号 | 同時購入作業機 |

人と大地のハーモニー ISEKI

# 井関農機株式会社

## ISEKI & CO., LTD.


営業本部　〒116-8541 東京都荒川区西日暮里5丁目3番14号 ☎03-5604-7618
（FSビル）
北海道支店　〒068-0005 岩見沢市５条東１２丁目５番地 ☎0126-22-2666
東北支店　〒989-2421 宮城県岩沼市下野郷字新南長沼1-2 ☎0223-24-1111
関東センター　〒300-2346 茨城県つくばみらい市青木560 ☎0297-58-5131
関西センター　〒523-0016 滋賀県近江八幡市千僧供町字大橋602 ☎0748-37-3831
中国支店　〒739-0024 広島県東広島市西条町御薗宇727-2 ☎0824-23-9883
四国支店　〒799-3101 愛媛県伊予市八倉１２０－１ ☎089-983-5677
九州支店　〒861-2297 熊本県上益城郡益城町大字安永1400 ☎096-286-4020
部品部　〒799-2692 愛媛県松山市馬木町７００ ☎089-979-4114


1758-912-001-3E